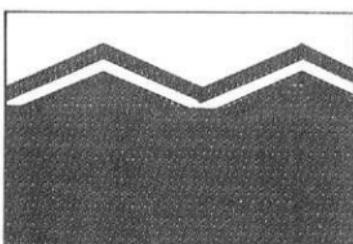
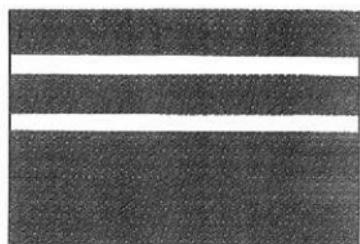


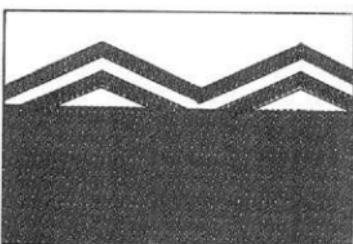
I a 文様帶



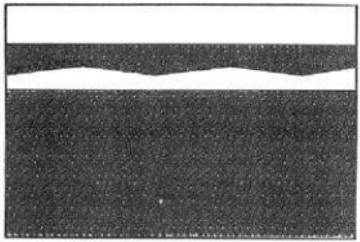
III a 文様帶



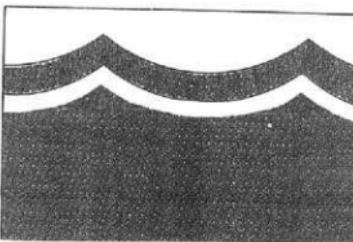
I b 文様帶



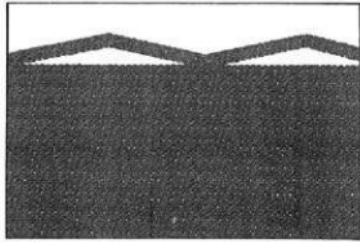
III b 文様帶



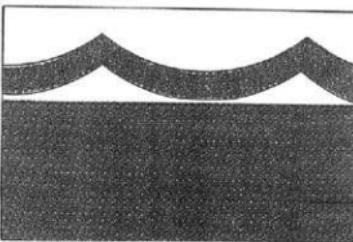
II a 文様帶



IV a 文様帶



II b 文様帶



IV b 文様帶

第48図 ループ施文による無文区画の文様帶模式図(1)

く含まれていることから、可能な限り推測、分類し、文様帶の復元を試みるものである。ただし、完形土器が少ないこともあって、破片をもとに文様帶を図上復元したものもあり、必ずしも文様帶の構成が妥当とは限らないことを付け加えておきたい。

第Ⅰ次～第Ⅶ次調査全体の出土土器を分析した結果、下記の10文様帶、36種を復元することができた。

### 1) I類文様帶『第48図』

ループ施文を全面に施し、口縁部から胴上部付近にかけ直線状の無文区画を配するグループで、二通りが含まれる。第Ⅰ次調査の36図-19を代表に、Ⅳ次～Ⅶ次調査にかけて10点が認められている。

- I a類=一条の無文帶を配するもので、胸部文様帶として用いられたものと考えられる。

第Ⅰ次が1点、Ⅳ次・Ⅵ次・Ⅶ次調査より各2点の計7点がある。

『第36図-19、第37図-12、第222図-5、第256図-2・14、第266図-12・13』

- I b類=二条以上の無文帶を配置するもので、口縁部から胴部文様帶として用いられたものとみられる。第Ⅰ次・Ⅳ次・Ⅴ次調査より、各1点の3点が認められた。

『第40図-8、第221図-5、第244図-8』

### 2) II類文様帶『第48図』

波状及び横長の三角形状の無文区画を配するグループで、波状口縁を有する深鉢形土器の口縁部文様に主に用いられる。この仲間は、第Ⅰ次調査の5点を始め、第Ⅲ次・Ⅳ次・Ⅵ次調査から各1点の計8点が認められた。文様帶の構成より二種類に分ける。

- II a類=横長の三角形文を接続したような文様構成で、上部が緩やかな山形を示し、下部は直線状となっているのが特徴となる。この仲間の一部には、沈線文で区画するものも含まれる。第Ⅳ次調査より1点検出されている。『第229図-12図』

- II b類=横長の三角形を1単位としたもので、波状口縁の文様帶として配置する場合が多い。第Ⅰ次調査5点、Ⅲ次調査・Ⅵ次調査各1点の計7点がある。

『第29図-1、第38図-8、第39図-6、第31図-11、第42図-1、第210図-2、第257図-1』

### 3) III類文様帶『第48図』

幅の狭い帯状の無文区画を山形状に構成するもので、波状口縁の文様帶として多く用いられ

る手法のグループであり、2類に分けられる。第Ⅰ次調査のみから2点確認されている。

- ・Ⅲa類=波状口縁に沿って山形状の無文区画を連続するもので、1点が認められた。『第32図-30』
- ・Ⅲb類=波状口縁に沿って山形状の無文区画を配置した下方に三角形文を組み合わせて構成するもので1点ある。『第32図-10』

#### 4) IV類文様帯『第48図、第49図』

基本的には先のⅢ類と類似しているが、直線状ではなく円弧状の無文区画を横方向に転回することで区別される。この仲間を有する深鉢形土器の多くは、発達した波状口縁を示すものが多い。文様構成の違いから次ぎの3類に分けられる。

- ・IVa類=帯状の無文区画を口縁部に沿って円弧を有しながらに波状に転回するものと考えられ、第Ⅰ次調査の第36図-11が近いものとみられる。『第36図-11?』
- ・IVb類=基本的にはIVa類に類似しているが、無文区画の下辺部を直線状にすることで三角形状の文様構成を示している。第Ⅰ次調査に1点存在する。『第36図-21』
- ・IVc類=IVb類の無文区画を幅広く開け、中央部分にIVa類の文様帯によるループを配置することによって、交互の円弧波状を描いている。この仲間には、ループによる無文区画の他に突刺文による同形態の文様としても存在している。第Ⅳ次・V次調査から各1点の2点が認められている。

『第221図-20、第252図-4』

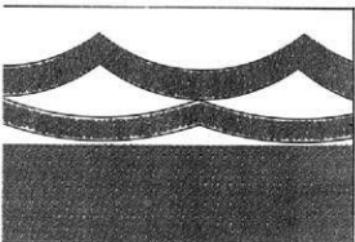
#### 5) V類文様帯『第49図』

先のI類の無文区画の中央部にループ施文を帯状に山形文を連続させることによって、所謂三角形状の無文区画を交互に配置した文様構成を示している。

この仲間には文様配置の微妙な相違より3類に細別する。この種の文様構成を有する土器の多くは、胸部文様帯として描かれているものが特徴である。

第Ⅰ次・Ⅳ次調査より各3点の計6点がある。

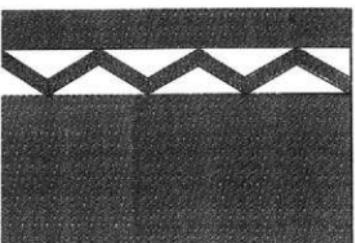
- ・Va類=帯状の無文区画の上下に接するように山形状のループ施文帯を配置することによって、横長の三角形状無文帯を構成するもの。ループ文としては認められていないが、突刺文で構成する第36図-1に近いものを予想している。
- ・Vb類=a類と基本的には同形態であるが、山形状のループ施文帯が狭く無文帯を幅広く



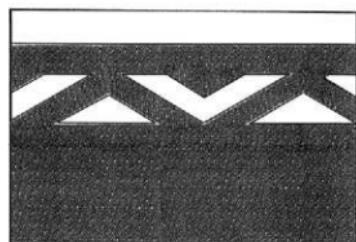
IV c 文様帶



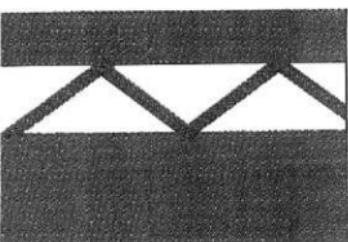
VI a 文様帶



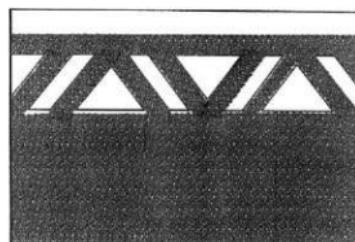
V a 文様帶



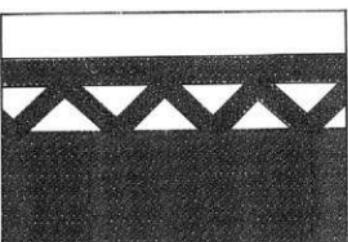
VI b 文様帶



V b 文様帶



VI c 文様帶



V c 文様帶



VI d 文様帶

第49図 ループ施しによる無文区画の文様帶模式図(2)

設定することによって大きい三角形状無文区画を示すことから、あえて区分した。

この種の文様帶に関しては中央を埋めるループ文の他に単節斜繩文や結束繩文で区画するものも含まれる。第Ⅳ次調査に1点認められる。『第224図-20』

- Vc類=中央の帯状無文帶を埋める山形状のループ施文帶を空間の内外に接続することによって、ほぼ正三角形状の無文区画を構成するもので、ループ施文帶が先のa類・b類に比べ広いのが特徴となる。この文様を示す仲間には、突刺文を用いた同形態の文様構成も含まれている。第Ⅰ次調査に3点、第Ⅳ次調査に2点の5点が確認された。

『第31図-2、第38図-3、第41図-11、第51図、第229図-15』

#### 6) VI類文様帶『第49図』

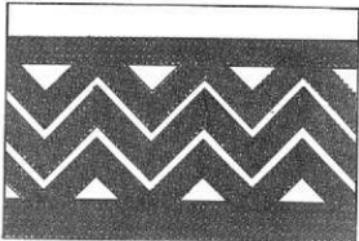
いつかの無文帶を組み合わせて文様を構成するグループで、「ハ」字状・「V」字状・「M」字状・「リ」字状等の無文帶によるものを一括した。この仲間の文様としては、主に胴部文様帶として配置されるものが大半で文様構成より次ぎの4種類に分類される。第Ⅰ次・Ⅳ次調査で5点ある。

- VIa類=細長い並行四辺形を斜位に食違とした2単位を横に展開するもので、ここでは「リ」字状文としておく。胴上部の文様帶として配置される。この文様構成には沈線文Aで構成するものも含まれている。第Ⅰ次調査に1点認められる。『第324図-18』

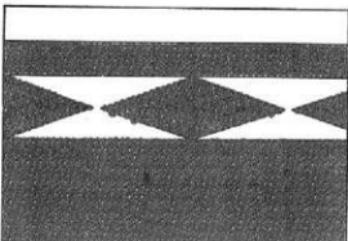
- VIb類=先のVI類に近い文様構成で、中央の帯状無文帶を埋める山形状のループ施文帶を配置してから上部の三角形状の無文帶の上端に三角形にループ施文を施して「V」字状の無文区画を横に配置する。従って上部は「V」字状、下部は三角形状の無文区画を置き、交互に展開させて文様を構成するのが特徴となる。第Ⅰ次調査に1点存在する。『第40図-5』

- VIc類=中央の空間帶にループ文による「V」字状の施文帶を交互に配置することによって「ハ」字状と三角形及び逆三角形状の無文区画を交互に組合せた文様を展開している。第Ⅰ次調査に1点認められた。『第222図-4』

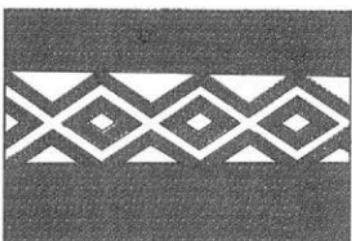
- VID類=中央の空間帶にループ文による「三角形」・「V」字状・「M」字状を二段に配置することによって三角形状・連続「M」字・2単位の三角形状の無文区画による複雑な文様を構成している。第Ⅰ次調査に2点認められた。『第51図、第228図-5』



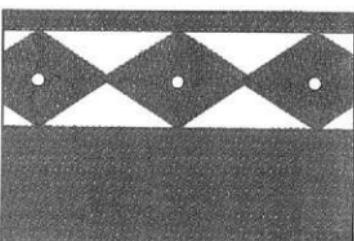
VII a 文様帶



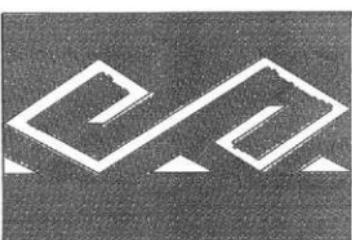
VIII a 文様帶



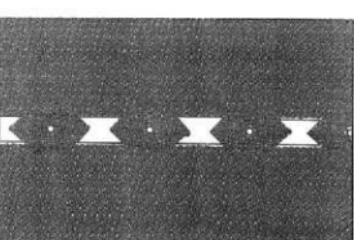
VII b 文様帶



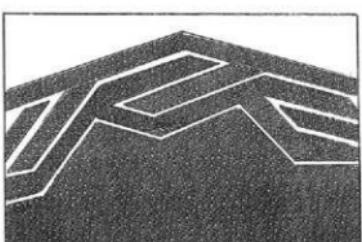
VIII b 文様帶



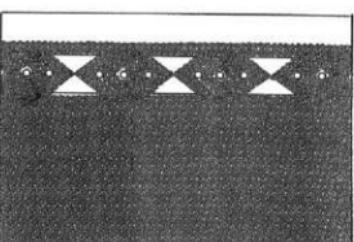
VII c 文様帶



VIII c 文様帶



VII d 文様帶



VIII d 文様帶

第50図 ループ施文による無文区画の文様帶模式図(3)

#### 7) VII類文様帶『第50図』

主に深鉢形土器の胸部文様帶の手法として描かれる。三角形状や方格、山形状を複雑に配したグループで大きく無文帯を残した内部に複数の割付けを施して文様帶を構成する仲間を一括した。第Ⅰ次・Ⅳ次・V次調査より6点が検出されている。この仲間としては、次ぎの4種類がある。

- VII a 類=中央の空間帶に山形状のループ施文帯を3条連続させることによって、上下に連続する三角形状無文区画を置き、さらにその間を埋めるように並行する2条の山形無文帯が横位に展開する文様を構成している。第Ⅰ次・Ⅳ次調査から各1点が認められている。

#### 『第32図-25, 第51図』

- VII b 類=中央の空間帶にループ文による山形状のループ施文帯を上下に配置し、その中间に菱形のループ施文帯を施すことによって山形状の無文区画と重複形状の文様帶を構成している。第Ⅳ次・V次調査から各1点の計2点が認められている。

#### 『第229図-13, 第224図-9』

- VII c 類=この仲間だけが空間帶を設置しないで無文区画を施すもので、方格の「S」字状文を横位に展開したものに下部にのみ三角形状無文区画を配置している。基本的にはループ施文にて無文区画を構成するものと考えられるが、一部にはループ施文を消して無文区画を描いているものもあり、所謂「磨消繩文」の手法が部分的に成立していた可能性も指摘されるものとして注目される。

#### 第Ⅰ次調査に1点が存在する。『第40図-9』

- VII d 類=波状口縁を有する口縁部文様帶にみられるもので、c 類から発達したものと考えられる。第Ⅰ次調査に1点存在する。『第32図-8』

#### 8) VIII類文様帶『第50図, 第51図』

深鉢形土器の胸部文様帶として主に用いられるものであり、三角形状無文区画を上下に置くことによって中央に菱形状のループ施文を横位に展開する仲間で5のグループに分けられる。第Ⅰ次・V次調査出土土器に集中し、12点が検出されている。

- VIII a 類=中央の空間帶にループ文による菱形状にループ施文を施すことによって上下に接した三角形状無文帯を構成している。第V次調査を中心に3点、Ⅰ次調査に1点の4点が認められた。

#### 『第144図版-73, 第32図-8, 第252図-10, 第252図-13』

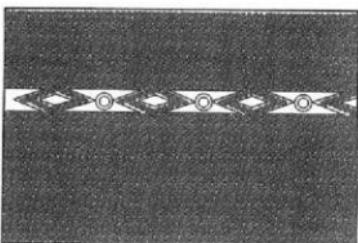
- VII b 類=a 類とほぼ同形態であるが、文様の上限の幅が広く、菱形を有するループ施文の中央に竹管状の突刺文を施すのが特徴であり、沈線文Aによる単位文様として描かれるのも特徴である。第I次調査のみに5点認められる。  
『第28図-2, 第32図-22?, 第32図-24, 第41図-4, 第41図-8?』
- VII c 類=中央の空間帯を狭くすることによってa 類・b 類でみられる三角形無文区画を接続したもので、臼状の单一の無文区画を構成している。形態的にはb 類と同様の菱形を有するループ施文の中央部に竹管文を示すことからb 類の変形文様と位置付けることも可能である。第I次調査に1点存在する。『第40図-9』
- VII d 類=本類もb 類の変形の文様で、三角形状無文区画の間隔を開けることによって菱形を有するループ施文部分を構成し、広げ、中央部に3単位の竹管文を並列するのを特徴とする。第I次調査の半完形土器『第28図-2』の口縁部文様として描かれた1点がある。
- VII e 類=先のd 類の変形と考えられるもので、これまでの無文帯をループ施文で区画するものではなく、沈線文で描いた後にループ文を加えている。本類は三角を接合した中央に同心円を置き、左右の菱形文を二重に区画するのが特徴となる。第I次調査の半完形土器『第29図-3』の胸部文様としての1例がある。

#### 9) K類文様帯『第51図』

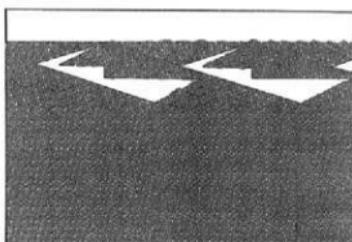
その他の無文区画を一括したもので、所謂「無文帯」文様として成立するのかは難しいが、今回の土器群には第I次・V次調査より6点検出されている。

一応、3のグループに分けた。

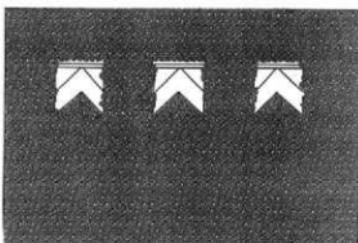
- K a 類=沈線文で区画したものであり、縦位の矢羽状の単位文様を横に配列したものである。第V次調査に1点がある。『第244図-6』
- K b 類=斜位と横位の三角形状の文様を複合させた無文帯を横に展開させるのが特徴で、口縁部文様帯として用いられる。第I次調査に1点がある。『第38図-11』
- K c 類=ループ施文の後に横位に展開したコンバス文をこの類としたもので、口縁部文様帯と胸部文様帯との区画文様として用いられる場合が多い。第I次調査に4点とV次調査に各2点の計6点がある  
『第35図-6, 第37図23~25, 第224図-2, 第224図-7』



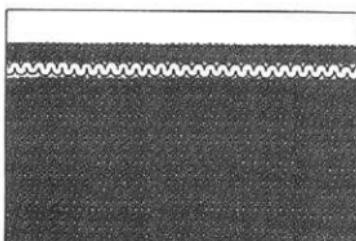
VII e 文様帶



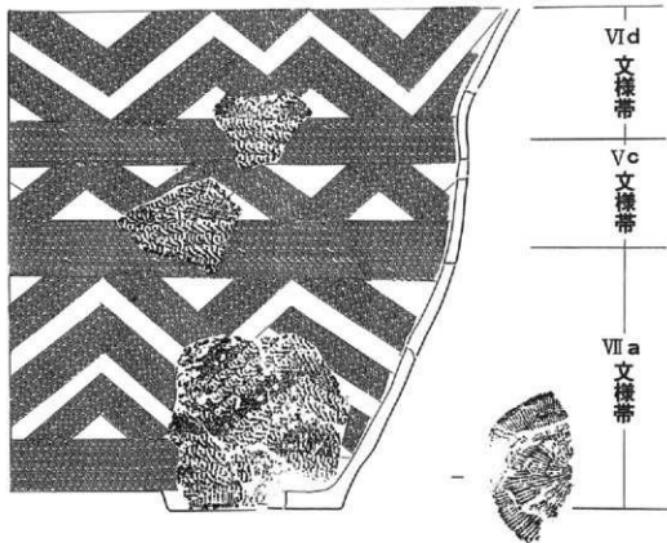
IX b 文様帶



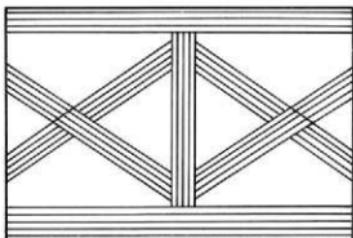
IX a 文様帶



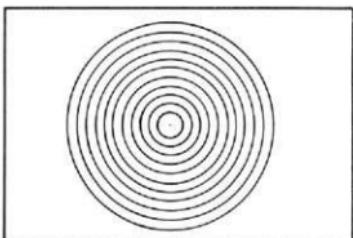
IX c 文様帶



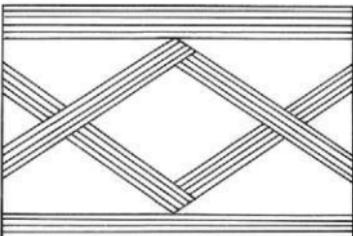
第51図 ループ施文による無文区画の文様帶模式図(4)



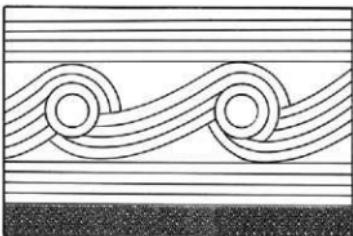
X a' 文様帯



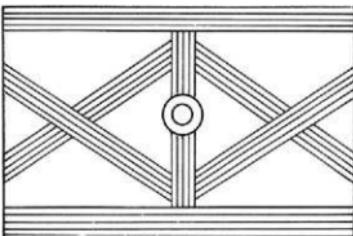
X c 文様帯



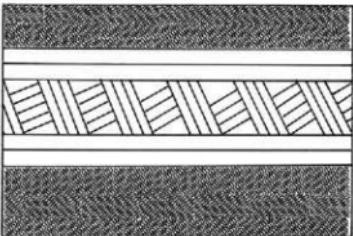
X a'' 文様帯



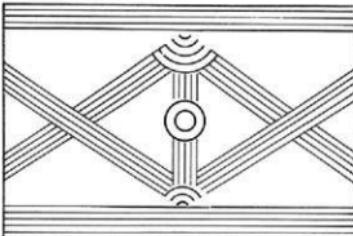
X d 文様帯



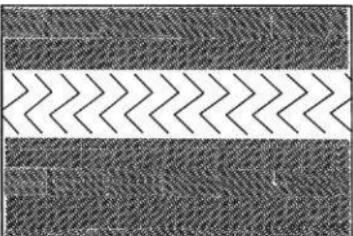
X b' 文様帯



X e 文様帯



X b'' 文様帯



X f 文様帯

第52図 沈線文・突刺文等による文様帯模式図

## 10) X類文様帶『第52図』

沈線文及び突刺文等の工具によって文様を区画するもので、無文区画を有する文様帶とは基本的には異なるが、あえて加えた。次の8グループが一ノ坂遺跡では分類される。第Ⅰ次調査を中心として22点が存在する。なお、X a<sup>1</sup>類～b<sup>2</sup>類とした4文様帶は基本的に同様な効果を意図しているもと推測されるが細部の特徴からここでは分けている。

- X a<sup>1</sup>類 = 突刺文を用いたもので、連続菱形区画を横に展開し、菱形の中央を縦の多条突刺文で区画するのを特徴としている。この種の文様帶には一部沈線文で施すのも含まれている。第Ⅰ次調査の大型深鉢形土器『第30図-1』の口縁部文様の一部に表現されている。
- X a<sup>2</sup>類 = 基本的には a<sup>1</sup>類と同形態であるが、中央の縦位に区画した多条突刺文を伴わないことからあえて細分した。第Ⅰ次調査に2点確認されている。『第30図-1, 第41図-20』
- X b<sup>1</sup>類 = a<sup>1</sup>類の中央部分に同心円文を配置したもので、基本的には a<sup>1</sup>類の仲間に位置づけられる。第Ⅰ次・Ⅶ次調査から各1点が認められている。『第38図-14, 第266図-2』
- X b<sup>2</sup>類 = b<sup>1</sup>類の菱形区画の上下の先端部に重円弧を配したもので、先の b<sup>1</sup>類の変形文様と考えられる。以上の X a<sup>1</sup>類～b<sup>2</sup>類の区画文様は菱形の区画を横位に展開する特徴があり、波状口縁を有する深鉢形に描かれるものが大半である。第Ⅰ次調査の大型深鉢形土器『第30図-1』の口縁部文様帶を構成する一単位として表現されている。
- X c 類 = 波紋状に同心円を連続したもので、沈線文と突刺文の二者が共存する。この文様区画は主に底部の文様として多く用いられるが、口縁部文様帶を構成する単位文様の一部に用いられる場合がある。第Ⅰ次調査に4点、第Ⅲ次調査に1点、第Ⅳ次調査に2点の計7点が存在する。『第28図-1, 第32図-17, 第34図-12, 第37図-9, 第210図-34, 第222図-4, 第222図-10』
- X d 類 = 突刺文を施文手法として構成するもので、中心に同心円を置き、上下から入り組み状に包み込むのを特徴としている。この手法は所謂「藤状燃糸圧痕文」を有する文様に近いものがあり、繼承文様の仲間と考えられる。第Ⅵ次調査を除く他の調査次より各1点が認められている。

『第29図-3, 第210図-4, 第229図-5, 第242図-33?, 第274図-10』

- X e 類 = 上下に半截竹管による平行沈線文を横走させ、中央の空間に斜状を配する多状沈線を交互に展開したもので、胴部文様帶として用いられる。第Ⅰ次・Ⅳ次調査より各1点がある。

『第28図-1, 第222図-10』

- X F 類 = 胴部文様帶として描かれる場合が多い。中央の空間に沈線文による縦位の山形文を横方向に連続するのが特徴で、所謂「ハ」状文の変形と考えられる。第Ⅰ次・Ⅲ次調査より各1点が認められている。『第38図-16, 第210図-3』

## 5. 出土土器の分類

### 1) 一ノ坂遺跡の出土土器分類基準

これまで、地文の分類からループ文等の無文区画による文様帶の分類とその特徴について触れてきたが、ここでは、出土土器全体の分類基準について説明を加えておく。

〈I群土器〉 ループ文を地文として構成するもの。

- I群 a<sup>1</sup>類=ループ文を全面に施すもの。
- I群 a<sup>2</sup>類=ループ文を羽状に施すもの。
- I群 b 類=ループ文を地文とし、無文帯の区画文様を構成するもの。
- I群 c<sup>1</sup>類=ループ文を地文とし、沈線文を主体に文様を構成するもの。
- I群 c<sup>2</sup>類=ループ文を地文とし、コンパス文を主体に文様を構成するもの。
- I群 d 類=ループ文を地文とし、竹管文を主体に文様を構成するもの。
- I群 e 類=ループ文を地文とし、突刺文を主体に文様を構成するもの。
- I群 f 類=ループ文を地文とし、沈線文・突刺文・竹管文を組み合わせて文様を構成するもの。

〈II群土器〉 単節繩文を地文として構成するもの。

- II群 a 類=単節繩文を全面に施すもの。
- II群 b 類=単節繩文を地文とし、無文帯の区画文様を構成するもの。
- II群 c<sup>1</sup>類=単節繩文を地文とし、沈線文を主体に文様を構成するもの。
- II群 c<sup>2</sup>類=単節繩文を地文とし、コンパス文を主体に文様を構成するもの。
- II群 d 類=単節繩文を地文とし、竹管文を主体に文様を構成するもの。

〈III群土器〉 羽状繩文を地文として構成するもの。

- III群 a<sup>1</sup>類=羽状繩文を全面に施すもの。
- III群 a<sup>2</sup>類=羽状繩文を菱状に配して構成するもの。

- 〈IV群土器〉 無節縄文を地文として構成するもの。
- 〈V群土器〉 複節縄文を地文として構成するもの。
- 〈VI群土器〉 組紐縄文を地文として構成するもの。
- 〈VII群土器〉 結束縄文を地文として構成するもの。
- 〈VIII群土器〉 土器の部分片を一括したもので、沈線文・突刺文・竹管文等で文様を構成するものを本群とした。この中には地文を有するものも含まれと考えられる。
- VII群a類=沈線文を主体としたもの。
  - VII群a類=コンパス文を主体としたもの。
  - VII群b類=竹管文を主体としたもの。
  - VII群c類=突刺文を主体としたもの。
  - VII群d類=沈線文・竹管文・突刺文等の組み合わせを主体としたもの。
  - VII群e類=貼付文を主体としたもの。
  - VII群f類=その他の文様。

## 2) 一ノ坂遺跡第I次調査出土土器の分類

文様の良好な作図可能な土器片・一括土器186点を選出したもので、次の8群に細別することができた。

### 〈I群土器〉

ループ文を地文として構成するもので、基準にしたがって細分すれば、8類すべてが検出されている。この中で、主体を占めるのがa<sup>1</sup>類の51点、次いでb類の21点、c<sup>1</sup>類の9点となり、他の2~5点を含めると作図可能な土器片としては計94点となる。詳細は次のとおり。

- I群a<sup>1</sup>類=ループ文を全面に施すもの。  
『第32図-4~6・7・9・12・19・27~29, 第34図-3・5・7, 第35図-2~4, 第36図-2~4・7・8・12・13・18・22, 第37図-1・5・13・15・16・19・28・27・32~35, 第38図-2・7・9・15, 第39図-2・8, 第40図-7, 第41図-3・5・7・18・21, 第29図-1, 第42図-1, 第44図-1』
- I群a<sup>2</sup>類=ループ文を羽状に施すもの。  
『第37図-29, 第38図-5, 第41図-3』
- I群b類=ループ文を地文とし、無文帯の区画文様を構成するもの。  
『第23図-8・25・26・30, 第36図-11・21・20・19, 第37図-12・18, 第38図-3・5・8・11・12, 第40図-5・9, 第40図-8, 第41図-11・15, 第28図-2, 第31図-1』

- I群c<sup>1</sup>類=ループ文を地文とし、沈線文を主体に文様を構成するもの。  
『第32図-2, 第34図-1, 第38図-16, 第39図-5, 第41図-4・8・22, 第31図-1・2』
- I群c<sup>2</sup>類=ループ文を地文とし、コンパス文を主体に文様を構成するもの。  
『第32図-21, 第35図-6』
- I群d類=ループ文を地文とし、竹管文を主体に文様を構成するもの。  
『第32図-22, 第37図-21, 第38図-1』
- I群e類=ループ文を地文とし、突刺文を主体に文様を構成するもの。  
『第34図-3・6・8第41図-23, 第30図-1』
- I群f類=ループ文を地文とし、沈線文・突刺文・竹管文を組み合わせて文様を構成するもの。  
『第32図-23・24, 第29図-3』

#### 〈II群土器〉

単節縄文を地文として構成するものを一括したもので、作図可能な土器片としてはa類が26点、d類4点、c<sup>1</sup>類1点の計31点が含まれている。特に分類基準のうち、a類を中心としてc<sup>1</sup>類・d類の三者のみが確認されていることは、第I調査の特徴といえる。詳細は次のとおり。

- II群a類=単節縄文を全面に施すもの。  
『第32図-10・11, 第34図-11, 第35図-8, 第36図-14・16, 第37図-4・6・14・30, 第38図-4・10・17・19, 第39図-7, 第40図-3・6・8・10, 第41図-10, 第28図-2・3, 第29図-2, 21図版-170, 第43図-1, 21図版-170』
- II群c<sup>1</sup>類=単節縄文を地文とし、沈線文を主体に文様を構成するもの。  
『第38図-6』
- II群d類=単節縄文を地文とし、竹管文を主体に文様を構成するもの。  
『第32図-20, 第35図-9・10, 第37図-7』

#### 〈III群土器〉

羽状縄文を地文として構成するもので、作図可能な土器片は8点であった。詳細は次のとおり。

- III群a<sup>1</sup>類=羽状縄文を全面に施すもの。  
『第34図-10, 第41図-2・9・16・17』
- III群a<sup>2</sup>類=羽状縊文を菱状に配して構成するもの。  
『第36図-5, 第28図-1, 第40図-4』

#### 〈IV群土器〉

磨滅が著しく作図可能な土器片は認められなかった。

#### 〈V群土器〉

複節繩文を地文として構成するもので、作図可能な土器片は次の7点である。

『第32図-15・14, 第34図-7, 第36図-17, 第37図-2・3, 第39図-1』

#### 〈VI群土器〉

組紐繩文を地文として構成するもので、次の3点を作図した。

『第32図-13, 第33図-1, 第39図-6』

#### 〈VII群土器〉

結束繩文を地文として構成するもので、作図可能な土器片は10点であった。

『第33図-2第, 34図-4, 第36図-9, 第37図-31, 第39図-4, 第40図-1, 第41図-6・12  
・19, 第45図-1』

#### 〈VIII群土器〉

土器の部分片を一括したもので、沈線文・突刺文・竹管文等で文様を構成するものを本群とした。この中には地文を有するものも含まれると考えられる。

分類基準に従って細分すれば、7類のうち5類の31点が作図可能な土器片であった。この中でb類の13点を筆頭に、c類・f類の7点が次に多く存在していることが判った。詳細は次のとおり。

- VIII群a'類=沈線文を主体としたもの。

『第38図-13, 第41図-14』

- VIII群b類=竹管文を主体としたもの。

『第32図-1・3・16・17, 第34図-2, 第35図-7, 第36図-15, 第37図-9・10・8・20・22,  
第38図-14』

- VIII群c類=突刺文を主体としたもの。

『第34図-12, 第35図-1, 第36図-1第, 37図-26, 第41図-1・20・24』

- VIII群d類=沈線文・竹管文・突刺文等の組み合わせを主体としたもの。

『第35図-5, 第28図-1』

- VIII群f類=その他の文様。

『第36図-6, 第37図-11・25, 第37図-23・24, 第38図-18, 第39図-3』

以上、第I次調査出土の土器群を簡単に説明してきたが、個々の詳細に関しては次の第7表を参照願いたい。

第9表 一ノ坂遺跡第I次調査出土土器観察表

通番	団版No.	排版No.	出土地区	器形	体部	施文手法	文様構成	内面調整	分類	
1	5 団版-	1	第32B8- 1	HB1AG-1F	深鉢形F	胴上部	竹管文D	Xa <sup>†</sup> 文様帯?	マメツ不明	
2	5 団版-	2	第32B8- 2	HB1AG-1F	深鉢形	胴上部	ループC類+沈線文A	ミガキ模	I群 c'類	
3	5 団版-	3	第32B8- 3	HB1AG-1F	深鉢形	胴上部	竹管文C	ミガキ模	V群 b 類	
4	5 団版-	4	第32B8- 4	HB1AG-1F	深鉢形	口縁部	ループD類	ミガキ模	I群 a'類	
5	5 団版-	5	第32B8- 5	HB1AG-1F	深鉢形	C	ループD類	ナデ模	I群 a'類	
6	5 団版-	6	第32B8- 6	HB1AG-1F	深鉢形	I	ループD類	ミガキ模	I群 a'類	
7	5 団版-	7	第32B8- 7	HB1AG-1F	深鉢形	胴部	ループD類	マメツ不明	I群 a'類	
8	5 団版-	8	第32B8- 8	HB1AG-1F	深鉢形	胴上部	ループB類	■a 文様帯	ナデ・ミガキ模+斜	
9	5 団版-	9	第32B8- 9	HB1AG-1F	深鉢形	胴部	ループC類	ナデ・ミガキ模	I群 a'類	
10	5 団版-	10	第32B8- 13	HB1AG-1F	深鉢形	口縁部	組紐文	ナデ・ミガキ模+斜	V群上部	
11	5 団版-	11	第32B8- 10	HB1AG-1F	深鉢形	口縁部	単節繩文A <sup>‡</sup>	ナデ模	II群 a	
12	5 団版-	12	第32B8- 11	HB1AG-1F	深鉢形	口縁部	単節繩文A <sup>‡</sup>	ナデ模	II群 a	
13	5 団版-	13	第32B8- 15	HB1AG-1F	深鉢形	底辺部	底部繩文	ナデ・ミガキ模+斜	V群上部	
14	5 団版-	14	第32B8- 16	HB1AG-1F	深鉢形	下脚部	竹管文D類	■c 文様帯?	ミガキ模	
15	5 団版-	15	第32B8- 12	HB1AG-1F	深鉢形	I	ループD類	ナデ模+ミガキ模	I群 a'類	
16	5 団版-	16	第32B8- 21	HB1AG-3F	深鉢形	I	ループC類	平整コンバスト	ミガキ模+斜	I群 c'類
17	5 団版-	17	第32B8- 17	HB1AG-1F	深鉢形	下脚部	竹管文D	X c 文様帯	ミガキ模	
18	5 団版-	18	第32B8- 14	HB1AG-1F	深鉢形	下脚部	底部繩文	ミガキ模+ナデ模	V群上部	
19	5 団版-	19	第32B8- 18	HB1AG-2F	深鉢形	胴部	ループC+F	■a 文様帯	ナデ模	
20	5 団版-	20	第32B8- 19	HB1AG-2F	深鉢形	胴上部	ループD類	マメツ不明	I群 a'類	
21	5 団版-	21	第32B8- 22	HB1AG-3F	深鉢形	胴上部	ループF類	■b 文様帯?	ミガキ模+斜	
22	6 団版-	22	第33B8- 1	HB1AG-2F	深鉢形	上半部	組紐繩文	ナデ・ミガキ模+斜	V群上部	
23	7 団版-	23	第33B8- 2	HB1AG-3F	深鉢形	A	上半部	結束繩文A	ナデ模+ミガキ模	
24	8 団版-	24	第34B8- 3	HB1AG-4F	深鉢形	D	上半部	ループA類	ミガキ模+ナデ模+ミガキ模	
25	9 団版-	25	第32B8- 20	HB1AG-2F	深鉢形	A	底部	単節繩文A <sup>‡</sup> +竹管文A	II群 d 類	
26	9 団版-	26	第32B8- 23	HB1AG-3F	深鉢形	胴部	ループC類+竹管文A	■c 文様帯	ナデ・ミガキ模+斜	
27	9 団版-	27	第32B8- 24	HB1AG-4F	深鉢形	胴部	ループC類+竹管文A	■b 文様帯	ミガキ模	
28	9 団版-	28	第32B8- 29	HB1AG-4F	深鉢形	胴部	ループC類	ミガキ模	I群 a'類	
29	9 団版-	29	第32B8- 28	HB1AG-4F	深鉢形	胴部	ループD類	ナデ・ミガキ模+斜	I群 a'類	
30	9 団版-	30	第32B8- 25	HB1AG-4F	深鉢形	A	胴上部	■a 文様帯	ナデ・ミガキ模	
31	9 団版-	31	第32B8- 30	HB1AG-4F	深鉢形	I	口縁部	ループB類	■a 文様帯	
32	9 団版-	32	第32B8- 26	HB1AG-4F	深鉢形	胴上部	ループA類	ミガキ模+斜	I群 b 類	
33	9 団版-	33	第32B8- 27	HB1AG-4F	深鉢形	C	I	ループC類	ミガキ模	
34	9 団版-	34	第34B8- 4	HB1AG-4F	深鉢形	I	口縁部	結束繩文A	ナデ模	
35	9 団版-	35	第34B8- 5	HB1AG-4F	深鉢形	F	胴部	ループF類	ミガキ模+斜	
36	9 団版-	36	第34B8- 6	HB1AG-4F	深鉢形	胴部	ループF類+尖刺文C	ナデ模+斜+ミガキ模	I群 e 類	
37	9 団版-	37	第34B8- 8	HB1AG-4F	深鉢形	胴部	ループF類+尖刺文C	ナデ・ミガキ模	I群 e 類	
38	9 団版-	38	第34B8- 9	HB1AG-4F	深鉢形	下脚部	底部繩文	ナデ模	V群上部	
39	9 団版-	39	第34B8- 7	HB1AG-4F	深鉢形	E	下脚部	ループE類	ナデ模	
40	9 団版-	40	第34B8- 12	HB1AG-4F	深鉢形	底部	尖刺文A	X a 文様帯	■群 c 類	
41	9 団版-	41	第34B8- 10	HB1AG-4F	深鉢形	F	下脚部	単節繩文B <sup>‡</sup>	ナデ模+斜	
42	9 団版-	42	第34B8- 11	HB1AG-4F	深鉢形	I	口縁部	ミガキ模	II群 a 類	
43	9 団版-	43	第34B8- 1	HB1AG-4F	深鉢形	胴部	ループC類+沈線文A	ナデ模+ミガキ模	I群 c 類	
44	9 団版-	44	第34B8- 2	HB1AG-4F	深鉢形	胴上部	竹管文C+貼付文	ナデ模	■群 c 類	
45	10 団版-	45	第35B8- 1	HB1AG-4F	深鉢形	G	上半部	尖刺文C+同心文	■C 文様帯	

通巻	国版№	神図№	出土地区	器形	体部	施文手法	文様構成	内面調整	分類
46	10国版- 46	第35回- 5	H B1BG-1F	深鉢形G	胴部	支脚2C+竹管文B+コンバス文	ナデ・ミガキ横+斜	雄群d類	
47	10国版- 47	第35回- 2	H B1BG-1F	深鉢形	胴部	ループF類	ミガキ横+斜	I群a'類	
48	10国版- 48	第35回- 9	H B1BG-1F	深鉢形I	II縁部	单施織文A <sup>1</sup> +竹管文D	ミガキ横・継	II群d類	
49	11国版- 49	第35回- 3	H B1BG-3F	深鉢形	下胴部	ループC類	ナデ横・斜+ミガキ縦	I群a'類	
50	11国版- 50	第35回- 4	H B1BG-1F	深鉢形D	II縁部	ループC類	ナデ横	I群a'類	
51	11国版- 51	第35回- 7	H B1BG-1F	深鉢形	底部	竹管文D		雄群b類	
52	11国版- 52	第35回- 8	H B1BG-1F	深鉢形D	II縁部	单施織文B <sup>2</sup>	ミガキ横	II群a類	
53	11国版- 53	第35回- 6	H B1BG-1F	深鉢形	胴部	ループF類+コンバス文	ミガキ・ナデ横	I群c'類	
54	12国版- 54	第36回- 1	H B1BG-2F	深鉢形G	II縁部	竹管文D	N C文様添	ナデ横~斜+ミガキ縦	雄群c類
55	12国版- 55	第36回- 1	H B1BG-2F	深鉢形D	II縁部	ループC類	ミガキ横	I群a'類	
56	12国版- 56	第36回- 3	H B1BG-2F	深鉢形D	II縁部	ループA+E	ミガキ横	I群a'類	
57	12国版- 57	第36回- 4	H B1BG-2F	深鉢形D	II縁部	ループA+E	ミガキ横	I群a'類	
58	12国版- 58	第36回- 6	H B1BG-2F	深鉢形	下胴部	卷状織縞の押印回転文	マツツ不明	雄群f類	
59	12国版- 59	第36回- 7	H B1BG-2F	深鉢形	胴部	熱りのゆるやかなループD	ミガキ横	I群a'類	
60	12国版- 60	第36回- 5	H B1BG-2F	深鉢形D	II縁部	单施織文C <sup>2</sup>	ミガキ横~継	II群a'類	
61	12国版- 61	第36回- 5	H B1BG-3F	深鉢形D	II縁部	ループD類	ナデ横	I群a'類	
62	12国版- 62	第36回- 9	H B1BG-3F	深鉢形	下胴部	粘束織文B	ミガキ横	雄群上型	
63	12国版- 63	第36回- 12	H B1BG-3F	深鉢形D	II縁部	ループC類	ミガキ横	I群b'類	
64	12国版- 64	第36回- 11	H B1BG-3F	深鉢形I	II縁部	ループA類	I a 文様添	ミガキ横・継	I群b類
65	12国版- 65	第36回- 13	H B1BG-4F	深鉢形I	II縁部	ループA類		ナデ・ミガキ横	I群a'類
66	12国版- 66	第36回- 14	H B1BG-3F	深鉢形I	上平部	单施織文A <sup>1</sup>	ナデ横・斜	II群a'類	
67	12国版- 67	第36回- 15	H B1BG-3F	深鉢形	上胴部	竹管文D+竹管文A	ナデ横・斜	雄群b類	
68	12国版- 68	第36回- 10	H B1BG-3F	深鉢形	胴部	单施織文A <sup>1</sup> +竹管文D	ミガキ継	II群d類	
69	12国版- 69	第36回- 22	H B1BG-4F	深鉢形D	II縁部	ループC類	ナデ横	I群a'類	
70	12国版- 70	第36回- 18	H B1BG-4F	深鉢形	胴部	ループC類	ナデ横・斜	I群a'類	
71	12国版- 71	第36回- 17	H B1BG-4F	深鉢形C	II縁部	鹿頭織文	ミガキ横~継	V群上型	
72	13国版- 72	第36回- 21	H B1BG-4F	深鉢形D	II縁部	ループC類	N b 文様添	ナデ横・斜	I群b類
73	13国版- 73	第36回- 20	H B1BG-4F	深鉢形D	胴部	ループC類	ナデ横~斜+ミガキ縦	I群b類	
74	13国版- 74	第36回- 16	H B1BG-4F	深鉢形H	上半部	单施織文A <sup>2</sup>	ナデ横・斜	II群a類	
75	13国版- 75	第36回- 19	H B1BG-4F	深鉢形	胴部	ループA+E	I a 文様添?	ナデ横・斜	I群b類
76	13国版- 76	第37回- 1	H B1BG-4F	深鉢形H	II縁部	ループC類	ナデ・ミガキ横	I群a'類	
77	13国版- 77	第37回- 2	H B1BG-4F	深鉢形	胴部	鹿頭織文	ミガキ横+ナヘア調査	V群上型	
78	13国版- 78	第37回- 3	H B1BG-4F	深鉢形	胴部	鹿頭織文	ナデ横	V群上型	
79	13国版- 79	第37回- 16	H B1CG-1F	深鉢形	胴部	ループC類	ミガキ横・斜	I群a'類	
80	13国版- 80	第37回- 5	H B1BG-4F	深鉢形D	II縁部	ループA類	ミガキ横	I群a'類	
81	13国版- 81	第37回- 6	H B1BG-4F	深鉢形I	II縁部	单施織文A <sup>1</sup>	ナデ・ミガキ横	II群a類	
82	14国版- 82	第37回- 7	H B1BG-4F	深鉢形	底辺部	無施織文A+竹管文D	ミガキ継・斜	II群b類	
83	14国版- 83	第37回- 9	H B1CG-1F	深鉢形E	II縁部	竹管文D	X a 文様帶他	ミガキ横	雄群b類
84	14国版- 84	第37回- 10	H B1CG-1F	深鉢形I	II縁部	竹管文D	ミガキ継	雄群b類	
85	14国版- 85	第37回- 9	H B1BG-4F	深鉢形	底辺部	竹管文D	ナデ斜	雄群b類	
86	14国版- 86	第37回- 11	H B1CG-1F	深鉢形D	II縁部	宍利文+コンバス文	ミガキ横	雄群f類	
87	14国版- 87	第37回- 12	H B1CG-1F	深鉢形D	II縁部	ループC類	I a 文様添?	マツツ不明	I群b類
88	14国版- 88	第37回- 13	H B1CG-1F	深鉢形D	II縁部	ループA類	ミガキ横	I群a'類	
89	14国版- 89	第37回- 18	H B1CG-1F	深鉢形D	II縁部	ループA類	ナデ横	I群b類	
90	14国版- 90	第37回- 19	H B1CG-1F	深鉢形I	II縁部	ループC類	ミガキ横	I群a'類	
91	14国版- 91	第37回- 20	H B1CG-1F	深鉢形	下胴部	竹管文D類	ナデ横・斜	雄群b類	
92	14国版- 92	第37回- 17	H B1CG-1F	深鉢形H	II縁部	单施織文A <sup>1</sup>	ミガキ横・継	II群a類	

通し番号	図版番号	種図番号	出土地区	器形	体 部	施文手法	文様構成	内面調整	分類
93	14図版- 93	第37回- 21	H B1CG-1F	深鉢形	底辺部	ループA類+竹管文D		ナゲ斜	I群d類
94	14図版- 94	第37回- 25	H B1CG-2F	深鉢形D	口縁部	尖刺文B+コンバス文		ナゲ横	V群f類
95	14図版- 95	第37回- 22	H B1CG-1F	深鉢形	底部	竹管文D			V群b類
96	—	第37回- 14	H B1CG-1F	深鉢形D	口縁部	単節繩文A <sup>2</sup>		ナゲ横	II群a類
97	14図版- 96	第37回- 23	H B1CG-2F	深鉢形D	口縁部	竹管文C+コンバス文		ミガキ横	V群f類
98	14図版- 97	第37回- 24	H B1CG-2F	深鉢形D	口縁部	竹管文C+コンバス文		ミガキ横	V群f類
99	14図版- 98	第37回- 28	H B1CG-2F	深鉢形D	口縁部	ループC類		ミガキ横	I群a'類
100	14図版- 99	第37回- 27	H B1CG-2F	深鉢形D	口縁部	ループE類		I群b+茎+叶+花	I群a'類
101	14図版- 100	第37回- 29	H B1CG-2F	深鉢形	胴部	ループC類による羽状繩文		ナゲ・ミガキ横	I群a'類
102	14図版- 101	第37回- 26	H B1CG-2F	深鉢形D	口縁部	尖刺文C		ミガキ縦	V群c類
103	14図版- 102	第37回- 4	H B1BG-4F	深鉢形	下側部	単節繩文B <sup>3</sup>		ミガキ横・斜	II群a類
104	14図版- 103	第37回- 32	H B1CG-3F	深鉢形E	口縁部	ループC類		ミガキ・ナゲ横	I群a'類
105	14図版- 104	第37回- 31	H B1CG-3F	深鉢形D	口縁部	結合繩文B		ミガキ横+縦	V群上器
106	14図版- 105	第37回- 33	H B1CG-3F	深鉢形A	口縁部	ループF類		ミガキ・ナゲ横	I群a'類
107	14図版- 106	第37回- 15	H B1CG-1F	深鉢形	胴部	ループD類		ミガキ・ナゲ斜+縦	I群a'類
108	14図版- 107	第37回- 30	H B1CG-2F	深鉢形I	口縁部	単節繩文A <sup>1</sup>		ミガキ縦	II群a類
109	15図版- 106	第37回- 35	H B1CG-3F	深鉢形A	口縁部	ループC類		ミガキ・ナゲ横+縦	I群a'類
110	15図版- 109	第38回- 11	H B1CG-4F	深鉢形D	口縁部	ループB類	X b 文様帯	ミガキ横+斜	I群b類
111	15図版- 110	第38回- 6	H B1CG-4F	深鉢形D	口縁部	竹管文A+単節繩文A <sup>2</sup>		ミガキ横	II群c'類
112	15図版- 111	第38回- 7	H B1CG-4F	深鉢形A	口縁部	ループD類		ミガキ縦	I群a'類
113	15図版- 112	第38回- 34	H B1CG-3F	深鉢形	下側部	ループC類		ミガキ横	I群a'類
114	15図版- 113	第38回- 8	H B1CG-4F	深鉢形D	口縁部	ループB類	X b 文様帯	ミガキ横	I群b類
115	15図版- 114	第38回- 1	H B1CG-3F	深鉢形	胴上部	ループB類+竹管文D		ミガキ横+斜	I群d類
116	15図版- 115	第38回- 17	H B1CG-4F	深鉢形F	口縁部	単節繩文A <sup>2</sup>		ミガキ横	II群a類
117	15図版- 116	第38回- 10	H B1CG-4F	深鉢形I	口縁部	単節繩文A <sup>1</sup>		ナゲ・ミガキ横	II群a類
118	15図版- 117	第38回- 4	H B1CG-3F	深鉢形I	口縁部	単節繩文A <sup>2</sup>		ミガキ横+縦	II群a'類
119	15図版- 118	第38回- 18	H B1CG-4F	深鉢形	底辺部	尖刺文C+コンバス文		ナゲ横	V群f類
120	15図版- 119	第38回- 3	H B1CG-3F	深鉢形	胴部	ループA類	V c 文様帯?	ナゲ横	I群b類
121	15図版- 120	第38回- 14	H B1CG-4F	深鉢形	胴上部	竹管文D+A	X b' 文様帯	マツツ不明	V群上器
122	15図版- 121	第38回- 13	H B1CG-4F	深鉢形	下側部	沈線文B類		マツツ不明	V群a'類
123	15図版- 122	第38回- 12	H B1CG-4F	深鉢形	胴上部	ループF類		ナゲ・ミガキ横	I群b類
124	15図版- 123	第38回- 16	H B1CG-4F	深鉢形	胴部	ループB類	X f 文様帯	マツツ不明	I群c'類
125	15図版- 124	第38回- 5	H B1CG-3F	深鉢形	胴部	ループC類		ナゲ横	I a'・I b
126	15図版- 125	第38回- 2	H B1CG-3F	深鉢形	胴部	ループB類		ナゲ横	I群a'類
127	15図版- 126	第38回- 9	H B1CG-4F	深鉢形D	口縁部	ループC類		ナゲ横	I群a'類
128	15図版- 127	第38回- 15	H B1CG-4F	深鉢形	下側部	ループE類		ミガキ横+縦	I群a'類
129	16図版- 128	第38回- 19	H B1CG-4F	深鉢形H	胴上部	単節繩文A <sup>1</sup>		ナゲ・茎+叶+花	II群a類
130	17-129 a ~ c	第39回- 1	H B1DG-1F	深鉢形H	上半部	複節繩文		ナゲ茎+叶+花	V群上器
131	17図版- 129 f	第39回- 2	H B1DG-1F	深鉢形	下側部	ループD類		ナゲ斜+斜+ミガキ横	I群a'類
132	17図版- 129 d	第39回- 5	H B1DG-1F	深鉢形I	口縁部	ループB+沈線文A		ミガキ横	I群c'類
133	17図版- 130	第39回- 7	H B1DG-3F	深鉢形D	口縁部	単節繩文A <sup>1</sup>		ナゲ・ミガキ横	II群a類
134	17図版- 131	第39回- 4	H B1DG-1F	深鉢形	胴部	結合繩文B		ナゲ斜+ミガキ横	V群上器
135	17図版- 132	第39回- 6	H B1DG-2F	深鉢形A	口縁部	粗糸繩文	X b 文様帯	ミガキ横+縦	V群上器
136	17図版- 133	第39回- 6	H B1DG-2F	深鉢形A	口縁部	粗糸繩文	X b 文様帯	ミガキ横+縦	V群上器
137	18-134 a ~ f	第39回- 8	H B1DG-3F	深鉢形D	上半部	ループE類		ミガキ横+縦	I群a'類
138	18図版- 135	第39回- 3	H B1DG-3F	深鉢形	胴上部	沈線文+點付文		ミガキ横+縦	V群f類
139	18-136 a ~ f	第40回- 5	H B1DG-4F	深鉢形G	上半部	ループA類	X b 文様帯	ナゲ茎+叶+花+葉+花	I群b類

番号	図版番号	種別	出土地区	器形	体部	施文手法	文様構成	内面調整	分類
140	18図版- 137	第40回- 9	H B1DG-4F	深鉢形	胴上部	ループA類	Ⅲb 文様帯	マツツ不明	I群 b類
141	18図版- 138	第40回- 10	H B1DG-4F	深鉢形	胴下部	単沿縞文A <sup>2</sup>		ナデ横+斜+ミガキ横	II群 a類
142	19-139a ~ f	第40回- 1	H B1DG-3F	深鉢形C	上半部	結水縞文B		ナデ縦+ミナガキ横	III群上器
143	19-140a ~ e	第40回- 6	H B1DG-4F	深鉢形 I	上半部	単沿縞文A <sup>2</sup>		ナデ縦+ミナガキ横	III群 a類
144	19図版- 141	第40回- 4	H B1DG-3F	深鉢形D	口縁部	単沿縞文C <sup>2</sup>		ナデ縦+ミナガキ横	III群 a類
145	19図版- 142	第40回- 3	H B1DG-3F	深鉢形 F	口縁部	単沿縞文A <sup>1</sup>		ミガキ横+紙	II群 a類
146	19図版- 143	第40回- 7	H B1DG-4F	深鉢形 I	口縁部	ループE類		マツツ不明	I群 a類
147	19図版- 144	第40回- 2	H B1DG-3F	深鉢形 D	口縁部	単沿縞文A <sup>2</sup>		ミガキ横	II群 a類
148	20-145a ~ e	第40回- 8	H B1DG-4F	深鉢形	胴部	ループC類	Ⅲa 文様帯	ミガキ+ナゲ横	I群 b類
149	20図版- 146	第41回- 6	H B1MG-4F	深鉢形	胴部	結合縞文A		ミガキ横+斜	III群上器
150	20図版- 147	第41回- 1	H B1MG-1F	深鉢形	底辺部	突起文B		ナデ縦+ミガキ縦	III群 c類
151	20図版- 148	第41回- 7	H B1MG-2F	深鉢形	胴部	ループE類		ミガキ横	I群 a類
152	20図版- 149	第41回- 2	H B1MG-1F	深鉢形 B	口縁部	単沿縞文B <sup>1</sup>		ミガキ横	III群 a類
153	20図版- 150	第41回- 3	H B1MG-2F	深鉢形	下胴部	ループD類		マツツ不明	III群 a'類
154	20図版- 151	第41回- 11	H B1MG-3F	深鉢形	胴部	ループA類	Vc 文様帯?	ミガキ横	I群 b類
155	20図版- 152	第41回- 14	H B1MG-4F	深鉢形	底辺	沈線文A			III群 a類
156	20図版- 153	第41回- 8	H B1MG-2F	深鉢形	胴部	ループB類	Ⅲb 文様帯	ミガキ横	I群 c類
157	20図版- 154	第41回- 22	H B1-CY3	深鉢形 D	口縁部	ループA+沈線文A		ミガキ横	I群 c類
158	20図版- 155	第41回- 19	H B1-CY3	深鉢形 D	口縁部	結合縞文A		ミガキ横	III群上器
159	20図版- 156	第41回- 12	H B1MG-3F	深鉢形 C	口縁部	結合縞文A		マツツ不明	III群上器
160	20図版- 157	第41回- 5	H B1MG-2F	深鉢形 F	口縁部	ループA類		ミガキ横	I群 a'類
161	20図版- 158	第41回- 13	H B1MG-3F	深鉢形	胴部	ループF類		ナデ縦	I群 a類
162	20図版- 159	第41回- 15	H B1MG-4F	深鉢形	胴部	ループC類		ミガキ+ナデ縦+紙	I群 b類
163	20図版- 160	第41回- 9	H B1MG-2F	深鉢形	胴部	ループE+単沿縞文B <sup>2</sup>		ナデ縦+斜+ミナガキ+紙	III群 a'類
164	20図版- 161	第41回- 16	H B1-DY6	深鉢形 I	口縁部	単沿縞文B <sup>2</sup>		ミガキ横	III群 a'類
165	21図版- 162	第41回- 10	H B1MG-3F	深鉢形 F	口縁部	単沿縞文A <sup>2</sup>		ミガキ横	III群 a類
166	21図版- 163	第41回- 20	H B1-CY3	深鉢形	胴上部	突起文C類	Xa <sup>3</sup> 文様?	ミガキ横	III群 c類
167	21図版- 164	第41回- 4	H B1MG-2F	深鉢形 F	胴部	ループB類	Ⅲb 文様帯	ミガキ横	I群 c類
168	21図版- 165	第41回- 18	H B1-CY3	深鉢形	胴部	ループC類		ナデ縦	I群 a類
169	21図版- 166	第41回- 17	H B1-DY6	深鉢形 I	口縁部	単沿縞文B <sup>2</sup>		ミガキ横	III群 a類
170	21図版- 167	第41回- 23	H B1-CY3	深鉢形	底辺部	ループB+突起文B			I群 a類
171	21図版- 168	第41回- 21	H B1-CY3	深鉢形 D	口縁部	ループB類		ミガキ横	I群 a'類
172	21図版- 169	第41回- 24	H B1-CY3	深鉢形	底部	竹管文D			III群 c類
173	21-170a ~ j	——	H B1BG-2F	深鉢形 I	上半部	単沿縞文A <sup>2</sup>		ナデ縦+斜+ミナガキ+紙	II群 a類
174	22図版- 171	第30回- 1	H B1BG-4F	深鉢形 A	復元	ループB+突起文A	X a <sup>3</sup> ~ b <sup>2</sup>	ミナガキ+斜+ミナガキ+紙	II群 e類
175	23図版- 172	第44回- 1	H B1BG-4F	深鉢形 A	復元	ループB+A		ナデ縦+斜+ミナガキ+紙	I群 a'類
176	24図版- 173	第39回- 1	H B1BG-4F	深鉢形 B	復元	ループA + B + 沈線文B	Ⅲb 文様帯	ミナガキ+斜+ミナガキ+紙	I群 a'類
177	25図版- 174	第45回- 1	H B1CG-4F	深鉢形 D	復元	結合縞文A		ナデ縦+斜+ミナガキ+紙	III群上器
178	26図版- 175	第31回- 1	H B1CG-4F	深鉢形 D	復元	ループC類		ナデ縦+斜+ミナガキ+紙	III群上器
179	26図版- 176	第42回- 1	H B1BG-2F	深鉢形 C	復元	ループC類	Ⅲb 文様帯	ミナガキ+斜+ミナガキ+紙	I群 a'類
180	27図版- 177	第28回- 1	H B1AG-2F	深鉢形 E	復元	単沿縞文C <sup>1</sup> +竹管文B等	Xe-KC文様	ミガキ横+紙	III群 a'類
181	27図版- 178	第29回- 3	H B1CG-2F	深鉢形 I	上半部	ループB+突起文C	Xd-Xd文様	ミガキ横+紙	I群 c類
182	28図版- 179	第43回- 1	H B1BG-4F	深鉢形 H	復元	単沿縞文A <sup>2</sup>		ミナガキ+斜+ミナガキ+紙	II群 a'類
183	28図版- 180	第31回- 2	H B1BG-2F	深鉢形 G	復元	ループC + D + 单沿縞文B <sup>1</sup>	Vc 文様帯	ナデ縦+斜+ミナガキ+紙	I群 c'類
184	29図版- 181	第26回- 2	H B1CG-1F	深鉢形 F	上半部	ループC+单沿縞文A <sup>2</sup> -A <sup>2</sup>	Ⅲb 文様帯	ナデ縦+斜+ミナガキ+紙	II群 a'類
185	29図版- 182	第28回- 3	H B1DG-2F	深鉢形 I	復元	单沿縞文A <sup>2</sup>		ミガキ横+斜+ミナガキ+紙	II群 a類
186	30図版- 183	第29回- 2	H B1DG-1F	深鉢形 I	上半部	单沿縞文A <sup>1</sup>		ミナガキ+斜+ミナガキ+紙	II群 a類

## II. 出土石器の概要

第1次調査区からは、総数2,151、861点の石器が出土した。出土地点は、HB1と命名した大型竪穴住居跡に集中する。フレーク、チップ、分類石器の出土状況について下記に表で示す。

第10表 一ノ坂遺跡第1次調査出土《フレーク》総計表

・住居内出土：14,933点

	A区	B区	C区	D区	M区	合計
I層	537	716	716	929	770	3,609
II層	546	791	428	885	2,562	5,012
III層	1,142	986	625	745	686	4,184
IV層	551	1,030	330	111	110	2,128
合計	2,776	3,523	2,040	2,760	3,924	14,933

・住居跡外グリット出土：1,364点

FG=82 GG=328 HG=99 IG=178 JG=6

NG=196 PG=358 QG=2 RG=29 TG=86

・遺構内出土：854点

DY3=188 DY16=4 GY12=6 SY7=44

DY4=8 DY18=2 GY14=2 SY8=166

DY5=24 DY25=32 SY9=62

DY6=3 SY11=128

DY15=16 SY13=169

・耕作土からの出土：362点

フレーク総数：17,513点

第11表 一ノ坂遺跡第1次調査出土《チップ》総計表

・住居内出土：2,045,761点

	A区	B区	C区	D区	M区	計
I層	53,072	986,282	76,351	168,152	130,927	1,420,784
II層	16,601	11,526	4,729	2,699	9,261	44,816
III層	86,344	9,531	4,059	54,836	127,995	282,765
IV層	69,500	129,496	51,443	26,514	20,443	297,396
合計	225,517	1,136,835	136,582	252,201	294,626	2,045,761

・住居跡外グリット出土：1,944点

F G = 42 G G = 171 H G = 95 I G = 483 J G = 483

N G = 657 P G = 454 Q G = 2 R G = 21 T G = 13

・遺構内出土：53,900点

D Y 3 = 13,599 D Y 18 = 871 G Y 10 = 1,071 S Y 7 = 5

D Y 4 = 372 D Y 19 = 410 G Y 12 = 3,967 S Y 8 = 7,034

D Y 5 = 5,548 D Y 20 = 442 G Y 14 = 392 S Y 9 = 4,883

D Y 6 = 1,765 D Y 21 = 303 S Y 11 = 3,012

D Y 7 = 281 D Y 25 = 8,456 S Y 13 = 478

D Y 15 = 781 S Y 17 = 230

・耕作土からの出土：30,857点

チップ総数=2,132,462点

第12表 一ノ坂遺跡第I次調査出土《分類石器》総計表

・住居内出土：1,539点

	A区	B区	C区	D区	M区	計
I 層	59	88	74	163	74	458
II 層	60	63	40	68	149	380
III 層	111	119	56	93	80	459
IV 層	51	135	28	13	15	242
合 計	281	405	198	337	318	1,539

・住居跡外グリット出土：129点

F G = 5 G G = 26 H G = 7 I G = 6 J G = 3

N G = 34 P G = 47 Q G = 1 R G = 0 T G = 0

・遺構内出土：133点

D Y 3 = 13 D Y 18 = 0 G Y 10 = 0 S Y 7 = 16 K Y = 2

D Y 4 = 1 D Y 19 = 0 G Y 12 = 0 S Y 8 = 24

D Y 5 = 0 D Y 20 = 0 G Y 14 = 0 S Y 9 = 14

D Y 6 = 1 D Y 21 = 0 S Y 11 = 15

D Y 7 = 1 D Y 25 = 7 S Y 13 = 38

D Y 15 = 0 S Y 17 = 0

・斜面からの出土：88点

A G = 9 B G = 33 C G = 8 D G = 12 M G = 26

・表採からの出土：15点

・石器総数：1,904点

## 1. 分類石器の概要

出土した石器1,904点（石製品16点含む）を分類・細別し、さらにその中の1,084点については、実測図・写真図版を作成した。分類別の出土数は下記の通りである。

第13表 一ノ坂遺跡第I次調査出土《石器分類別》総計表

群	地区	A区	B区	C区	D区	M区	住居外	合 計
I (石鎌)		61	120	52	99	94	41	467
II (石匙)		139	190	101	169	151	212	962
III (両尖匕首)		10	21	3	13	12	31	90
IV (石鋸)		17	20	9	22	12	48	128
V (石錐)		41	34	25	29	33	13	175
VI (石範)		6	8	3	2	4	11	34
VII (搔器)		4	4	2	0	0	0	10
VIII (石核)		1	5	2	2	2	6	18
IX (磨製石斧)		0	2	0	1	0	1	4
X (石製品)		2	0	0	0	12	2	16
合 計		281	404	197	337	320	368	1,904

出土石器総数：1,904点

これより I 群～X 群の順で説明を加える。

### 1) I 群石器〈石鎌〉

完成石鎌34点、失敗・断念358点がある。完成石鎌については9形態、失敗・断念石器については32形態に細別した。出土状況は表の通り。

第14表 一ノ坂遺跡第I次調査《I群石器》出土総計表

・住居内出土：343点

出土地区別

A区	B区	C区	D区	M区
48	92	40	79	84

層位別

I層	II層	III層	IV層
111	57	107	68

・造構出土：13点

D Y	S Y
7	6

・グリット・その他出土：16点

F G	G G	H G	I G	P G	表採	斜面
2	2	1	1	4	2	4

細類については第180～182図に示した。図は石鎌工程を想定したものであり、出土した形態

を観察し作成した。本群の完成石器の形態から、素材となる剥片が二種類あり、IA群は「一枚ノ板技法による石器製作工程図」による石器群（第181、182図参照）、IB群は「薄型剥片を素材とする石器工程図」による石器群（第180図参照）である。細類した各段階順に、IA群から述べる。

#### 〈IA群第I段階〉

##### 〔IA群Ia類・IA群Ib類〕：32点出土、14点作図

一次剥離面やバルブが現存する剥離調整である。素材となった石材に対し、剥離調整が困難と判断して製作を断念したIA群Ia類で占められる。

〔IA群Ia類〕『第58図-1・3・6・13、第60図-6・9・10、第61図-4、第58図-1・3・6・13、第63図-5~8・10・11』

- 住居内出土：26点 A区=4 B区=3 C区=6 D区=7 M区=6
- 住居外出土：6点 • 遺構内出土=5 • 表採=1

##### 〔IA群Ib類〕

- 出土なし

#### 〈IA群第II段階〉

##### 〔IA群IIa類・IA群IIb類〕：7点出土、全て作図

大半がIA群IIa類に細類され、IA群IIb類は認められなかった。破損面を有する失敗が出現するのは第III段階以降といえる。

〔IA群IIa類〕『第58図-7・8、第61図-1・3・13、第63図-1・9』

- 住居内出土：7点 A区=1 B区=1 C区=2 D区=1 M区=2

##### 〔IA群IIb類〕

- 出土なし

#### IA群第III段階〔IA群IIIa類・IA群IIIb類〕：10点出土、8点作図

押圧剥離が主流の剥離調整に変わる。

〔IA群IIIa類〕『第61図-2・10・11、第62図-1・3、第63図-2~4』

- 住居内出土：5点 A区=0 B区=3 C区=2 D区=0 M区=0
- 住居外出土：2点 斜面=2

##### 〔IA群IIIb類〕

- 住居内出土：3点 A区=0 B区=1 C区=0 D区=2 M区=0

#### 〈IA群第IV段階〉

##### 〔IA群IVa類・IA群IVb類〕：14点出土、全て作図

剥離の際に破損が多く生じる段階と考えられる。

〔IA群Na類〕『第58図-5, 第60図-1・5, 第61図-5~7, 第62図-5~7』

- ・住居内出土：7点 A区=3 B区=1 C区=1 D区=2 M区=0
- ・住居外出土：2点 GG=1 HG=1

〔IA群Nb類〕『第53図-17, 第59図-14~17』

- ・住居内出土：5点 A区=1 B区=4 C区=0 D区=0 M区=0

〈IA群第V段階〉

〔IA群Va類・IA群Vb類〕：5点出土、全て作図

この段階は細身に整形していくものと考えられる。基部は平坦であり、基部への調整が開始されるのは、第VI段階と考えたい。

〔IA群Va類〕『第58図-4, 第60図-19, 第61図-12, 第62図-2』

- ・住居内出土：3点 A区=0 B区=0 C区=1 D区=1 M区=1
- ・住居外出土：1点 SY=1

〔IA群Vb類〕『第58図-2』

- ・住居内出土：1点 A区=0 B区=0 C区=1 D区=0 M区=0

〈IA群第VI段階〉

〔IA群Va類・IA群Vb類〕：7点出土、全て作図

三角形状に整形された基部はまだ平坦であるが、素材となった剥片の形態は完全に失われるほど、剥離調整が進行する。出土状況は下記の通り。

〔IA群Va類〕『第58図-15・16, 第60図-12・22, 第61図-9』

- ・住居内出土：4点 A区=0 B区=0 C区=2 D区=2 M区=0
- ・住居外出土：1点 PG=1

〔IA群Vb類〕『第53図-18, 第57図-27』

- ・住居内出土：2点 A区=0 B区=0 C区=0 D区=1 M区=1

〈IA群第VII段階〉

〔IA群VIIa類・IA群VIIb類〕：11点出土、全て作図

基部を除いて、整形が完了する段階の形態。一ノ坂の石鎚は基部が湾曲する形態が完成品と推測した。

〔IA群VIIa類〕『第53図-7, 第59図-7~10・12・13』

- ・住居内出土：5点 A区=1 B区=1 C区=0 D区=3 M区=0
- ・住居外出土：2点 FG=1 表採=1

〔IA群VIIb類〕『第57図-23・29・39・40』

- ・住居内出土：3点 A区=2 B区=0 C区=0 D区=1 M区=0

- ・住居外出土：1点 GG=1

#### 〈IA群第VII段階〉

〔IA群VIIa類・IA群VIIb類〕：23点出土、全て作図

基部を湾曲に整形する段階。IA群VIIb類に細類した数がIA群VIIa類の約5倍に達することからも、基部整形が困難な作業であることがうかがえる。

〔IA群VIIa類〕『第53図-5・11, 第55図-30・55』

- ・住居内出土：4点 A区=0 B区=0 C区=1 D区=1 M区=2

- ・住居外出土：0点

〔IA群VIIb類〕『第53図-21・24・25, 第56図-1・6・17・18・20・22・26・30・32・37・38

・43・45・46・48・59』

- ・住居内出土：18点 A区=3 B区=6 C区=0 D区=4 M区=5

- ・住居外出土：1点 PG=1

#### 〈IA群第X段階〉

〔IA群Xa類・IA群Xb類〕：48点出土、47点作図

完成石鎌に極めて近い形態であるが、左右対称でなかったり、尖端部及び脚部の微調整失敗が目立つ。

〔IA群Xa類〕『第53図-3・6・8・13~16, 第54図-4・29・30・32, 第55図-12・16・29・34~36』

- ・住居内出土：17点 A区=2 B区=7 C区=4 D区=2 M区=2

- ・住居外出土：なし

〔IA群Xb類〕『第54図-13・16・28・33・34・36・39, 第55図-37・39・46~48・51・

58, 第56図-8・9・12~14・19・21・24・25・28・34・35・40・42・44』

- ・住居内出土：29点 A区=7 B区=8 C区=3 D区=4 M区=7

- ・住居外出土：2点 DY=1 FG=1

前述では、IA群の第I段階から第X段階の各工程における、断念・失敗の形態について説明した。次にIA群「一ノ坂技法」によって製作された完成石鎌について述べる。

#### 〈IA群完成石器〉：24点

総数24点の完成石鎌をIA群Xa類、IA群Xb類、IA群Xc類、IA群Xd類、IA群Xh類の5形態に細別した。各形態別に説明を加える。

〔IA群Xa類〕：1点出土。『第53図-1』

住居内B区分層から出土している。二等辺三角形状を呈し、基部が平坦な形態を本類石鎌とした。

〔IA群X b類〕：1点出土。『第53図-12』

住居内M区から出土している。やや小型の二等辺三角形状を呈し、基部は緩やかな湾曲を呈す。

〔IA群X c類〕：5点出土。『第54図-1~3・5・23』

二等辺三角形状を呈し、基部は湾曲する。住居内のB区から2点、D区、M区から1点、土壙から1点出土している。第54図3では両縁辺が鋸歯状に整形された石鎌も認められる。

〔IA群X d類〕：14点出土。『第54図-7~12・14・15・17~19・24・27、第55図-5』

A区3点、B区6点、C区、3点D区2点、M区0点と、住居内出土で占められる。形態は脚部が発達した石鎌である。

〔IA群X h類〕：3点出土。『第55図-22・26・27』

小型の三角形状で基部が湾曲する形態である。住居内出土で占められ、A区から1点、B区2点の合計3点が認められた。

以上でIA群石器の説明を終了し、IB群石器の説明に入る。

IB群石器は総数280点の出土。第180図に示した製作工程による石鎌で、製作段階の形態は12形態、完成石鎌の形態は5形態に細別した。以下に説明する。

〈IB群第I段階〉

〔IB群I a類・IB群I b類〕：43点出土、10点作図

〔IB群I a類〕『第53図-33・35、第57図-4・5、第60図-11・13・14・23』

IB群石器は、剥片を選出し調整に入る最初のこの段階から押圧剥離を施す。

・住居内出土：33点 A区=5 B区=8 C区=5 D区=8 M区=7

・住居外出土：3点

〔IB群I b類〕『第59図-2・6』

作図した2点とも基部が欠損した状態である。

・住居内出土：6点 A区=0 B区=1 C区=0 D区=2 M区=3

・住居外出土：1点

〈IB群第II段階〉

〔IB群II a類・IB群II b類〕：29点出土中、19点作図

〔IB群II a類〕『第53図-34・45、第55図-7・21、第57図-2・7・12・15、第58図-12・14、第60図-20・25・26・28』

剥片の素材が変容しない剥離調整の段階。

- ・住居内出土：15点 A区=2 B区=4 C区=2 D区=3 M区=4
- ・住居外出土：1点 斜面

〔I B群Ⅱ b類〕『第55図-56, 第57図-3・10・24・46』

基部や尖端部調整段階の失敗。

- ・住居内出土：12点 A区=1 B区=3 C区=2 D区=4 M区=2
- ・住居外出土：1点 遺構

〈I B群第Ⅲ段階〉

〔I B群Ⅲ a類・I B群Ⅲ b類〕：37点出土、22点作図

〔I B群Ⅲ a類〕『第53図-31・37・39, 第57図-1・6, 第58図-9~11, 第60図-7・27, 第61図-8, 第62図-8』

両面調整へ移行する段階。

- ・住居内出土：16点 A区=0 B区=6 C区=2 D区=2 M区=6
- ・住居外出土：1点 土壙

〔I B群Ⅲ b類〕『第57図-19・25・31・38・44・45・47~49, 第57図-1』

- ・住居内出土：18点 A区=3 B区=4 C区=0 D区=7 M区=4
- ・住居外出土：2点 土壙=1 I G=1

〈I B群第Ⅳ段階〉

〔I B群Ⅳ a類・I B群Ⅳ b類〕：42点出土、28点作図

〔I B群Ⅳ a類〕『第53図-28・38・42, 第55図-33・42, 第57図-9, 第60図-2~4・15~18, 21・24』

微細な剥離調整に入る前の段階。石鎚としての形態が整形される。

- ・住居内出土：15点 A区=1 B区=2 C区=1 D区=5 M区=6
- ・住居外出土：1点 P G=1

〔I B群Ⅳ b類〕『第55図-42・61, 第57図-8・13・26・30・41~43, 第59図-3~6』

- ・住居内出土：23点 A区=2 B区=10 C区=1 D区=6 M区=4
- ・住居外出土：3点 D Y=2 S Y=1

〈I B群第Ⅴ段階〉

〔I B群Ⅴ a類・I B群Ⅴ b類〕：36点出土、30点作図

〔I B群Ⅴ a類〕『第53図-2・4・27・29・30・32・36・40・43・44, 第54図-31・35, 第55図-14・20・62, 第57図-11・14・17・18・20, 第62図-4』

微細な剥離調整に入る段階。

- ・住居内出土：20点 A区=5 B区=5 C区=2 D区=3 M区=5
- ・住居外出土：1点 SY=1

〔IB群Vb類〕『第53図-19・20・22・26, 第56図-15, 第57図-21・28・35, 第57図-11』

- ・住居内出土：14点 A区=1 B区=4 C区=2 D区=2 M区=5
- ・住居外出土：1点 PG=1

#### 〈IB群第VI段階〉

〔IB群VIa類・IB群VIb類〕：77点出土、47点作図

〔IB群VIa類〕『第53図-9・41, 第54図-26, 第55図-1~3・6・11・15・17~19・25・31・32・52・63, 第57図-16』

完成直前の形態。微調整剥離により左右対称、基部・尖端部の仕上げを行う。

- ・住居内出土：32点 A区=5 B区=4 C区=5 D区=10 M区=8
- ・住居外出土：なし

〔IB群VIb類〕『第54図-40, 第55図-38・41・44・45・49・50・53・54・57・60, 第56図-2・4・5・7・10・11・16・23・27・29・31・33・36・37・39・41・43・47』

IB群の形態で最も多い。仕上げ調整の失敗による形態。

- ・住居内出土：44点 A区=7 B区=16 C区=2 D区=9 M区=10
- ・住居外出土：1点 SY=1

これまでにIB群の第I段階から第VI段階の各工程における、断念・失敗の形態について説明した。次にIB群「薄形剥片を素材とする技法」によって製作された完成石器について述べる。

#### 〈IB群完成石器〉：15点出土

IB群VIb類、IB群VIc類、IB群VId類、IB群VIf類、IB群VIIh類の5形態に細別した。列記した順に説明する。

〔IB群VIb類〕：1点出土。『第53図-10』

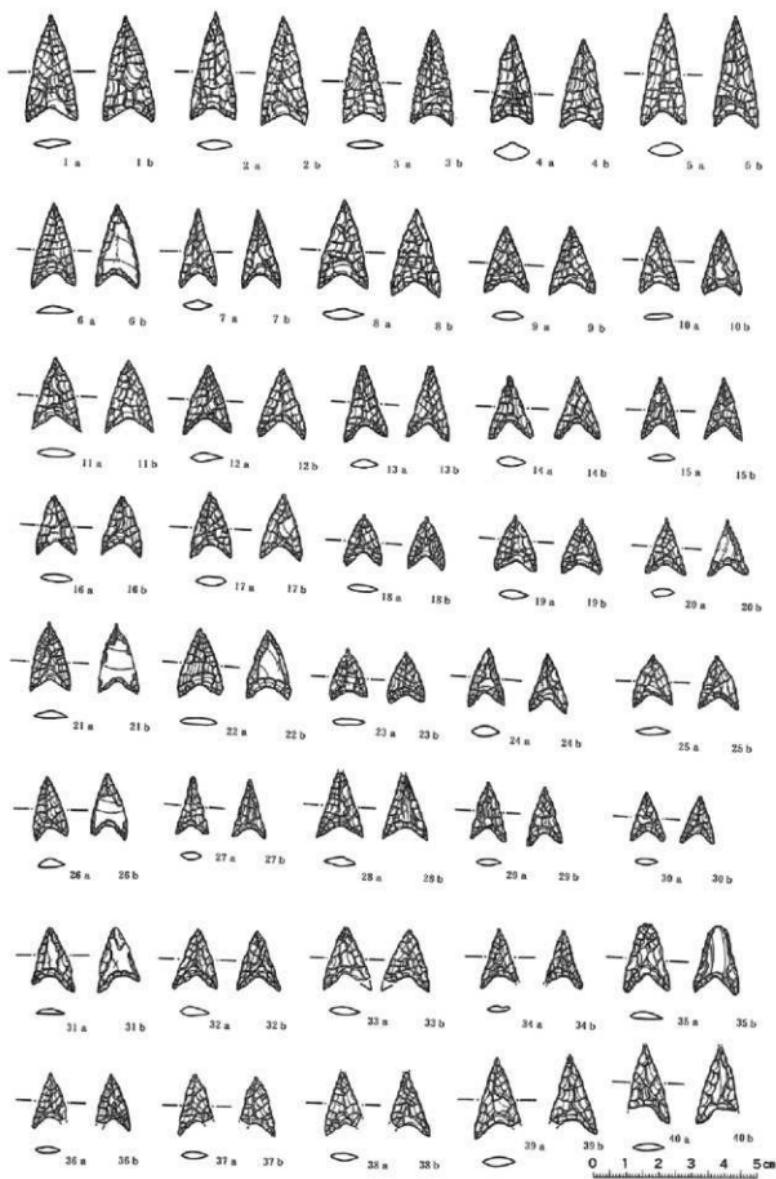
住居内D区I層からの出土。小形状の二等辺三角形状を呈し、緩やかに基部が湾曲する形態である。両面に一次剥離面を有す。

〔IB群VIc類〕：3点出土。『第54図-6, 第55図-8・13』

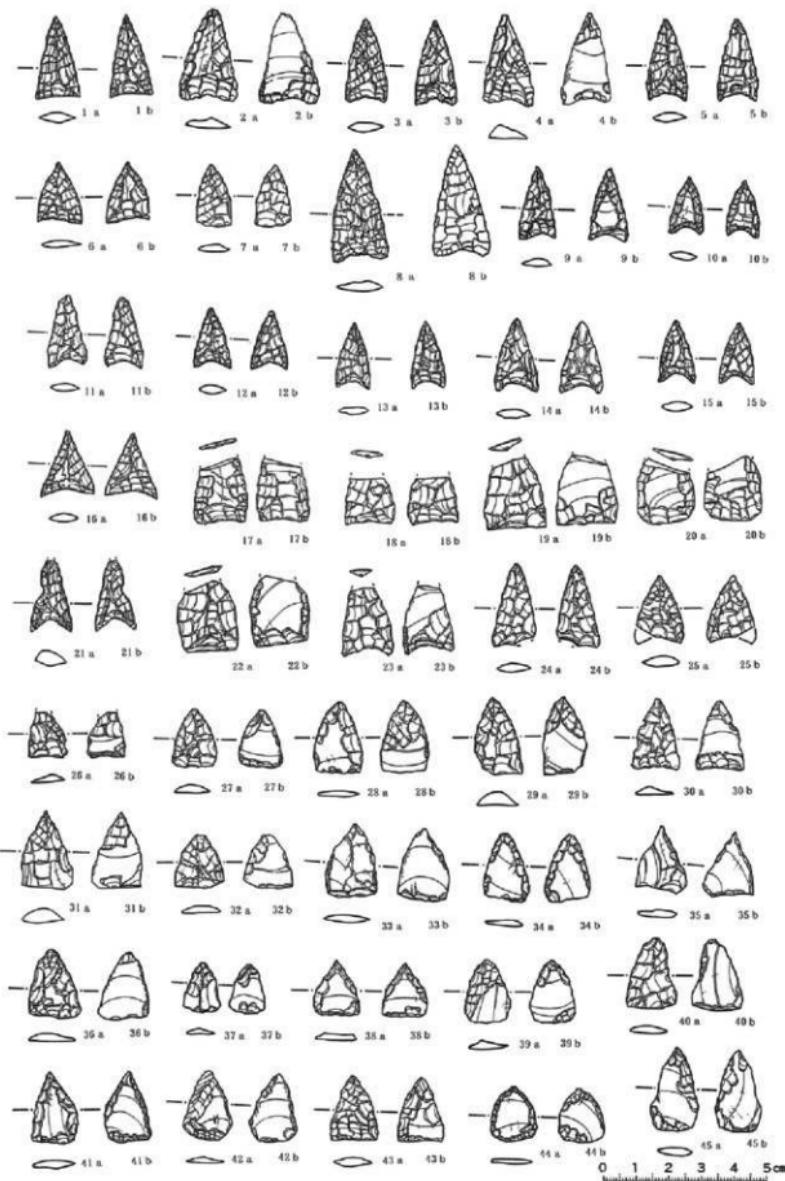
住居内D区I層から2点、M区I層から1点出土。二等辺三角形状を呈し、脚部がやや発達した形態である。

〔IB群VId類〕：7点出土。『第54図-20~22・25, 第55図-4・9・10』

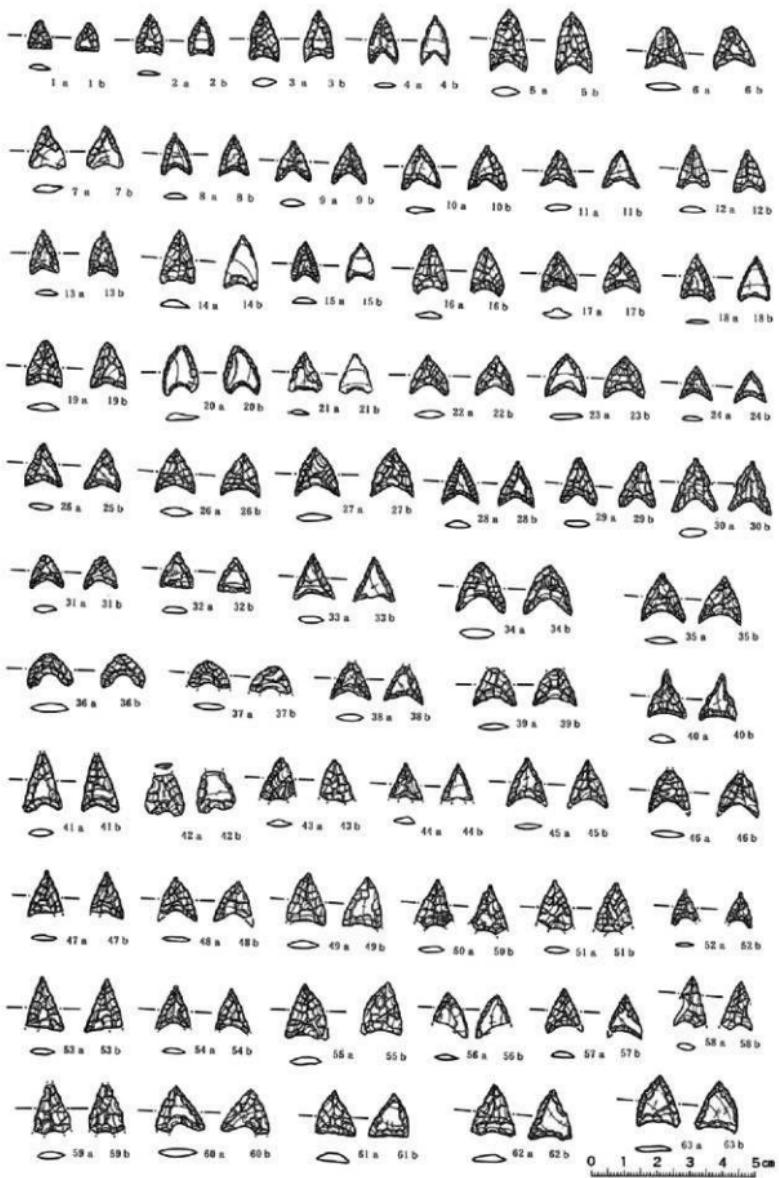
住居内B区から4点、C区から2点、D区から1点出土。三角形状で、発達した脚部を有する形態である。IB群を代表する完成石器といえる。



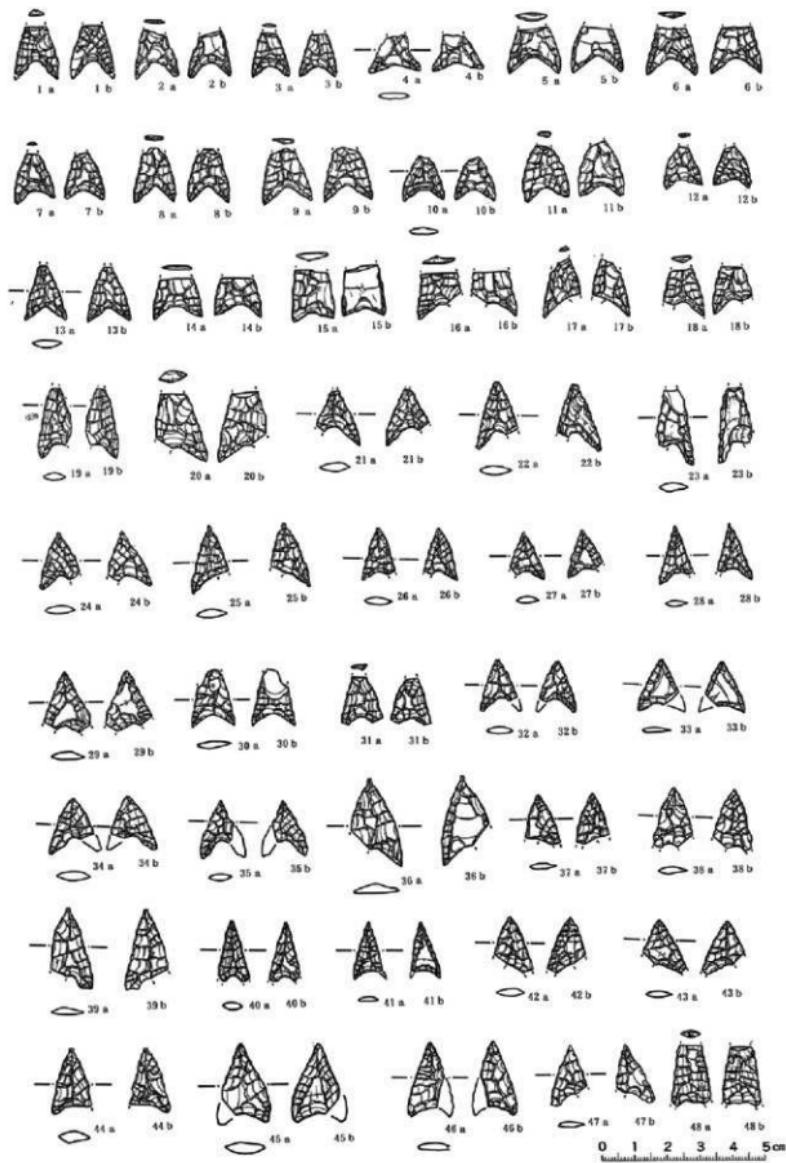
第53図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(1)



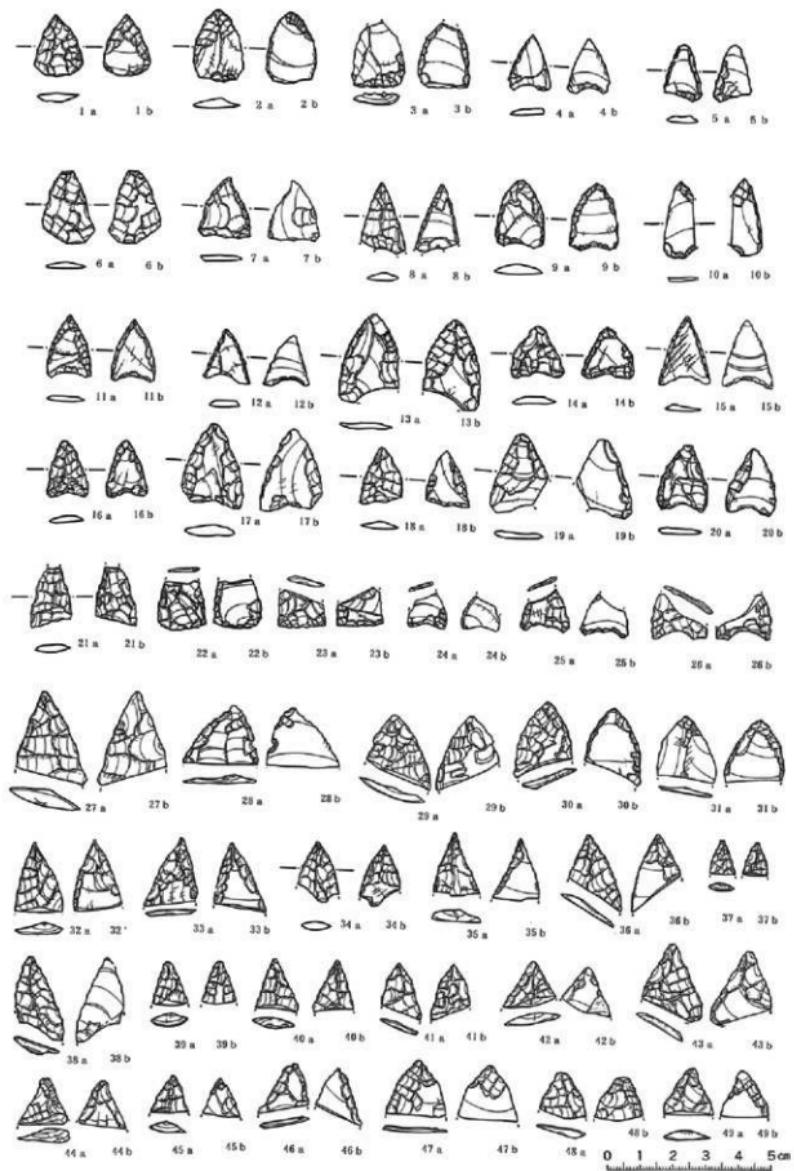
第54図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土I群石器実測図(2)



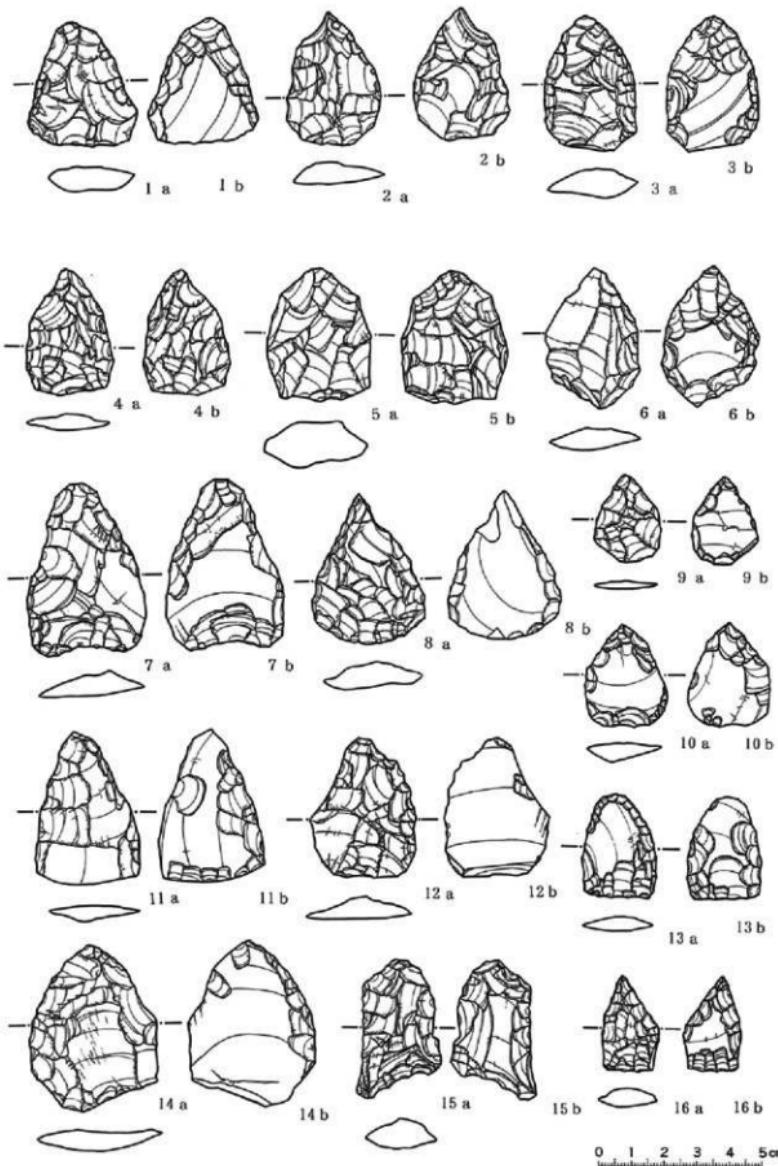
第55図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(3)



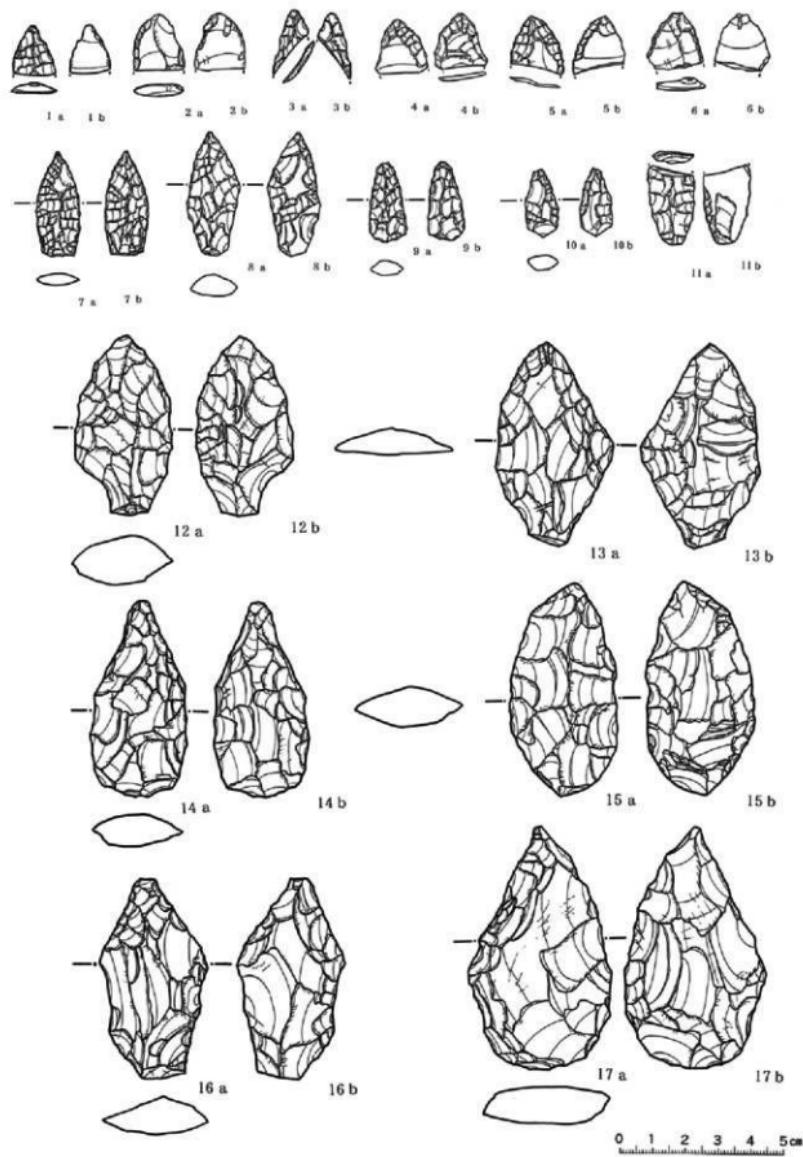
第56図 一ノ坂遺跡第1次調査出土I群石器実測図(4)



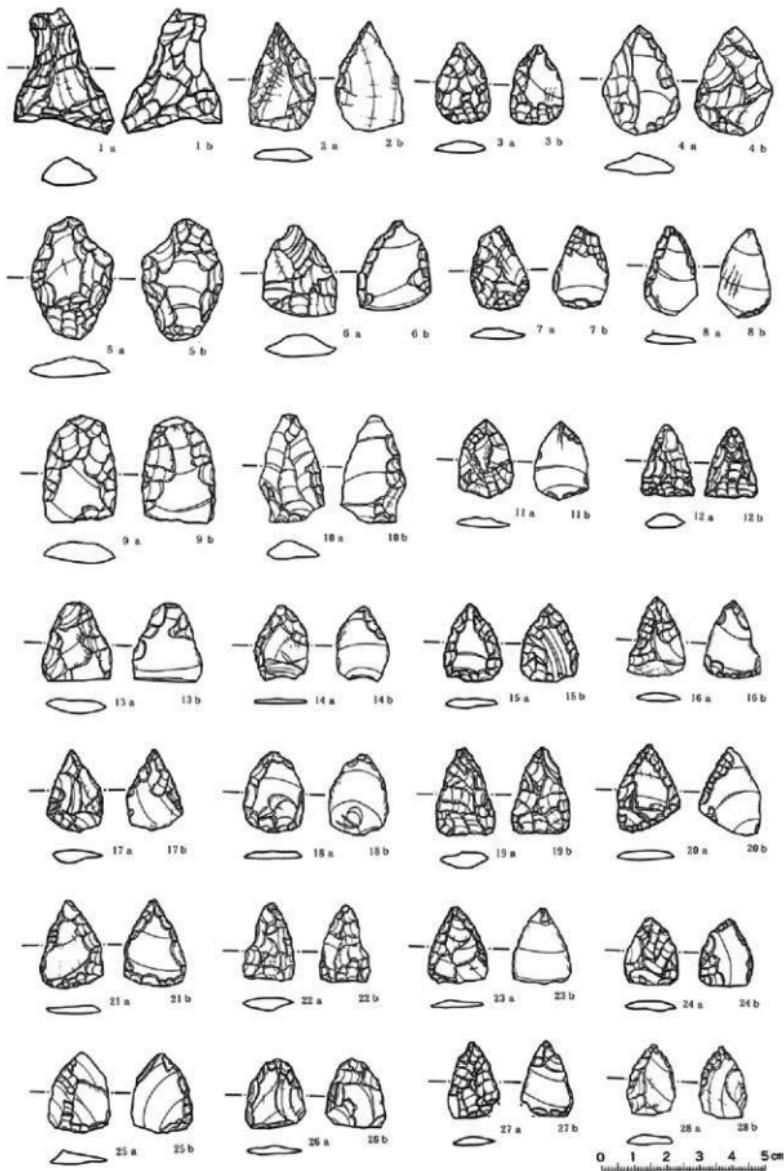
第57図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(5)



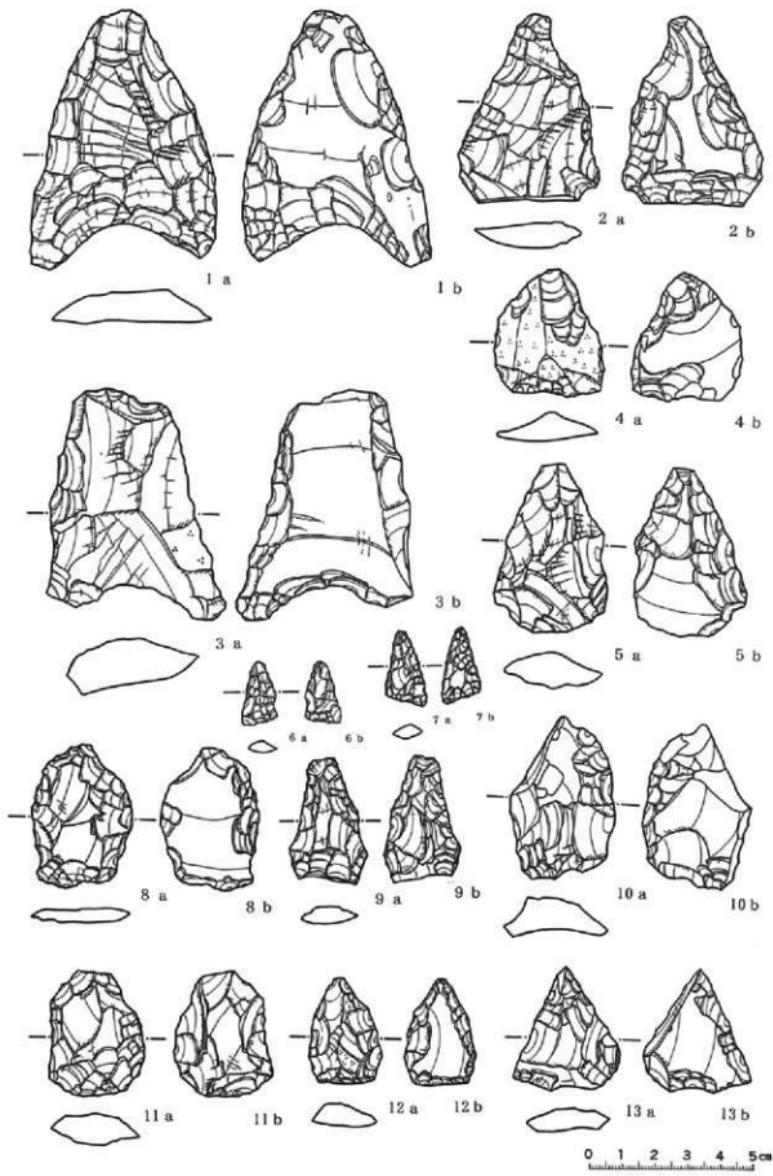
第58図 一ノ坂遺跡第1次調査出土I群石器実測図(6)



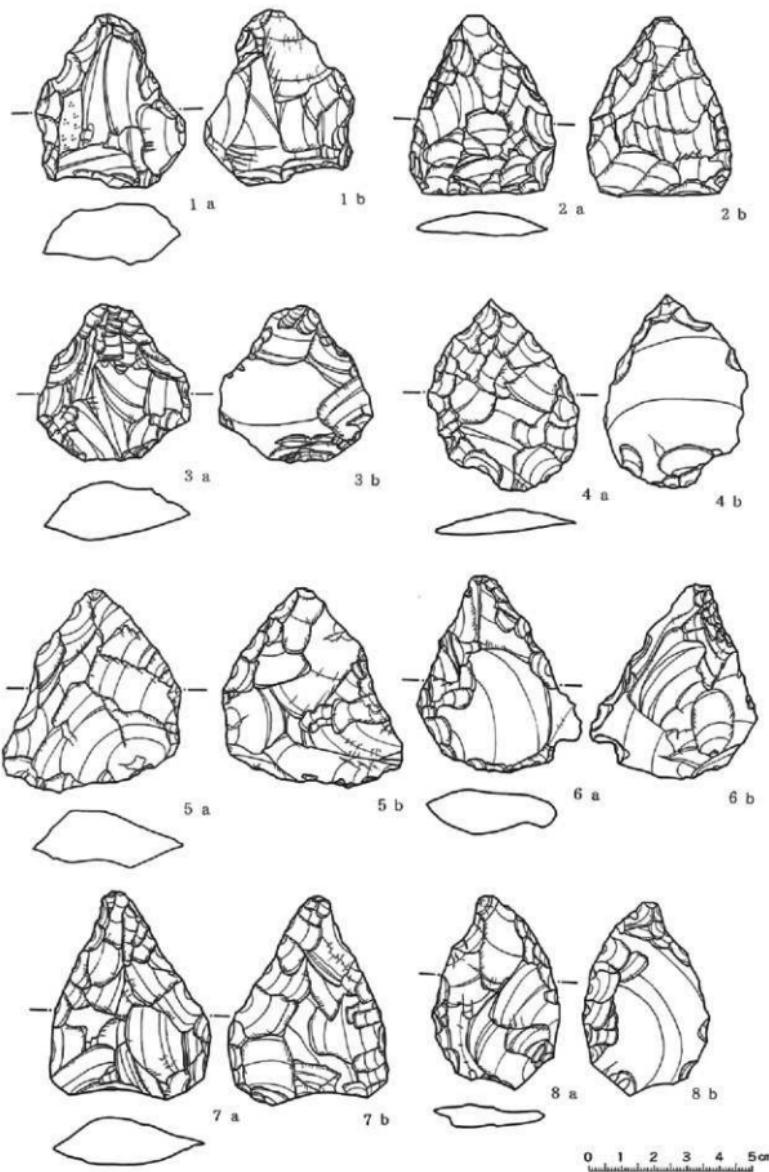
第59図 一ノ板遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(7)



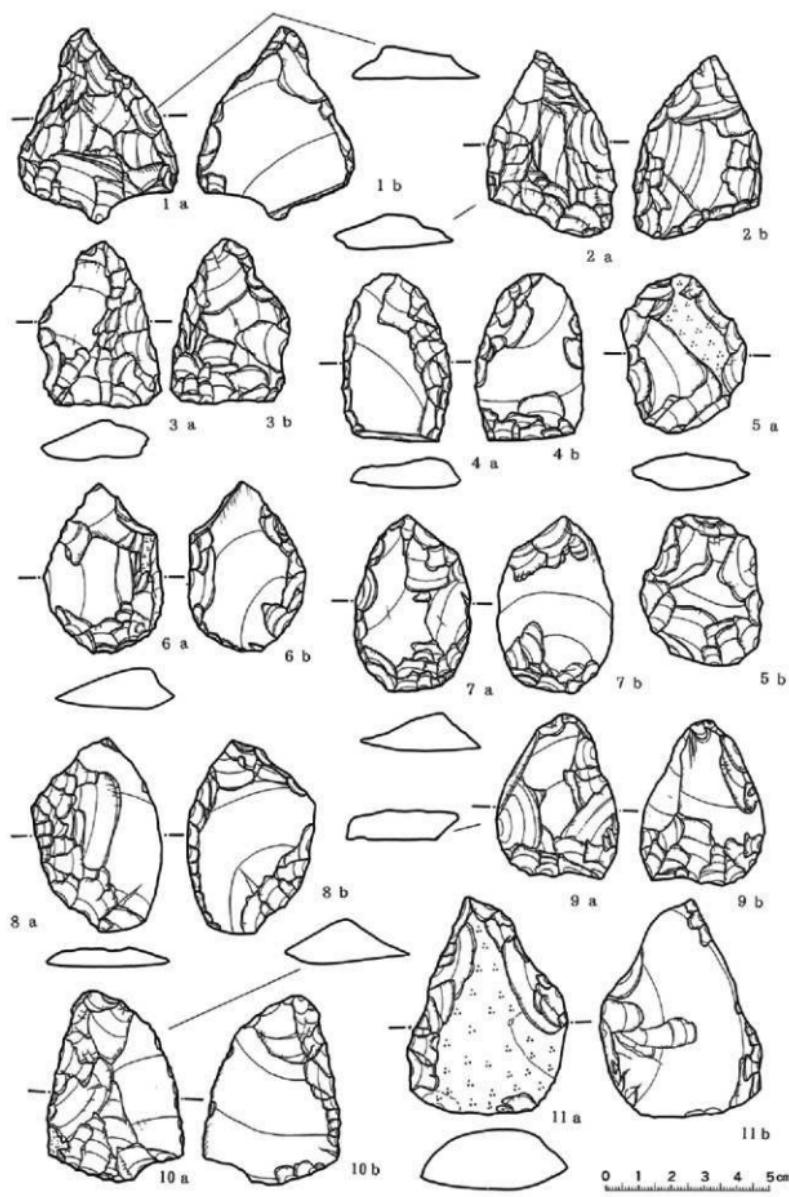
第60図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(8)



第61図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(9)



第62図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(10)



第63図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅰ群石器実測図(11)

〔I B群VII f類〕：1点出土。『第55図-40』

住居内A区I層からの出土。尖状部が細身を呈す形態である。

〔I B群VII h類〕：3点出土。『第55図-23・24・28』

B・C・D区I層から各1点出土。小型の三角形を呈す形態。

## 2) II群石器〈石匙〉

総数962出土した。各区の出土状況は第1表に示した。本遺跡においては、完成に至らない形態が数多く出土したことから、これらの製作途上の形態を整理するために、第183図～第189図を作成し、完成石匙の吟味から素材の剥片を見出し、素材の選択段階から大別し、更に剥離調整の形態から下記に分類、細類を加えた。詳細は挿図参照。大別を下記に示す。

II A群—両面調整石匙〔一ノ坂技法による石匙製作工程、両面調整〕

II B群—片面調整石匙〔一ノ坂技法による石匙製作工程、片面調整〕

II C群—片面調整石匙〔薄形剥片を素材とする石匙〕

第15表 一ノ坂遺跡第I次調査《II群石器》出土総計表

・住居内出土：865点

### 出土地区別

A区	B区	C区	D区	M区
153	205	116	195	169

### 層位別

I層	II層	III層	IV層
215	227	253	170

・住居外出土：83点

D Y	S Y	斜面	F G	G G	H G	I G	N G	P G	K Y	表採
5	30	15	2	4	2	2	5	11	2	5

### 〈II A群第I段階〉

〔II A群I a類、II A群I b類〕：6点出土、1点作図

〔II A群I a類〕『第82図-1』

素材を選択し、縁辺調整を開始する段階。B区2点、C区、D区各1点出土。

〔II A群I b類〕

上記段階の失敗品。B区、D区から各1点出土。

### 〈II A群第II段階〉

〔II A群II a類、II A群II b類〕：19点出土、5点作図

〔II A群II a類〕『第69図-4、第80図-6、第82図-5、第83図-3、第85図-1』

・両面からの縁辺調整によって、剥片を目的の形状に整形していく段階。

- ・住居内出土：6点 A区=0 B区=3 C区=0 D区=1 M区=2
- ・住居外出土：6点 SY=6

#### 〔II A群II b類〕

上記段階での失敗。破損面を有す。

- ・住居内出土：6点 A区=1 B区=2 C区=1 D区=1 M区=1
- ・住居外出土：1点 SY=1

#### 〔II A群III段階〕

〔II A群III a類、II A群III b類〕：32点出土、4点作図

〔II A群III a類〕『第79図-1・2、第82図-3、第83図-1』

基部と尖端部を意識して調整を開始する段階。

- ・住居内出土：17点 A区=1 B区=6 C区=2 D区=6 M区=2
- ・住居外出土：11点 SY=10 NG=1

#### 〔II A群III b類〕

- ・住居内出土：3点 A区=1 B区=0 C区=0 D区=1 M区=1
- ・住居外出土：1点 SY=1

#### 〔II A群IV段階〕

〔II A群IV a類、II A群IV b類〕：19点出土、5点作図

〔II A群IV a類〕『第78図-3・4、第80図-3、第83図-2』

基部と尖端部が明確に整形された段階。

- ・住居内出土：10点 A区=2 B区=5 C区=2 D区=1 M区=0
- ・住居外出土：6点 SY=4 C区斜面=1 NG=1

#### 〔II A群IV b類〕『第90図-1』

- ・住居内出土：2点 A区=1 B区=1 C区=0 D区=0 M区=0
- ・住居外出土：1点 PG=1

#### 〔II A群V段階〕

〔II A群V a類、II A群V b類〕：15点出土、4点作図

〔II A群V a類〕『第80図-1、第84図-1』

中央部に最大幅を有す形態。面調整の第V段階までは直接打法で、次の第VI段階から押圧剥離が開始されると考える。

- ・住居内出土：5点 A区=1 B区=3 C区=1 D区=0 M区=0
- ・住居外出土：なし

〔II A群V b類〕『第87図-9、第93図-6』

第87図9は尖端部破損、第93図6は基部破損。

- ・住居内出土：9点 A区=2 B区=3 C区=1 D区=3 M区=0
- ・住居外出土：1点 F G=1

#### 〈II A群第M段階〉

〔II A群VI a類、II A群VI b類〕：15点出土、5点作図

〔II A群VI a類〕『第80図-2』

細身に整形される段階。

- ・住居内出土：4点 A区=1 B区=2 C区=0 D区=1 M区=0
- ・住居外出土：1点 S Y=1

〔II A群VI b類〕『第86図-3～5、10』

縁辺調整の失敗を有する形態。

- ・住居内出土：10点 A区=4 B区=1 C区=0 D区=1 M区=4
- ・住居外出土：なし

#### 〈II A群第VI段階〉

〔II A群VI a類、II A群VI b類〕：19点出土、8点作図

〔II A群VI a類〕『第68図-2』

基部は平坦に、尖端部は更に細身に整形する段階。

- ・住居内出土：7点 A区=0 B区=2 C区=1 D区=3 M区=1
- ・住居外出土：なし

〔II A群VI b類〕『第86図-1・2・7・9、第88図-8、第94図-6、第100図-8』

- ・住居内出土：12点 A区=3 B区=4 C区=2 D区=0 M区=3
- ・住居外出土：なし

#### 〈II A群第VII段階〉

〔II A群VII a類、II A群VII b類〕：8点出土、2点作図

〔II A群VII a類〕『第68図-2』

つまみ部を整形する段階。

- ・住居内出土：2点 A区=2

〔II A群VII b類〕『第126図-2』

つまみ部整形の失敗形態を有す。

- ・住居内出土：6点 A区=1 B区=1 C区=2 D区=0 M区=2
- ・住居外出土：なし

#### 〈II A群第K段階〉

〔II A群K a類、II A群K b類〕：3点出土、全て作図

〔II A群K a類〕『第69図-9』

M区Ⅲ層から1点出土。つまみ部も完成し、全体の微調整段階の形態である。〔II A群K b類〕『第69図-12、第73図-6』

B区Ⅲ層から2点出土。第69図12はつまみ部調整失敗と思われる。

〔II A群完成石器〕：1点出土

第69図の形態が、II A群の完成石器である。本群はこの1点であり、住居内D区Ⅰ層からの出土であった。縁辺に使用痕は観察されない。

次にII B群を述べる。II B群石器は総数493点出土中、191点を作図。下記に説明を加える。第185図～第187図参照。

〔II B群第I段階〕

〔II B群I a類、II B群I b類〕：73点出土、4点作図

〔II B群I a類〕

素材を選出し、剥離調整を開始する段階。

- ・住居内出土：4点 A区=0 B区=1 C区=2 D区=0 M区=1
- ・住居外出土：9点 SY=9

〔II B群I b類〕『第89図-2、第91図-6、第94図-5、第99図-4』

最初の剥離調整失敗品。

- ・住居内出土：33点 A区=4 B区=3 C区=8 D区=10 M区=8
- ・住居外出土：27点 SY=26 MG斜面=1

〔II B群第II段階〕

〔II B群II a類、II B群II b類〕：56点出土、7点作図

〔II B群II a類〕

縁辺調整を剥片全体に開始する段階。

- ・住居内出土：9点 A区=2 B区=3 C区=1 D区=1 M区=2
- ・住居外出土：4点 SY=4

〔II B群II b類〕『第74図-3、第87図-5、第91図-5・8、第97図-6、第98図-2、第99図-1』

縁辺からの隔離調整失敗による破損面を有する。

- ・住居内出土：39点 A区=5 B区=17 C区=4 D区=5 M区=8
- ・住居外出土：4点 SY=4

〔II B群第III段階〕

〔II B群III a類、II B群III b類〕：48点出土、11点作図

### 〔Ⅱ B群Ⅲ a類〕

剥片を均等な幅に仕上げる調整段階。

- ・住居内出土：5点 A区=0 B区=2 C区=1 D区=0 M区=2
- ・住居外出土：5点 SY=5

〔Ⅱ B群Ⅲ b類〕『第87図-1, 第89図-1・5・6・8, 第90図-3, 第91図-7, 第92図-9, 第94図-3, 第95図-7, 第98図-5』

第Ⅲ段階の失敗作。

- ・住居内出土：25点 A区=8 B区=8 C区=2 D区=4 M区=3
- ・住居外出土：13点 SY=11 NG=1 斜面=1

〈Ⅱ B群第Ⅳ段階〉

〔Ⅱ B群Ⅳ a類、Ⅱ B群Ⅳ b類〕：53点中、13点作図

〔Ⅱ B群Ⅳ a類〕

両端部を目的に沿って整形を開始する段階。A区、D区から各1点、SYから2点、合計4点が出土している。

〔Ⅱ B群Ⅳ b類〕『第87図-2・6, 第90-図5, 第92-図4, 第94図-1・7・8, 第95図-1・3, 第97図-1・7, 第98図-9, 第99図-2』

第Ⅳ段階での失敗石器。

- ・住居内出土：35点 A区=8 B区=7 C区=5 D区=11 M区=4
- ・住居外出土：14点 SY=12 KY2=1 PG=1

〈Ⅱ B群第Ⅴ段階〉

〔Ⅱ B群Ⅴ a類、Ⅱ B群Ⅴ b類〕：71点出土、13点作図

〔Ⅱ B群Ⅴ a類〕『第78図-1, 第80図-5, 第81図-6』

4点出土。押圧剥離調整が主流になる段階。第78図1はSY8(基部)とC区Ⅳ層(尖端部)、第80図5はC区I層(基部)とD区Ⅲ層(尖端部)から出土した石器の接合である。

- ・住居内出土：4点 A区=1 B区=0 C区=1 D区=1 M区=1
- ・住居外出土：出土なし

〔Ⅱ B群Ⅴ b類〕『第72図-4・5, 第74図-14, 第88図-3, 第91図-3, 第92図-5, 第96図-7, 第98図-8・10, 第99図-6』

中央部のやや下方に破損面を有する形態が多い。

- ・住居内出土：53点 A区=9 B区=15 C区=7 D区=12 M区=10
- ・住居外出土：14点 B斜=2 D斜=1 GG=1 SY=3 IG=1  
DY=1 NG=3 PG=2

## 〈II B群第VI段階〉

〔II B群VI a類、II B群VI b類〕：32点出土、19点作図

### 〔II B群VI a類〕

石器の作業縁辺を整形する段階。B区I層、M区斜面から各1点出土

〔II B群VI b類〕『第89図-3・7、第90図-4、第92図-7、第93図-2・4・5、第94図-2・4、第95図-5、第96図-3・5・8、第97図-2~4、第98図-7、第100図-5・7』

第97図-2の形態を有する整形が出現する段階。

- ・住居内出土：20点 A区=4 B区=5 C区=3 D区=5 M区=3
- ・住居外出土：10点 SY=5 HG=1 IG=1 NG=1 PG=2

## 〈II B群第VII段階〉

〔II B群VII a類、II B群VII b類〕：57点出土、27点作図

### 〔II B群VII a類〕

基部（つまみ部）や、微細な調整を除き整形が完了する段階。D区III層、SY8から各1点の出土であった。

〔II B群VII b類〕『第74図-16・17、第86図-8、第87図-4・7・10、第88図-1・4、第90図-7、第91図-1・2、第92図-3・6・8、第93図-1、第95図-2・4・6、第96図-2・6、第97図-5・8、第98図-1・3、第100図-2~4』

破損面を有する形態が多くなる段階。

- ・住居内出土：43点 A区=7 B区=14 C区=1 D区=10 M区=11
- ・住居外出土：12点 DY=2 SY=7 DG斜=1 PG=1 表採=1

## 〈II B群第VIII段階〉

〔II B群VIII a類、II B群VIII b類〕：37点出土、33点作図

### 〔II B群VIII a類〕

・出土なし

〔II B群VIII b類〕『第71図-6・7・10、第72図-2・8・11、第73図-15、第74図-12・15、第86図-6、第87図-3・8・11、第88図-2・5~7、第89図-4、第90図-2・6、第91図-4、第92図-1・2、第93図-3・7、第96図-1・4、第98図-4・6、第99図-3・5、第100図-1・6』

つまみ部の整形を開始する段階。第71図-6・7・10は、つまみ部が完成していない形態と考えたい。

- ・住居内出土：31点 A区=3 B区=9 C区=5 D区=8 M区=6
- ・住居外出土：6点 B斜面=1 D斜面=2 M斜面=1 PG=2

## 〈II B群第IX段階〉

〔ⅡB群K a類、ⅡB群K b類〕：30点出土、25点作図

〔ⅡB群K a類〕『第64図-4、第65図-10、第69図-7』

つまみ部の整形も完了し、縁辺に対して最後の調整をする段階。この段階の断念石器として、C区斜面・FG・PGから各1点出土。

〔ⅡB群K b類〕『第71図-3・4・13・14、第72図-1・15、第73図-1・3～5、10～14・18・19・21、第74図-1・2・4・6・8・10・11』

本類の失敗石器。

・住居内出土：24点 A区=4 B区=6 C区=1 D区=5 M区=8

・住居外出土：3点 DY=2 表採=1

以上でⅡB群石器第I段階から第IX段階までの説明を終了する。

次にⅡB群石器の完成石器について述べたい。

〈ⅡB群完成石器〉41点

これらの石器はⅡB群X a類～X g類の7形態に細別した。完成石器には、使用による磨滅痕を観察した石器が多く認められる。細別は、完成時点での形態を考慮して行った。列挙した順に説明する。

〔ⅡB群X a類〕『第64図-1・2、第71図-5』

第64図1が完成時点の形態と考えられる。同2図は、使用することによって変容したと考えたい。住居内のA区I層から1点、B区IV層から2点出土した。第71図5は使用による欠損が認められる。

〔ⅡB群X b類〕『第65図-5』

第65図5の形態を有する石匙である。PG II層からの出土。

〔ⅡB群X c類〕『第69図-10・11』

C区I層、D区III層から各1点出土。尖状部を有する石匙群である。第69図11は縁辺にハジケ面を有す。

〔ⅡB群X d類〕『第64図-3・5～8、第65図-1～4・7～9、第66図-15、第67図-9・11、第69図-5、第70図-12、第71図-8』

細身で、つまみ部から両縁辺が平行にはしり、尖端部で鋭角に曲がる。

・住居内出土：15点 A区=2 B区=5 C区=1 D区=3 M区=4

・住居外出土：3点 NG=1 PG=1 表採=1

〔ⅡB群X e類〕『第70図-1・7・11』

A区III層2点、同区IV層1点。

〔ⅡB群X f類〕『第68図-3、第69図-4・6』

丸みを有する形態に整形した石匙群。A区Ⅲ層2点、D区Ⅲ層1点。

〔ⅡB群K類〕『第69図-1、第72図-6・7・10・12~14、第73図-7、第74図-5・9・13』

第69図-1を除き、使用の際に欠損した形態。

- ・住居内出土：11点 A区=0 B区=4 C区=2 D区=1 M区=4

〔ⅡC群石器〕318点

薄形剥片を素材とする石匙群であり、完成石器の形態から素材の剥片が容易に判断できる剥離調整である。第Ⅰ段階から第Ⅶ段階の工程を経て完成するものと想定した。各段階の説明に入る。〔第188図・第189図参照〕

〔ⅡC群第Ⅰ段階〕

〔ⅡC群Ia類・ⅡC群Ib類〕：48点出土、5点作図

〔ⅡC群Ia類〕『第78図-2、第83図-4・6、第84図-2』

剥片を選出し、剥離調整を開始する段階。

- ・住居内出土：7点 A区=1 B区=1 C区=2 D区=3 M区=0
- ・住居外出土：なし

〔ⅡC群Ib類〕『第67図-12』

ⅡC群の場合は最初の段階から押圧剥離調整である。

- ・住居内出土：41点 A区=7 B区=7 C区=9 D区=6 M区=12
- ・住居外出土：なし

〔ⅡC群第Ⅱ段階〕

〔ⅡC群IIa類・ⅡC群IIb類〕：67点出土、18点作図

〔ⅡC群IIa類〕『第66図-2・14、第67図-8・13、第68図-10、第71図-2、第75図-5、第76図-2・4・8、第77図-3、第83図-2・5、第84図-3、第85図-3・4』

縁辺に対しての剥離調整が続行される段階。つまみ部の箇所が明確になる。

- ・住居内出土：19点 A区=4 B区=4 C区=3 D区=6 M区=2
- ・住居外出土：10点 SY=8 B区斜面=1 表採=1

〔ⅡC群IIb類〕『第73図-2』

第Ⅱ段階の失敗であり、第73図2は、基部に近い縁辺調整の際に破損したものと考えられる。

- ・住居内出土：34点 A区=8 B区=8 C区=3 D区=9 M区=6
- ・住居外出土：3点 SY=3

〔ⅡC群第Ⅲ段階〕

〔ⅡC群IIIa類・ⅡC群IIIb類〕：51点出土、12点作図

〔ⅡC群IIIa類〕『第75図-2・7、第76図-5・6、第77図-1・2・4、第81図-2~5』

石匙として形態が判る形状に剥離調整が進む段階。

- ・住居内出土：18点 A区=5 B区=3 C区=2 D区=6 M区=2
- ・住居外出土：4点 SY=1 C区斜面=1 GG=1 NG=1

〔II C群III b類〕

第III段階の失敗品。

- ・住居内出土：26点 A区=2 B区=5 C区=6 D区=7 M区=6
- ・住居外出土：3点 SY=3

〔II C群第IV段階〕

〔II C群N a類・II C群N b類〕：36点出土、4点作図

〔II C群N a類〕『第77図-5, 第80図-4, 第81図-1, 第82図-4』

つまみ部の整形を除き、縁辺調整が終了する段階。第77図5には使用痕あり。

- ・住居内出土：12点 A区=3 B区=3 C区=0 D区=2 M区=4
- ・住居外出土：1点 M区斜面=1

〔II C群N b類〕『第77図-8』

第IV段階の失敗。

- ・住居内出土：21点 A区=4 B区=2 C区=5 D区=7 M区=3
- ・住居外出土：2点 SY=2

〔II C群第V段階〕

〔II C群V a類・II C群V b類〕29点出土、8点作図

〔II C群V a類〕『第67図-5・15, 第75図-1・3・4・6』

微細な調整を加える段階。つまみ部の整形は開始されていない。

- ・住居内出土：15点 A区=1 B区=0 C区=3 D区=6 M区=5
- ・住居外出土：2点 SY=1 GG=1

〔II C群V b類〕『第67図-6, 第77図-6』

第V段階の失敗品。

- ・住居内出土：11点 A区=3 B区=2 C区=2 D区=2 M区=2
- ・住居外出土：1点 表採=1

〔II C群第VI段階〕

〔II C群VI a類・II C群VI b類〕26点出土、10点作図

〔II C群VI a類〕『第67図-3・14, 第75図-8, 第76図-1・3・7』

つまみ部の整形を開始する段階。

- ・住居内出土：12点 A区=4 B区=3 C区=1 D区=3 M区=1

- ・住居外出土：1点 SY=1

〔II C群VI b類〕『第73図-23, 第67図-7・10, 第77図-7』

第VI段階の失敗品。

- ・住居内出土：11点 A区=1 B区=3 C区=2 D区=2 M区=3

- ・住居外出土：2点 SY=1 KY=1

〈II C群第VII段階〉

〔II C群VI a類・II C群VI b類〕26点出土、22点作図

〔II C群VI a類〕『第66図-4・9・10・13・16・18, 第67図-1・2・4, 第68図-11, 第70図-2・3・6・9』

微細な調整を残し、整形が終了する段階。

- ・住居内出土：11点 A区=5 B区=2 C区=0 D区=2 M区=2

- ・住居外出土：3点 HG=1 IG=1 PG=1

〔II C群VI b類〕『第71図-11, 第72図-3, 第73図-8・9・16・17・20・24』

最終段階での失敗品。

- ・住居内出土：11点 A区=3 B区=2 C区=1 D区=2 M区=3

- ・住居外出土：1点 SY=1

以上でII A群の第I段階から第VII段階までの形態についての説明を終了する。

次は本群の完成石器について述べる。

〈II C群完成石器〉：32点

II C群VI a類・II C群VI b・II C群VI c類・II C群VI d類・II C群VI e類の5形態に細類した。列举した順に説明を加える。

〔II C群VI a類〕：11点出土『第65図-6・11・12, 第66図-7・8・11・12, 第68図-4, 第20図-4・5, 第71図-12』

細身に整形した石匙である。II B群X a類に類似する。

- ・住居内出土：11点 A区=1 B区=1 C区=3 D区=3 M区=2

- ・住居外出土：1点 HG=1

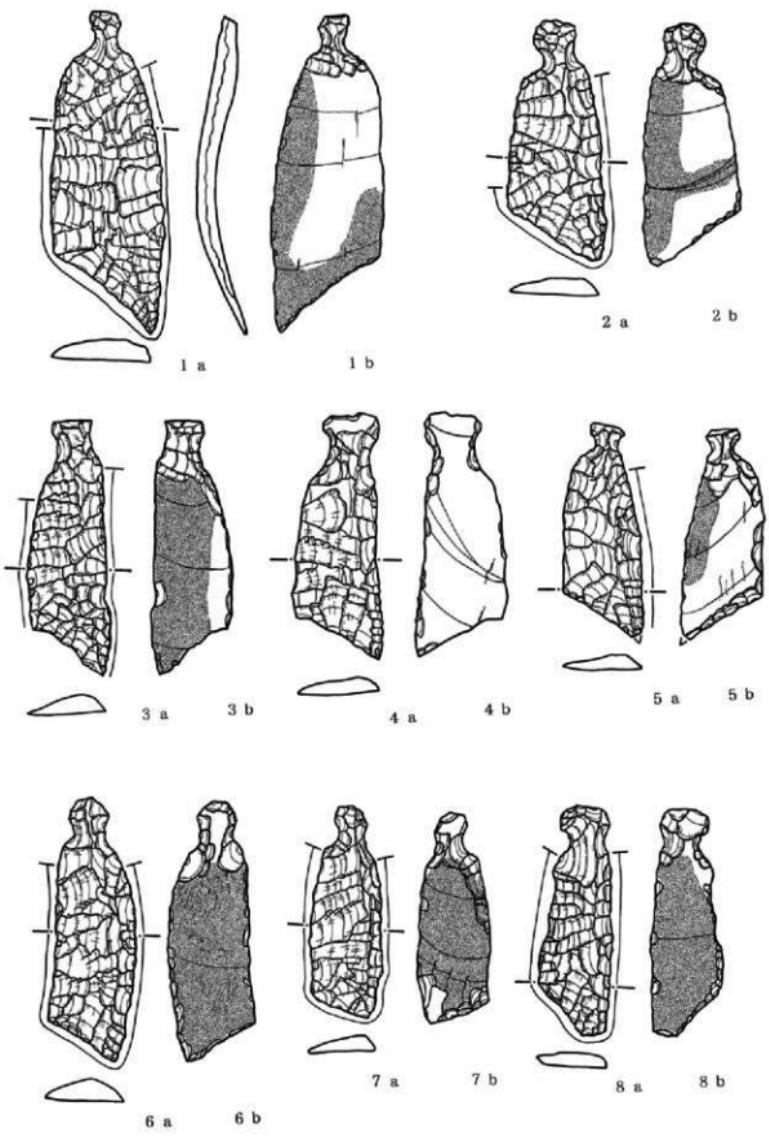
〔II C群VI b類〕：3点出土『第68図-9, 第70図-10, 第71図-9』

長方形に整形した石匙。B区I層、M区III層、SYから各1点。

〔II C群VI c類〕：5点出土『第68図-1・12, 第69図-2・3, 第71図-1』

小型状で尖状部を有する石匙である。住居内出土で占められる。A・M区各2点、B区I層から1点。

〔II C群VI d類〕：10点出土『第66図-1・3・5・6・17, 第68図-5~8, 第70図-8』丸みを

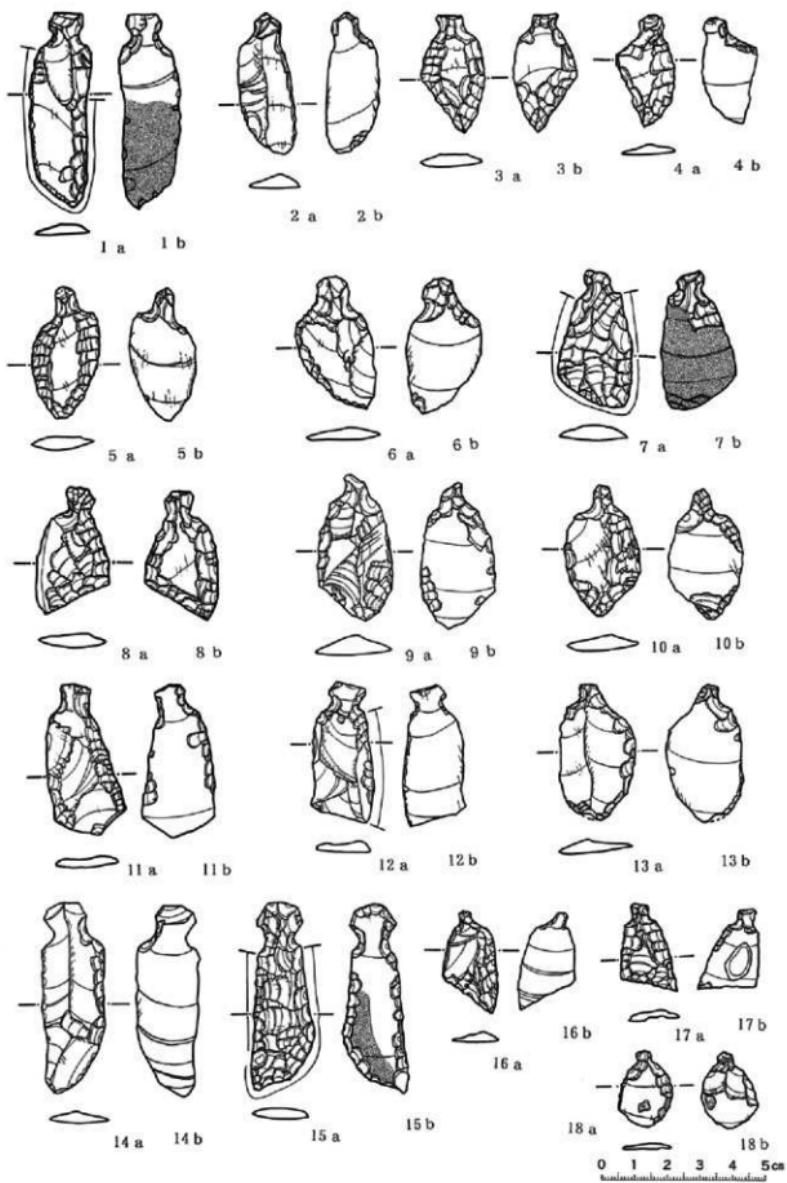


0 1 2 3 4 5 cm

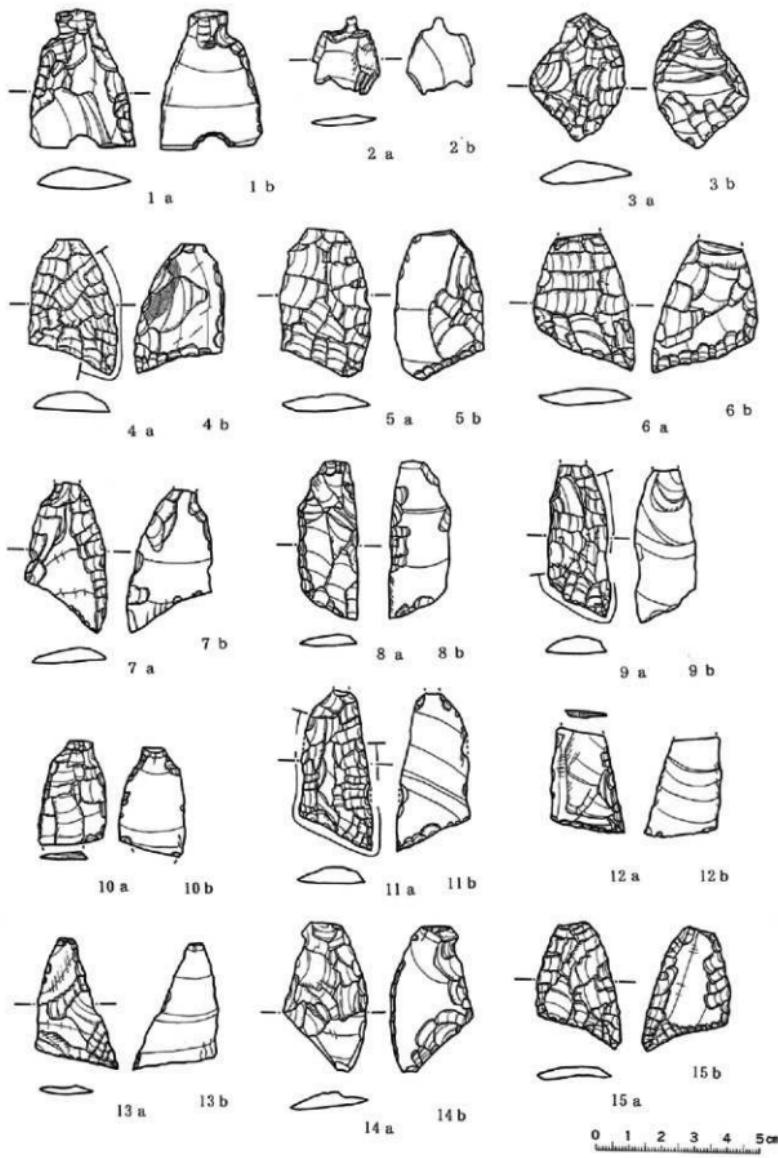
第64図 一ノ坂遺跡第1次調査出土Ⅱ群石器実測図(1)



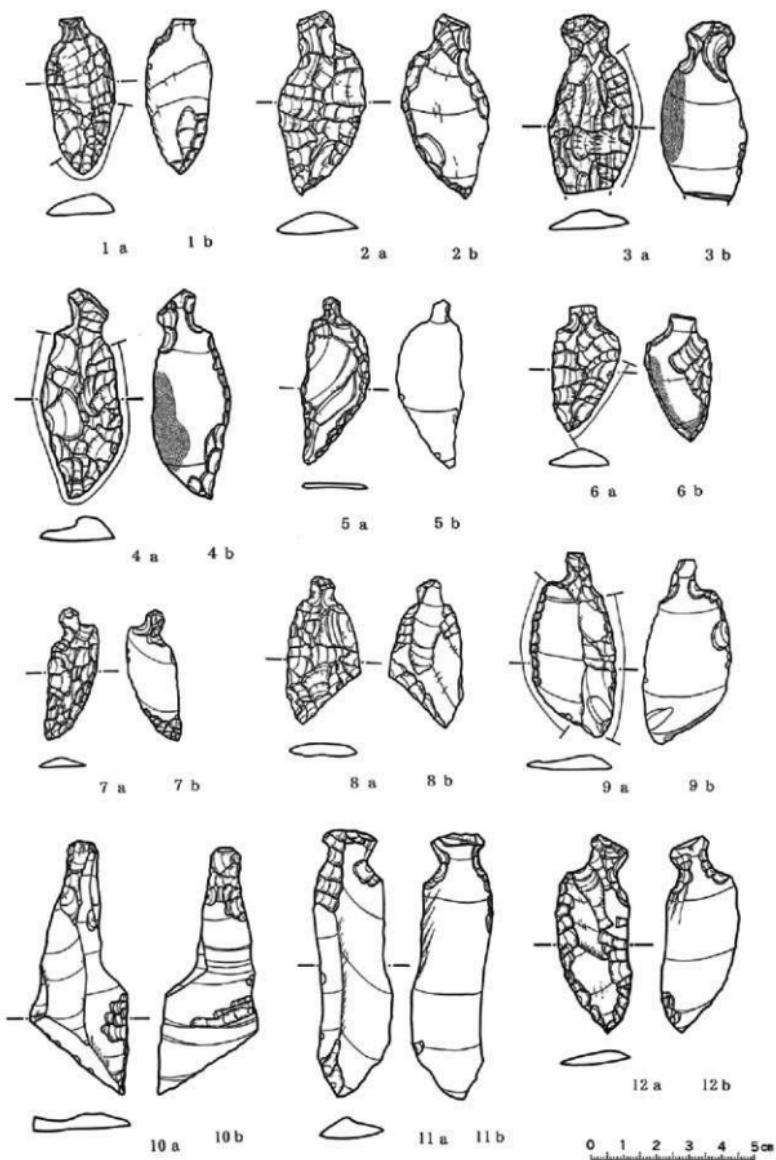
第65図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(2)



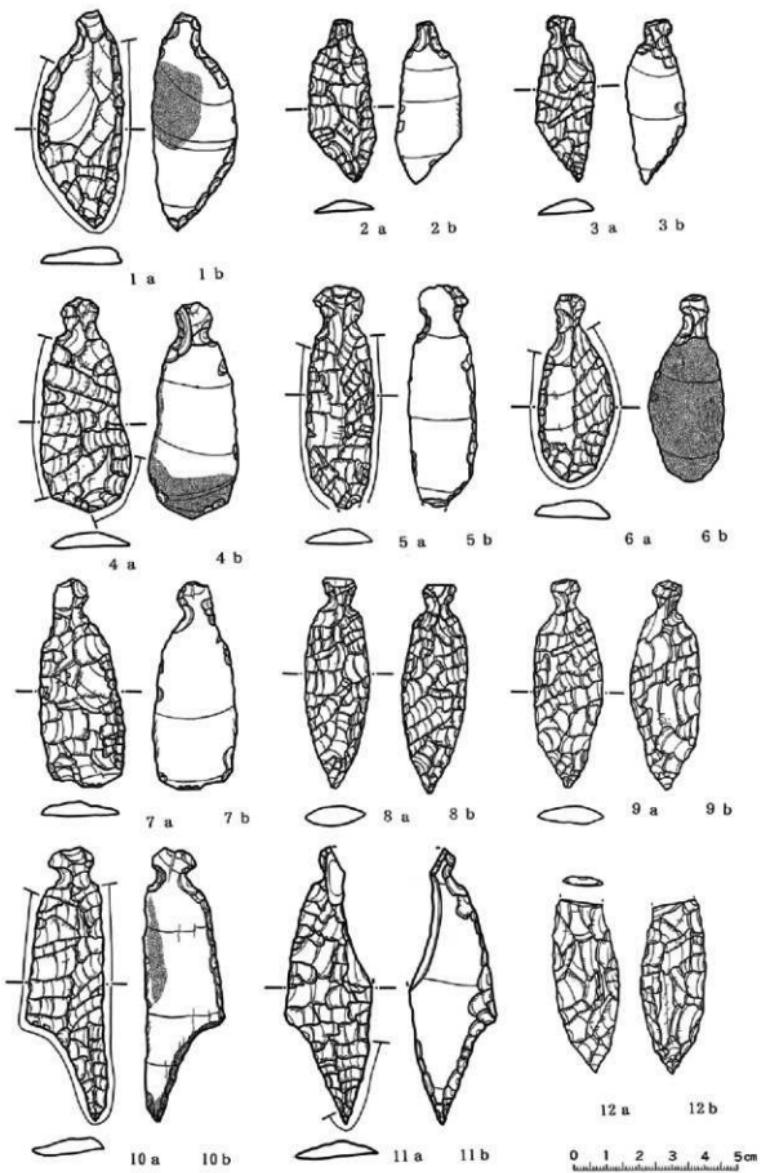
第66図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(3)



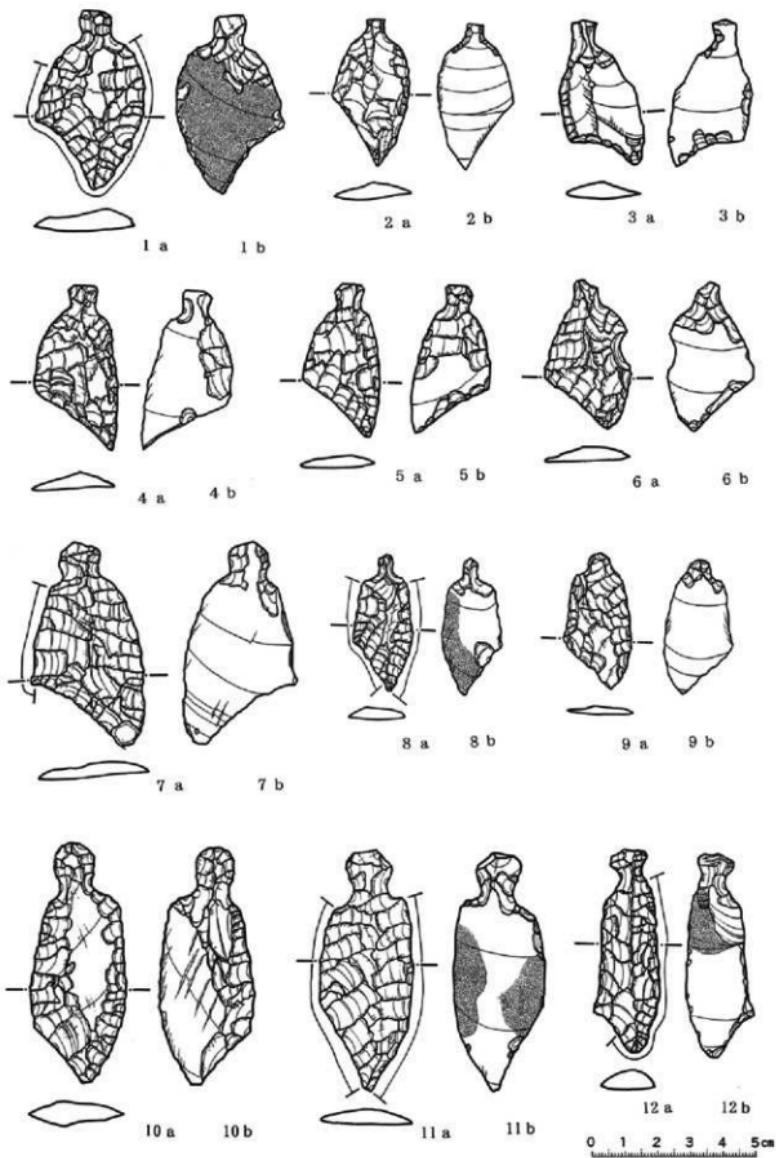
第67図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土II群石器実測図(4)



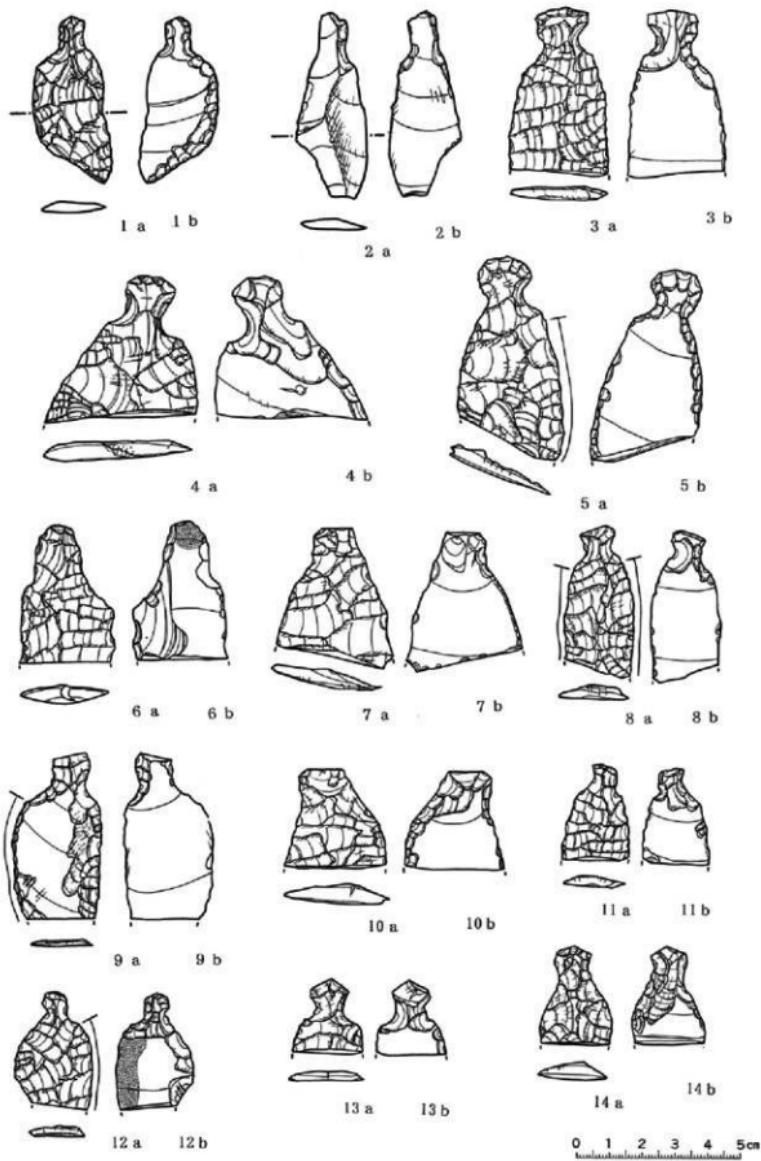
第68図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土II群石器実測図(5)



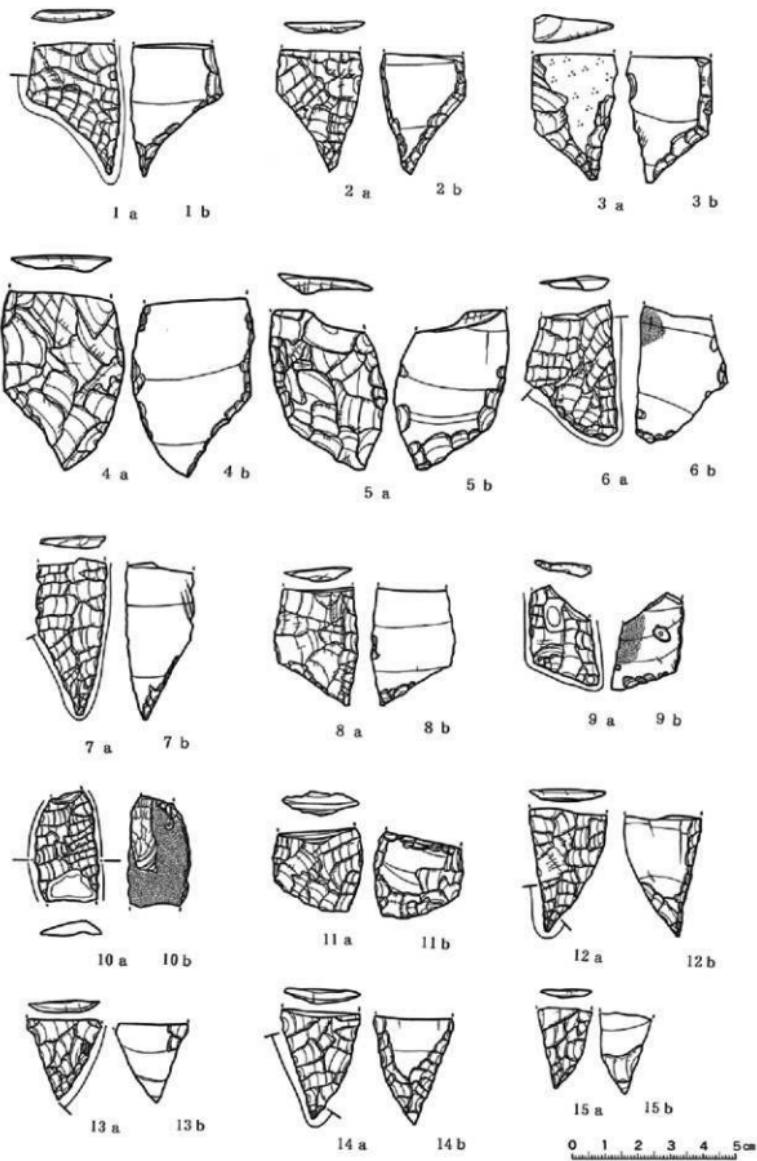
第69図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(6)



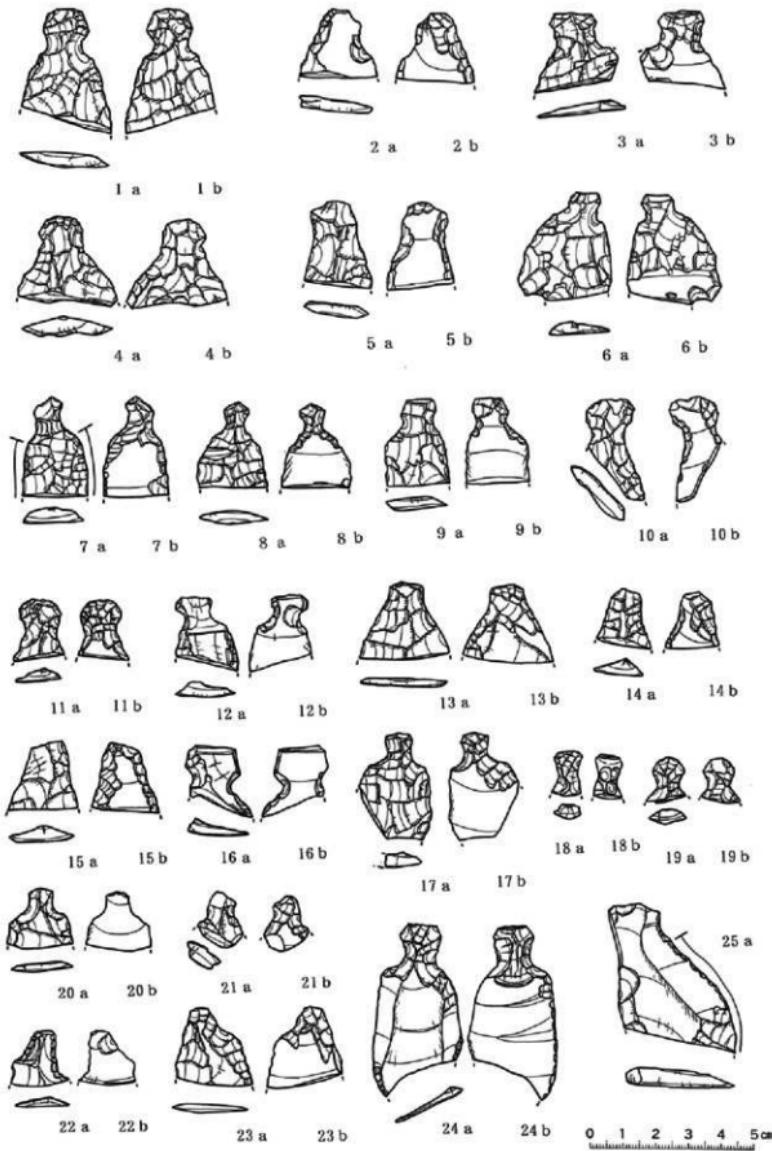
第70図 一ノ坂遺跡第1次調査出土II群石器実測図(7)



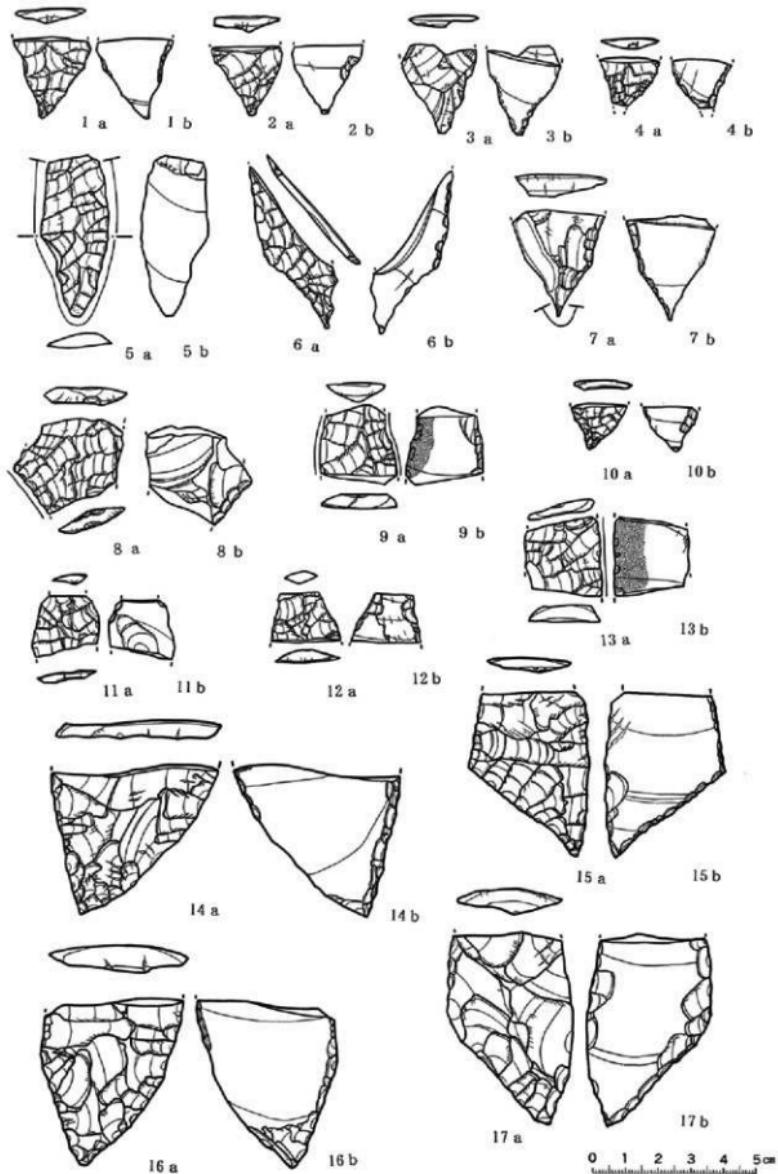
第71図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(8)



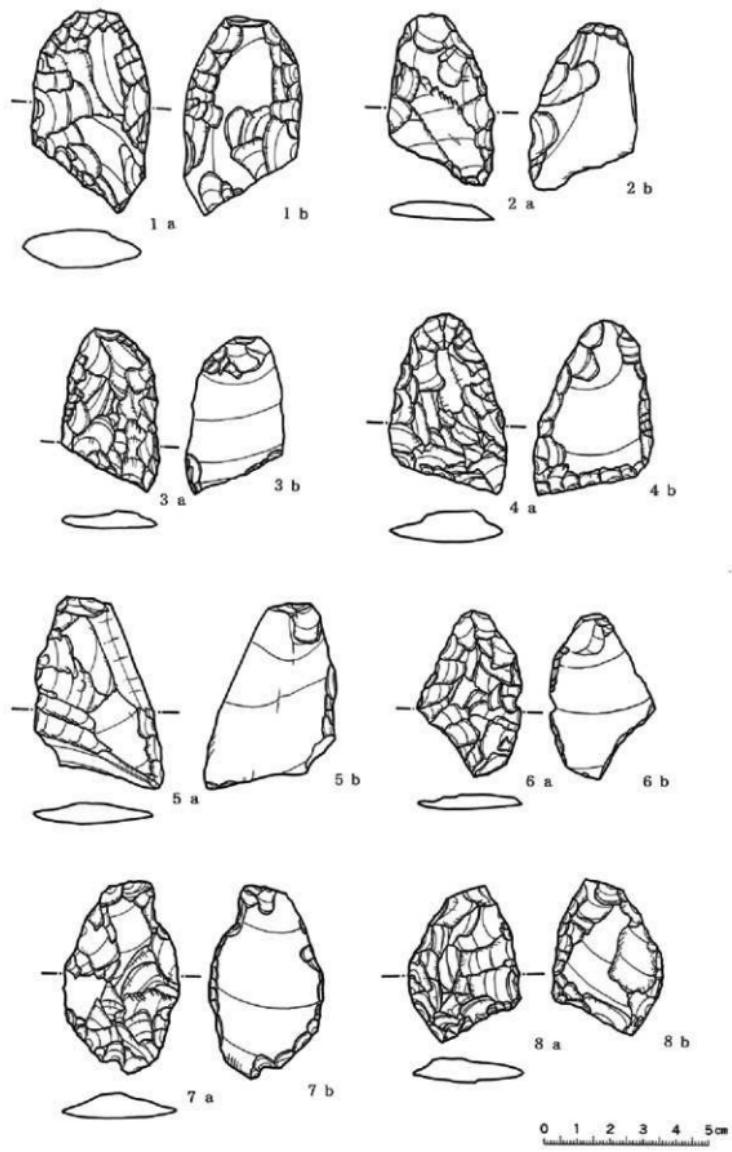
第72図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(9)



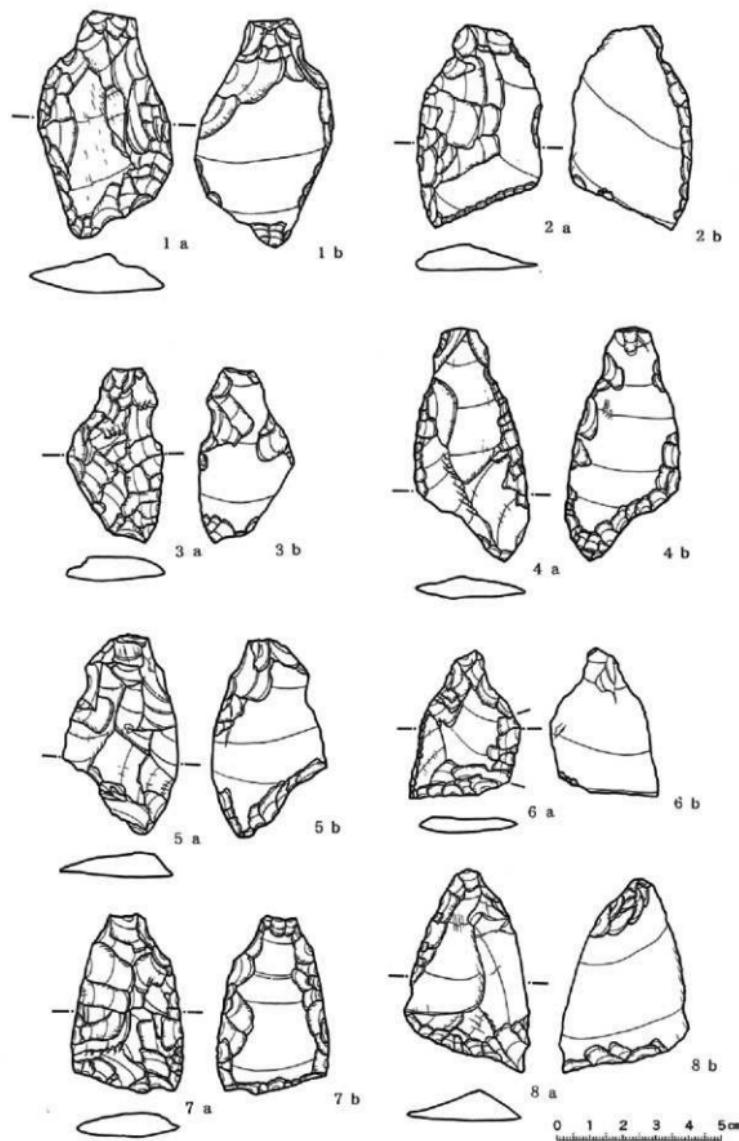
第73図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(10)



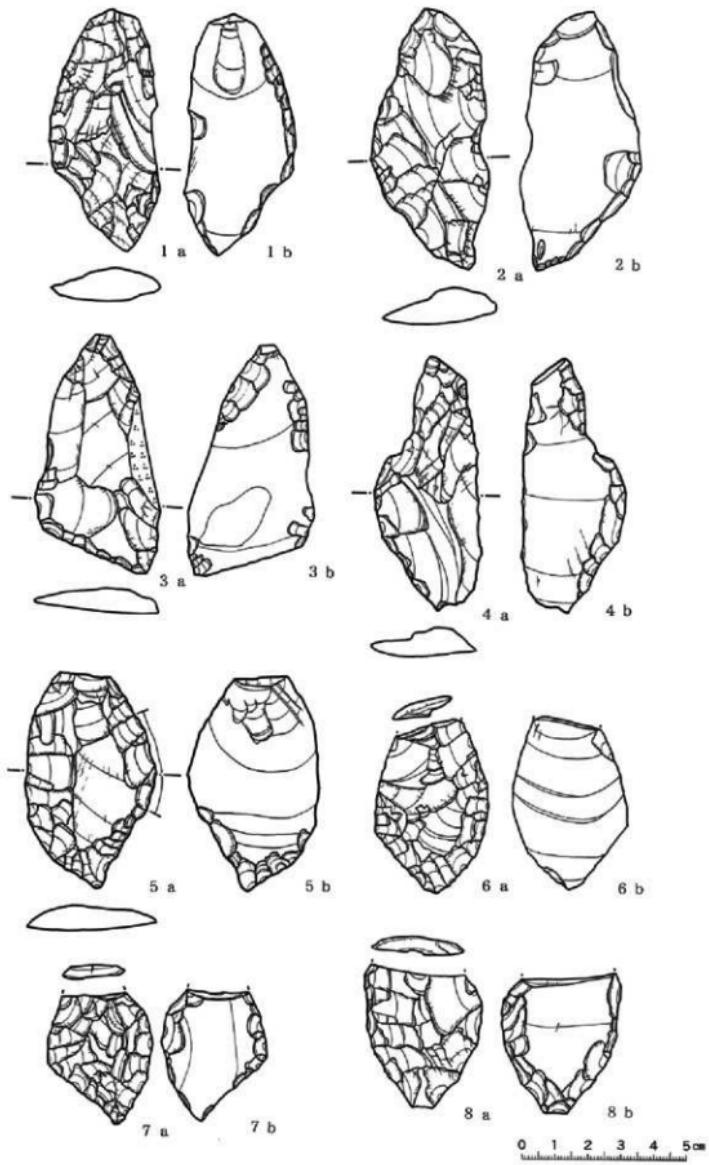
第74図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土II群石器実測図(11)



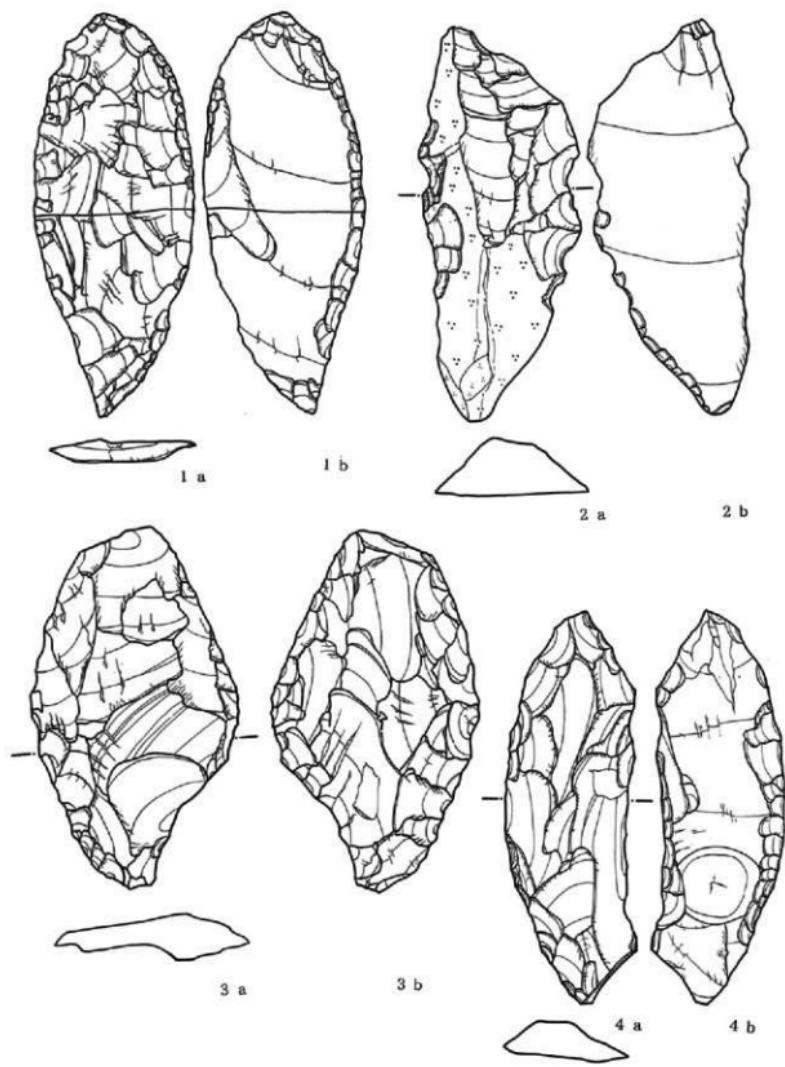
第75図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(12)



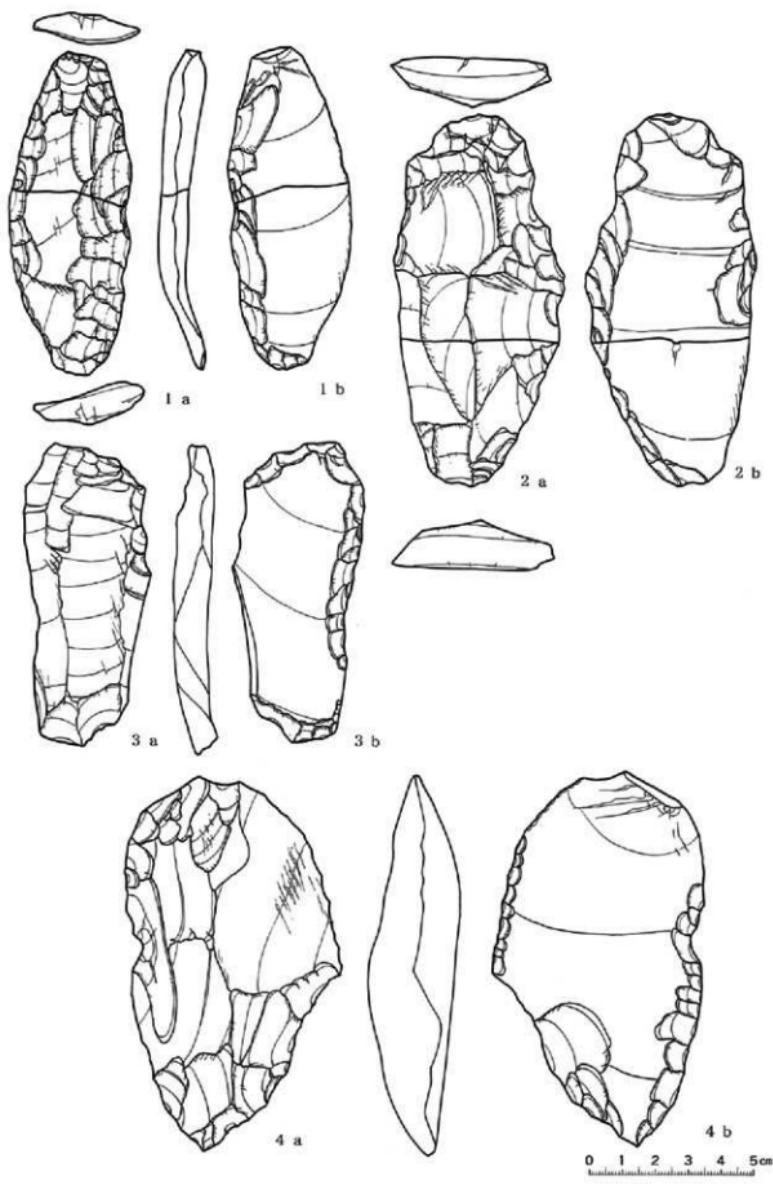
第76図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(13)



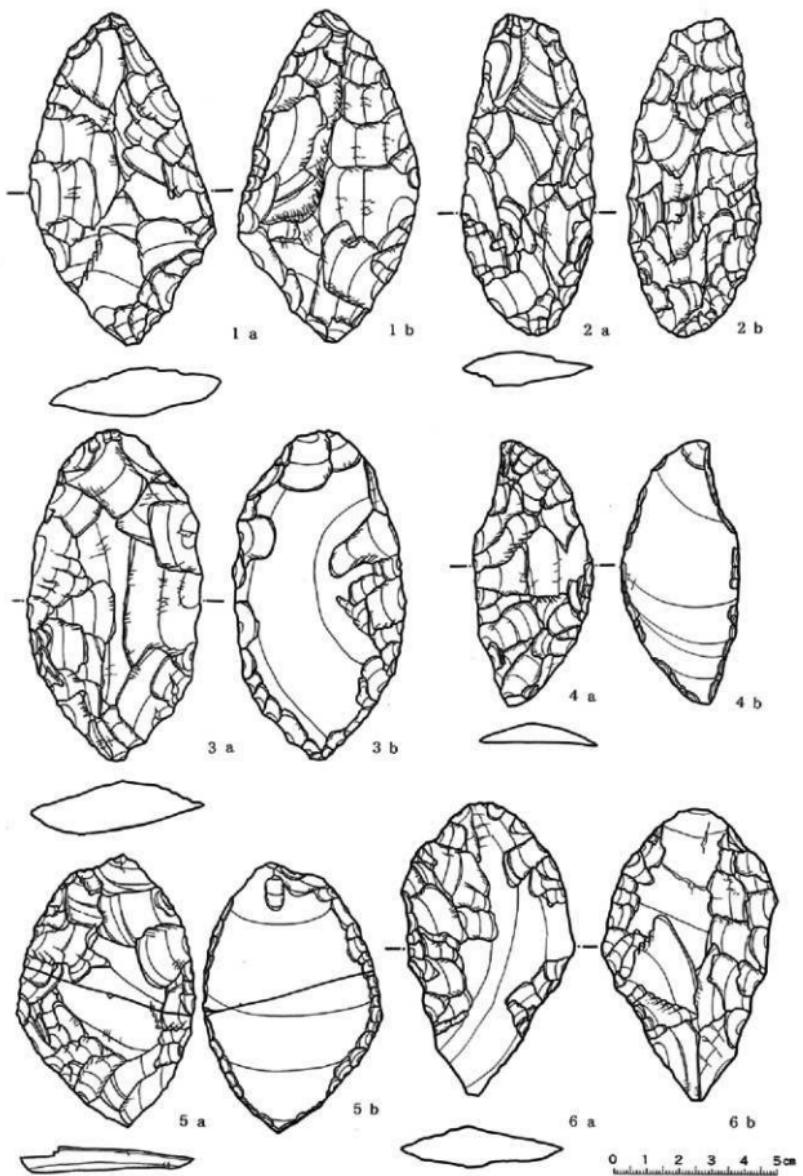
第77図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(14)



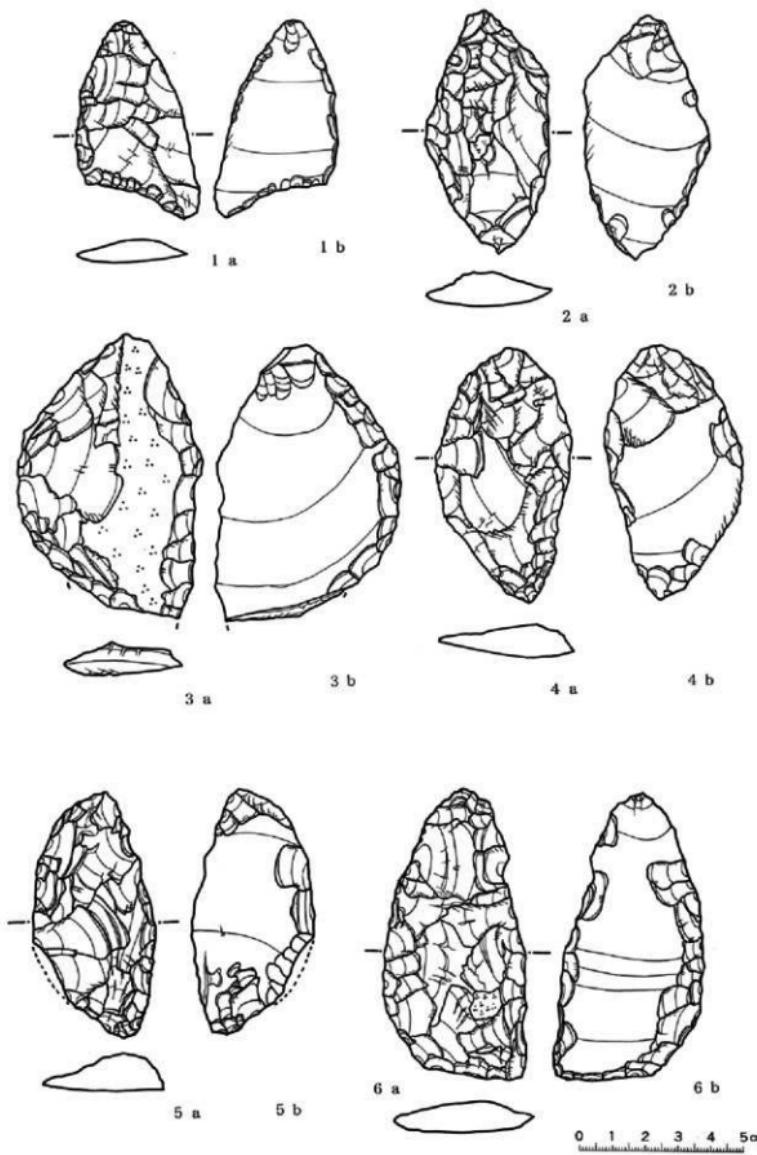
第78図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(15)



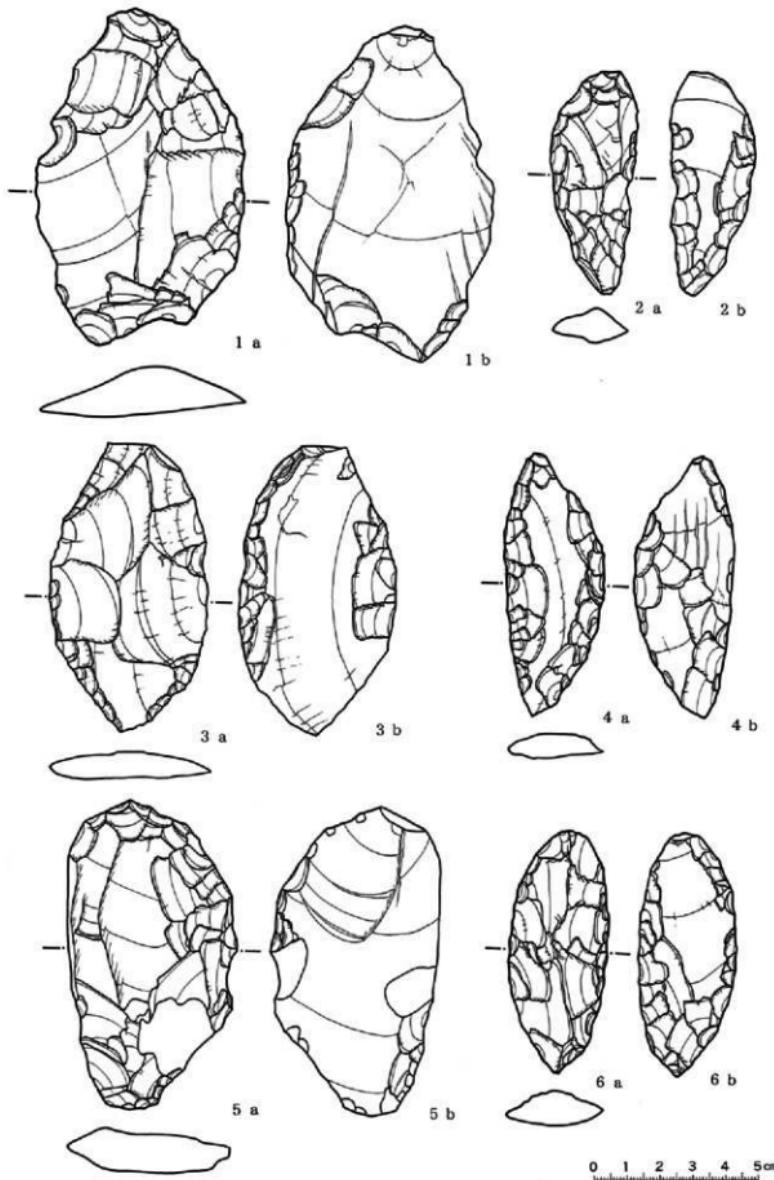
第79図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(16)



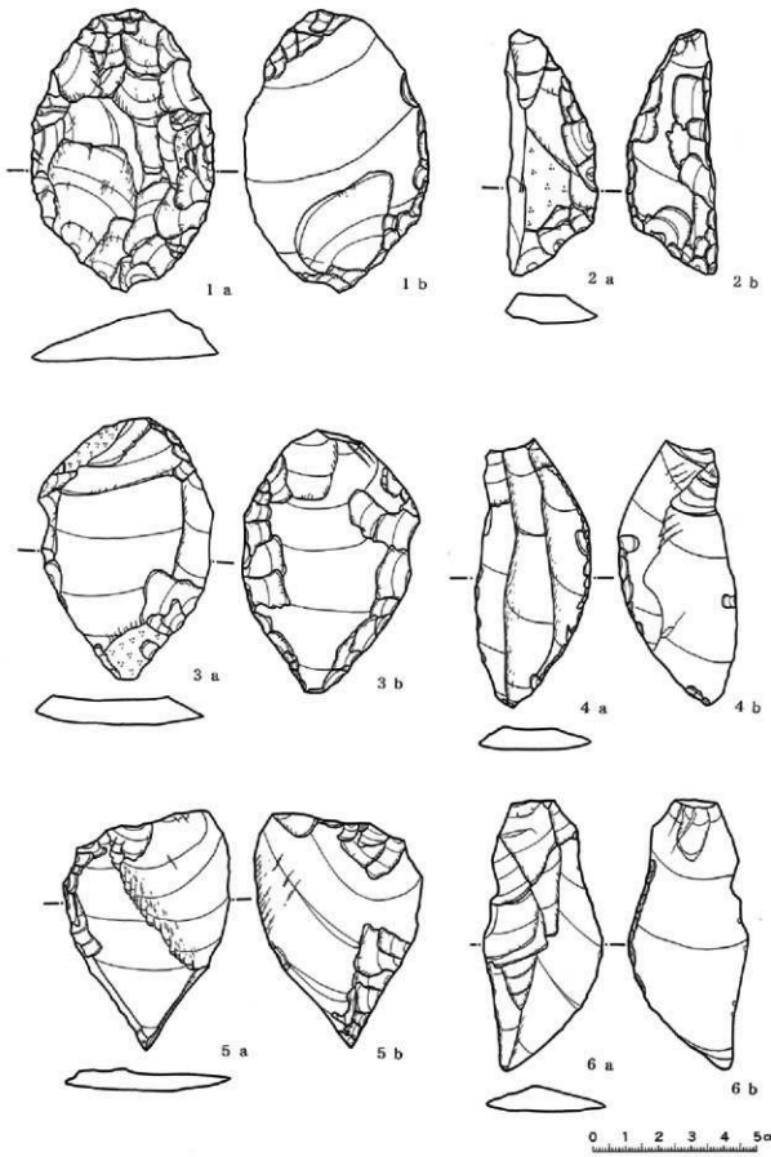
第80図 一ノ坂遺跡第1次調査出土Ⅱ群石器実測図(17)



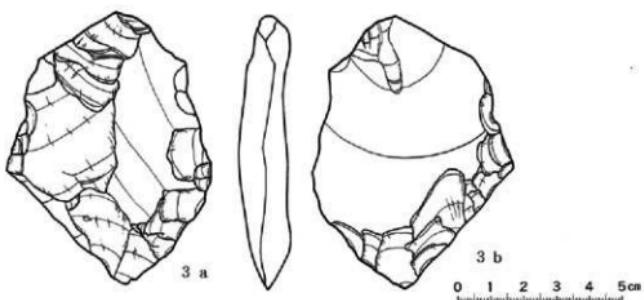
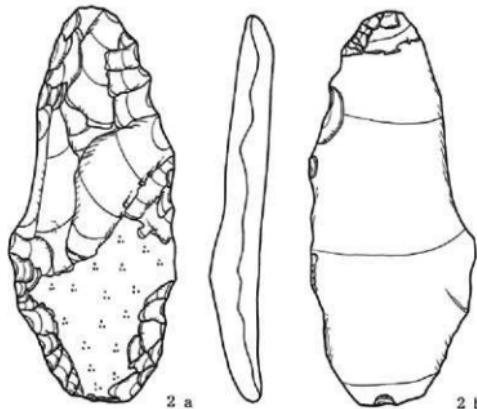
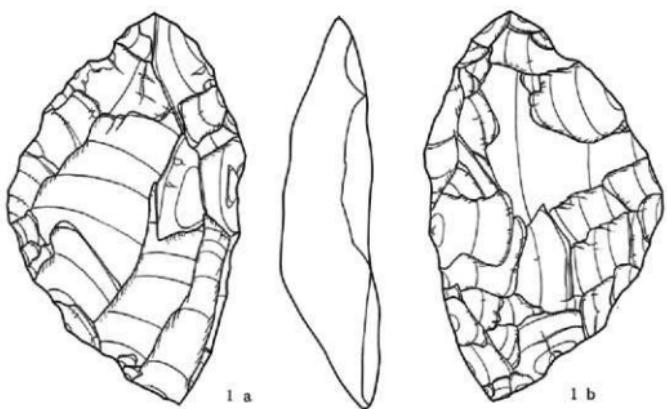
第81図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(18)



第82図 一ノ坂遺跡第1次調査出土Ⅱ群石器実測図(19)



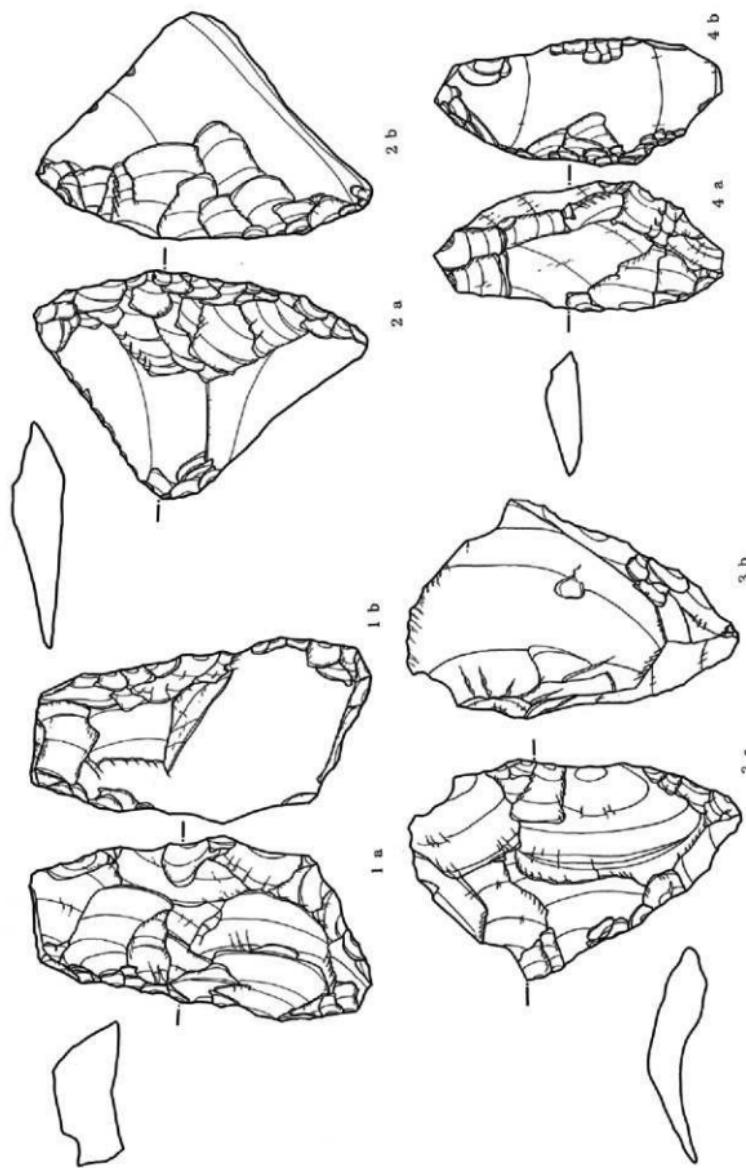
第83図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(20)

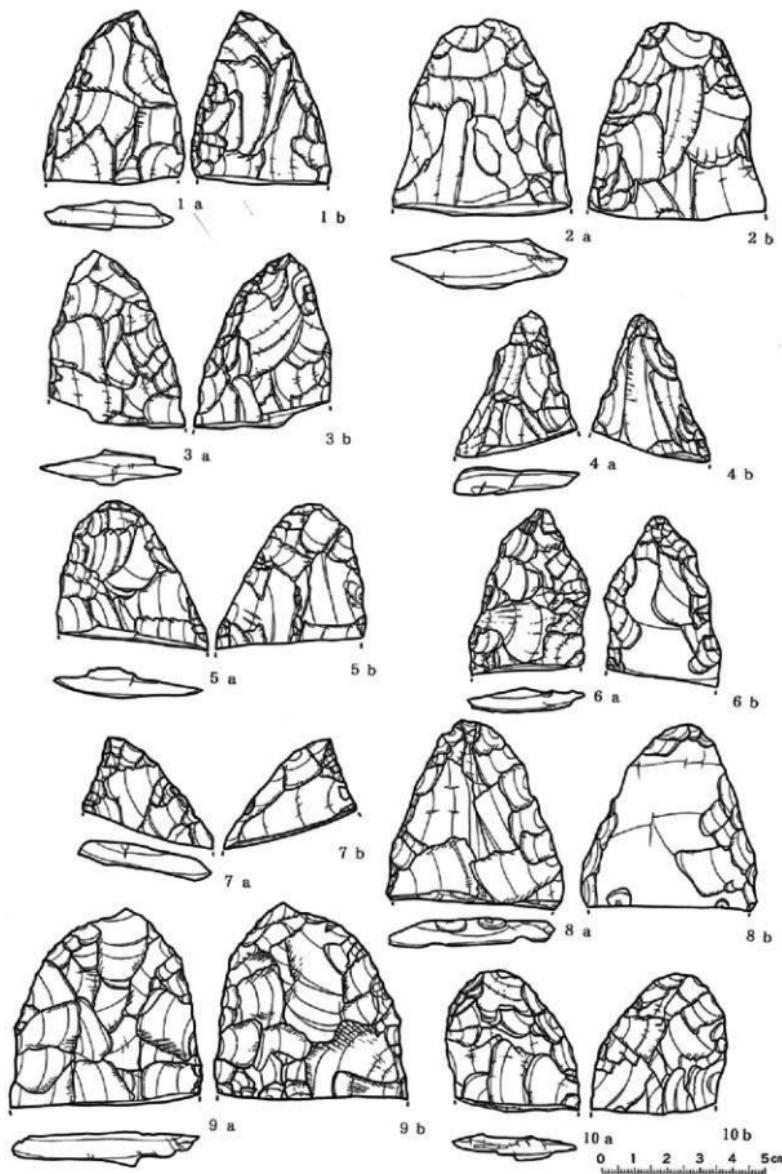


第84図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(21)

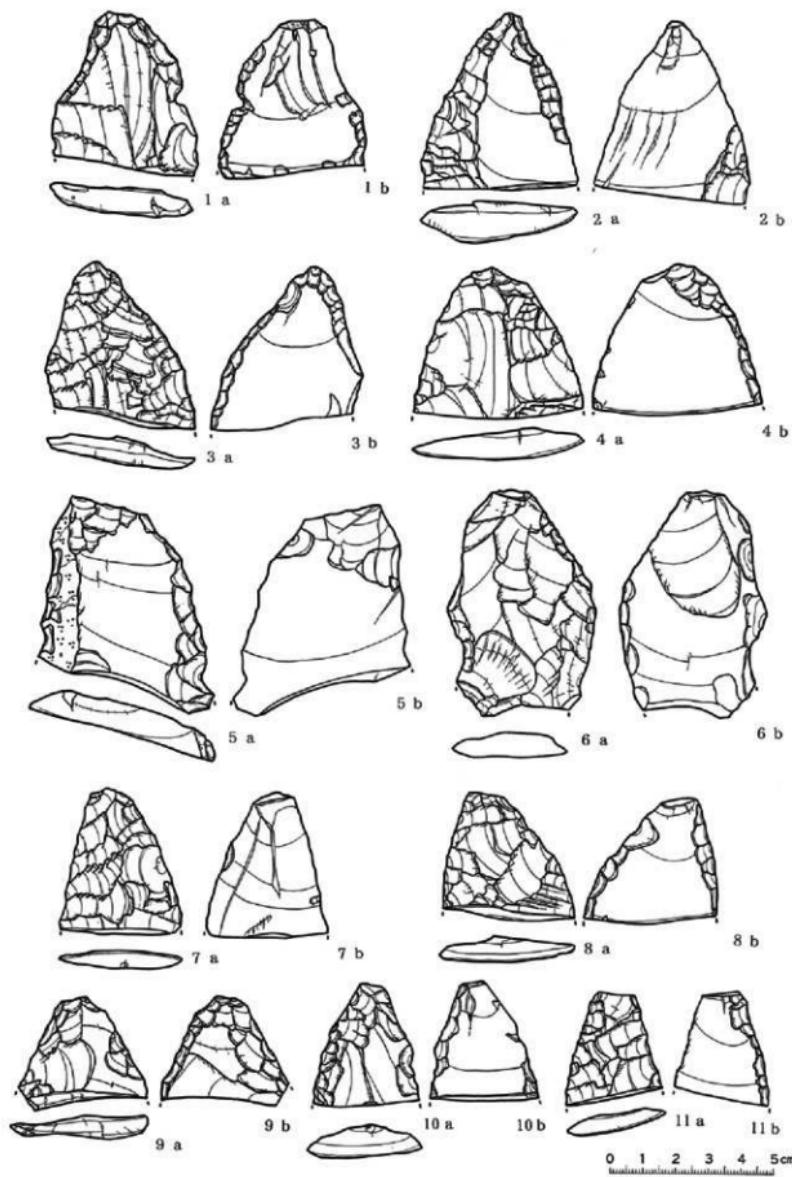
第85図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(22)

0 , 1 , 2 , 3 , 4 , 5 cm

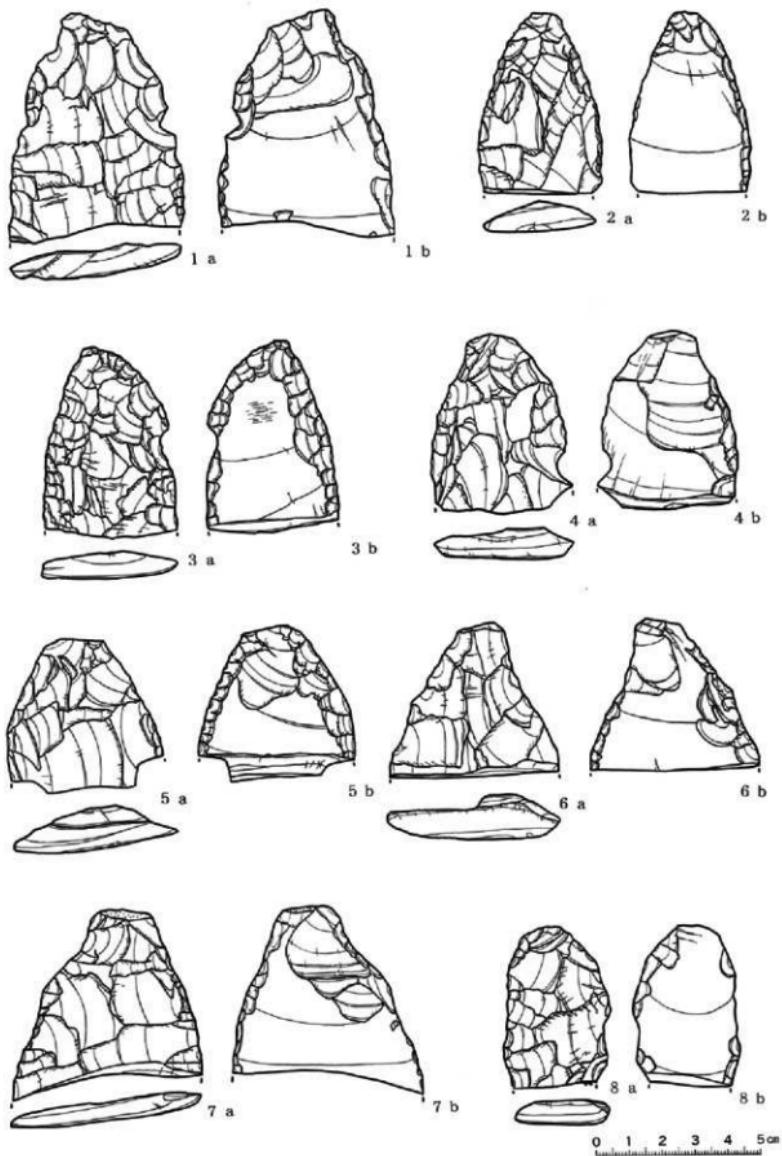




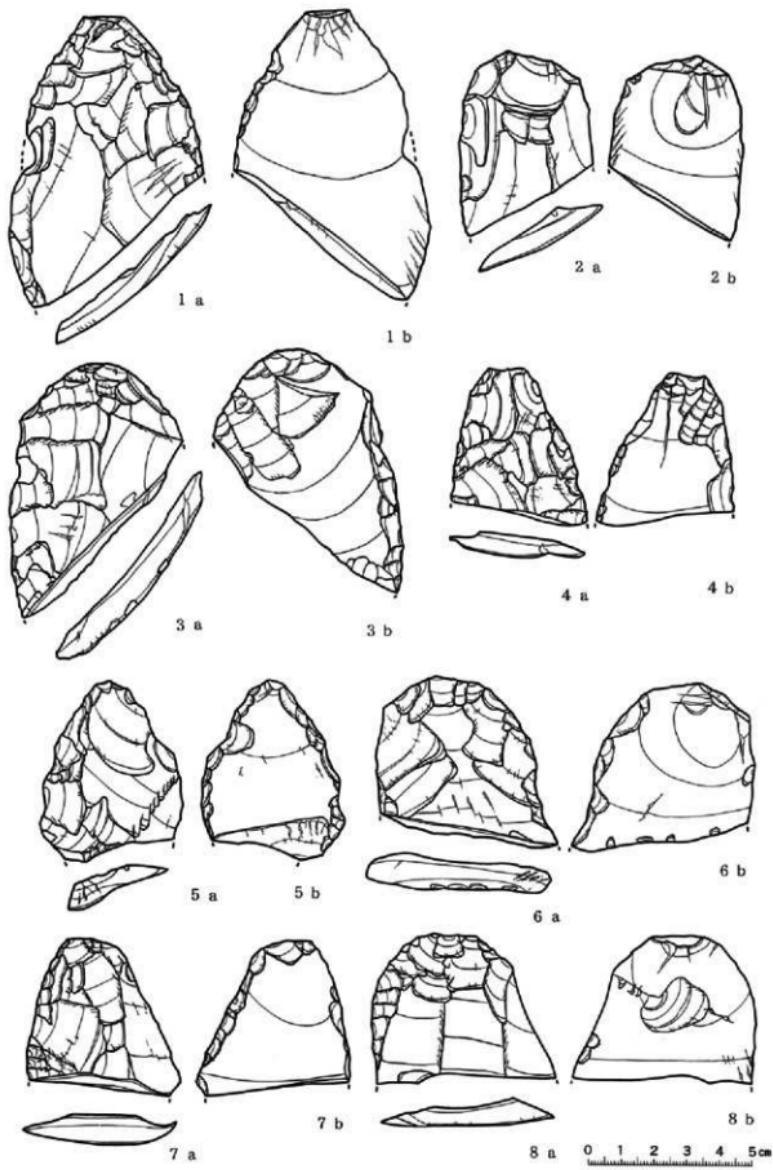
第86図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(23)



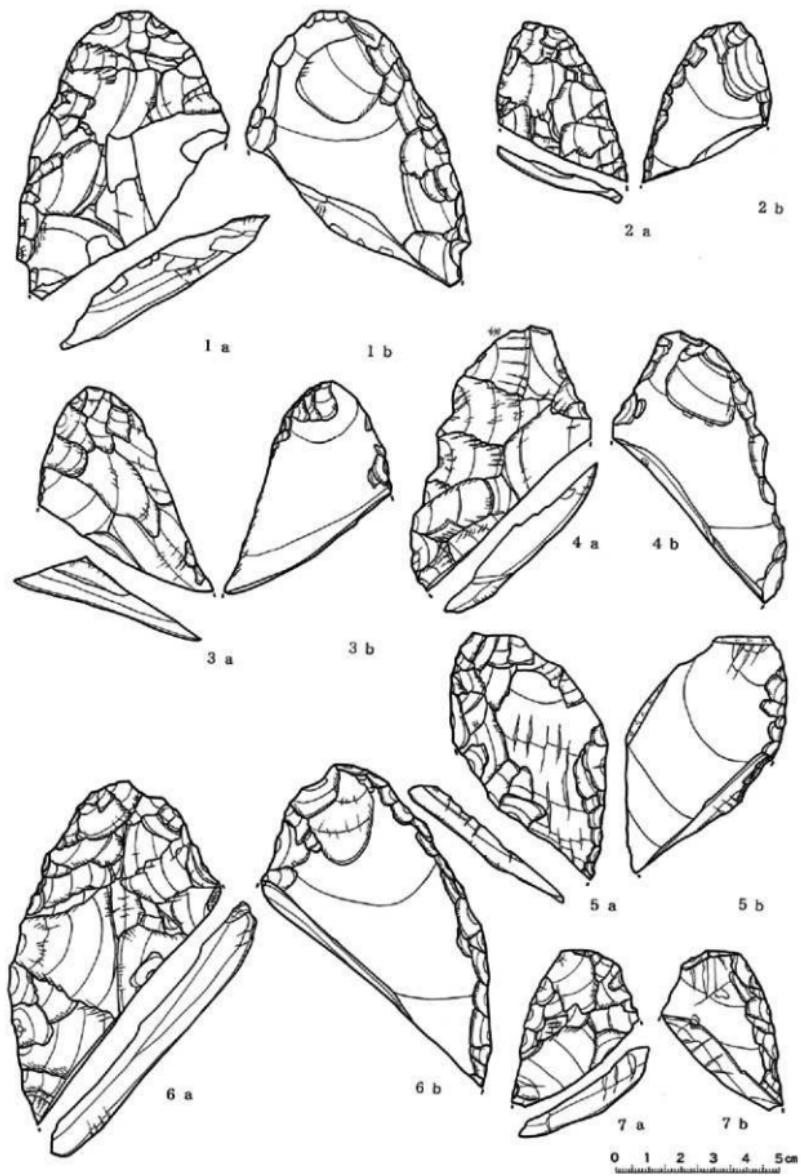
第87図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(24)



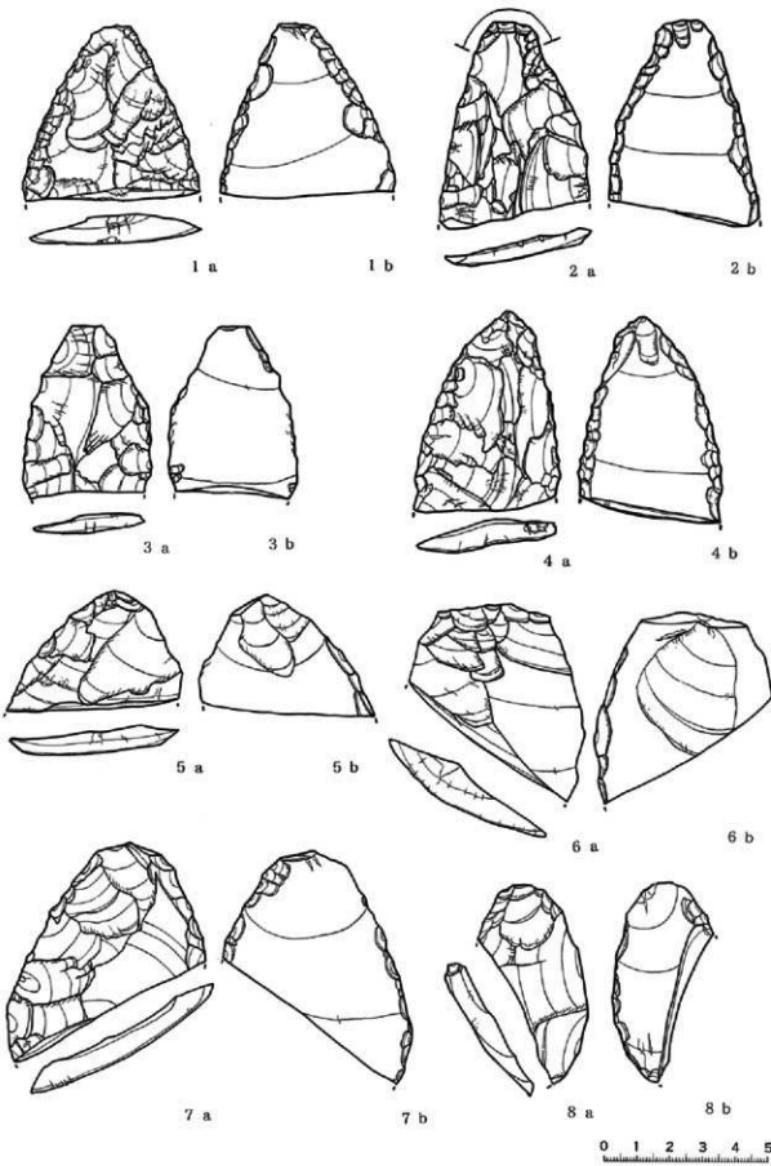
第88図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(25)



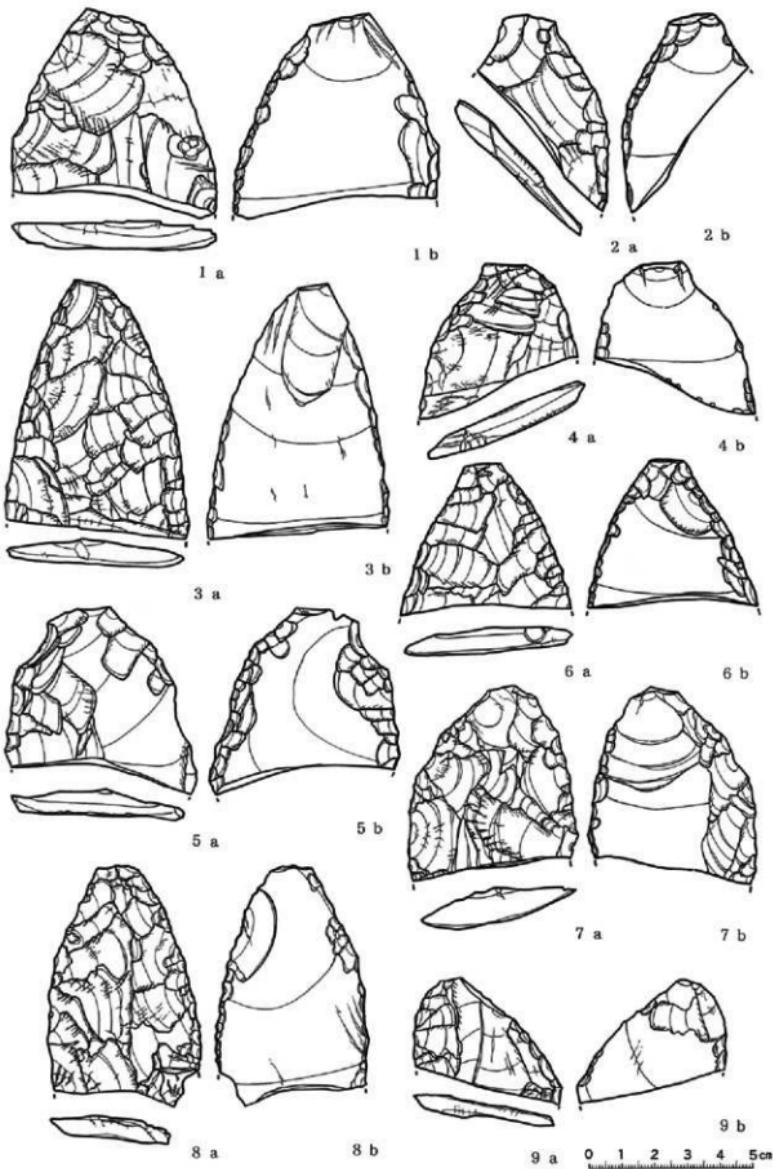
第89図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(26)



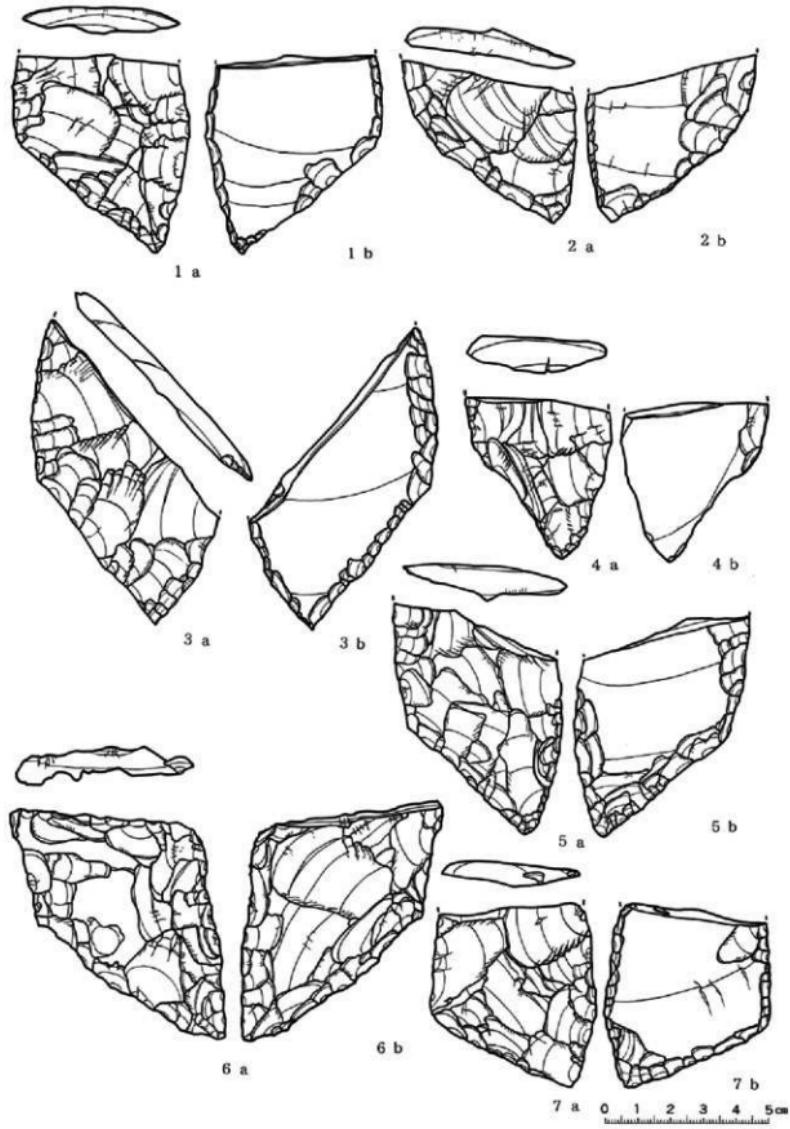
第90図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(27)



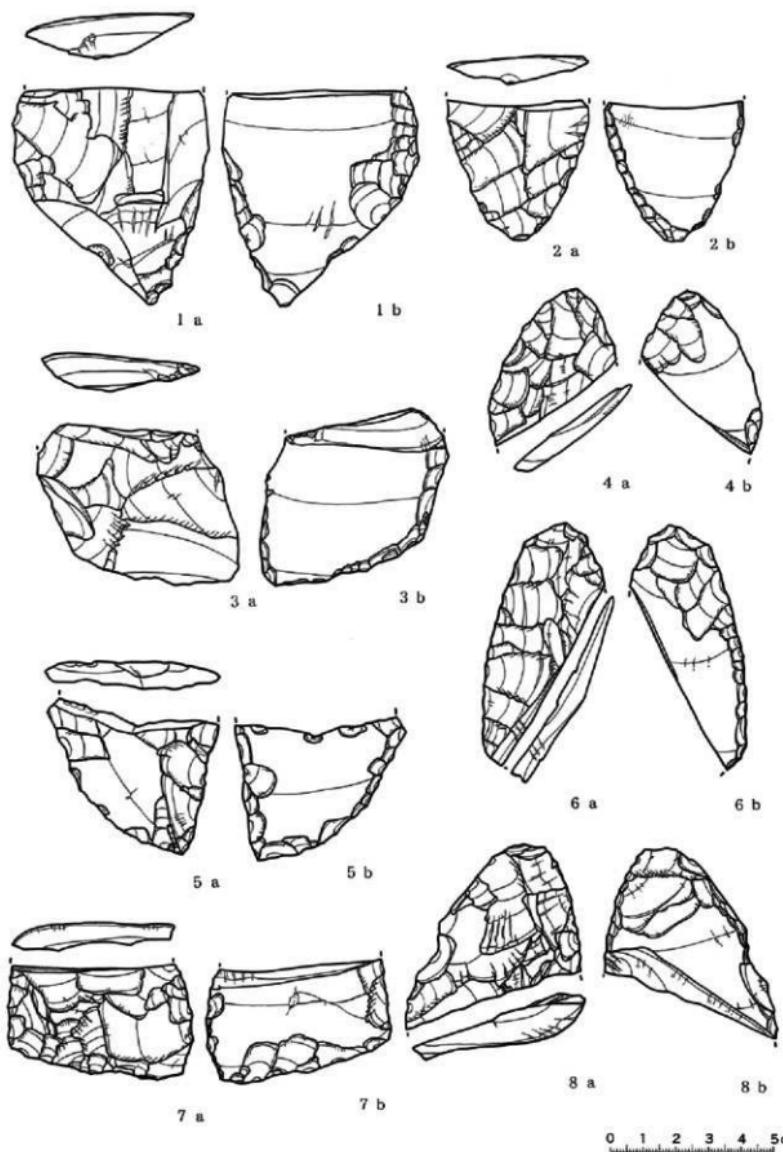
第91図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(28)



第92図 一ノ坂遺跡第1次調査出土II群石器実測図(29)



第93図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土Ⅱ群石器実測図(30)



第94図 一ノ坂遺跡第Ⅰ次調査出土II群石器実測図(31)